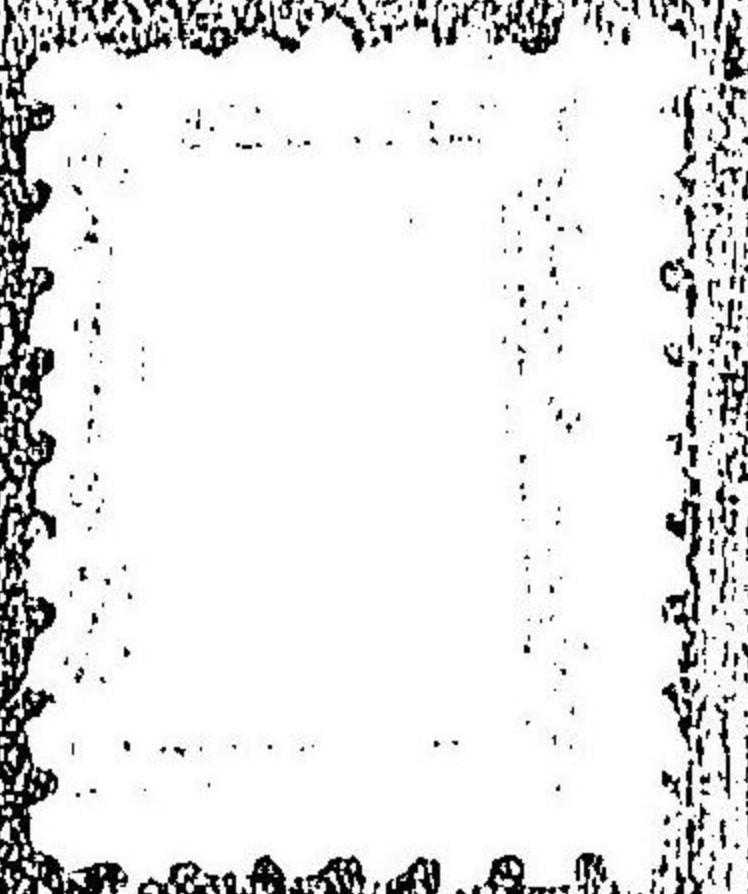
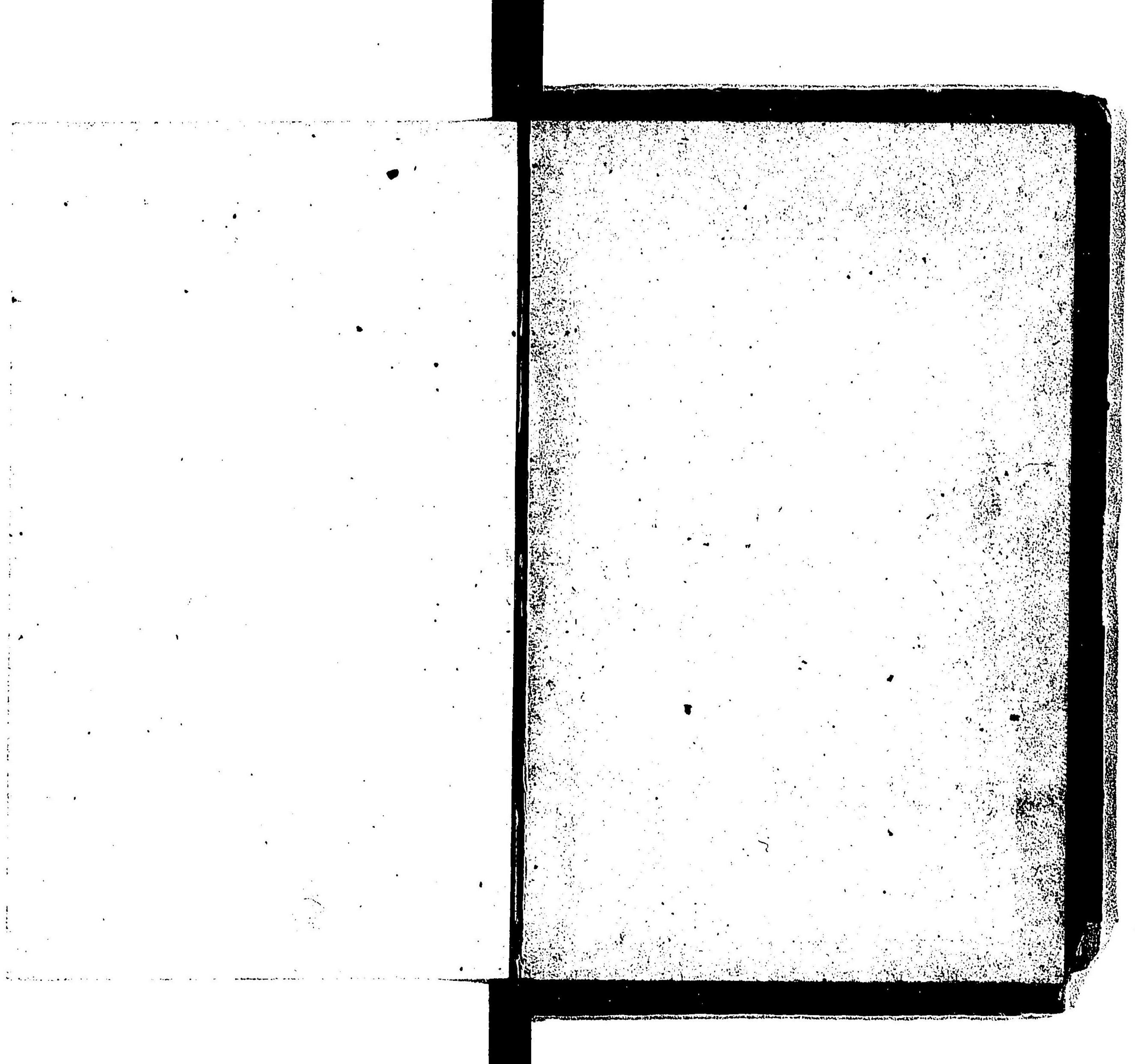


禮  
儀  
學  
全



Small, illegible text or markings on the right edge of the book cover, possibly a spine label or a small note.



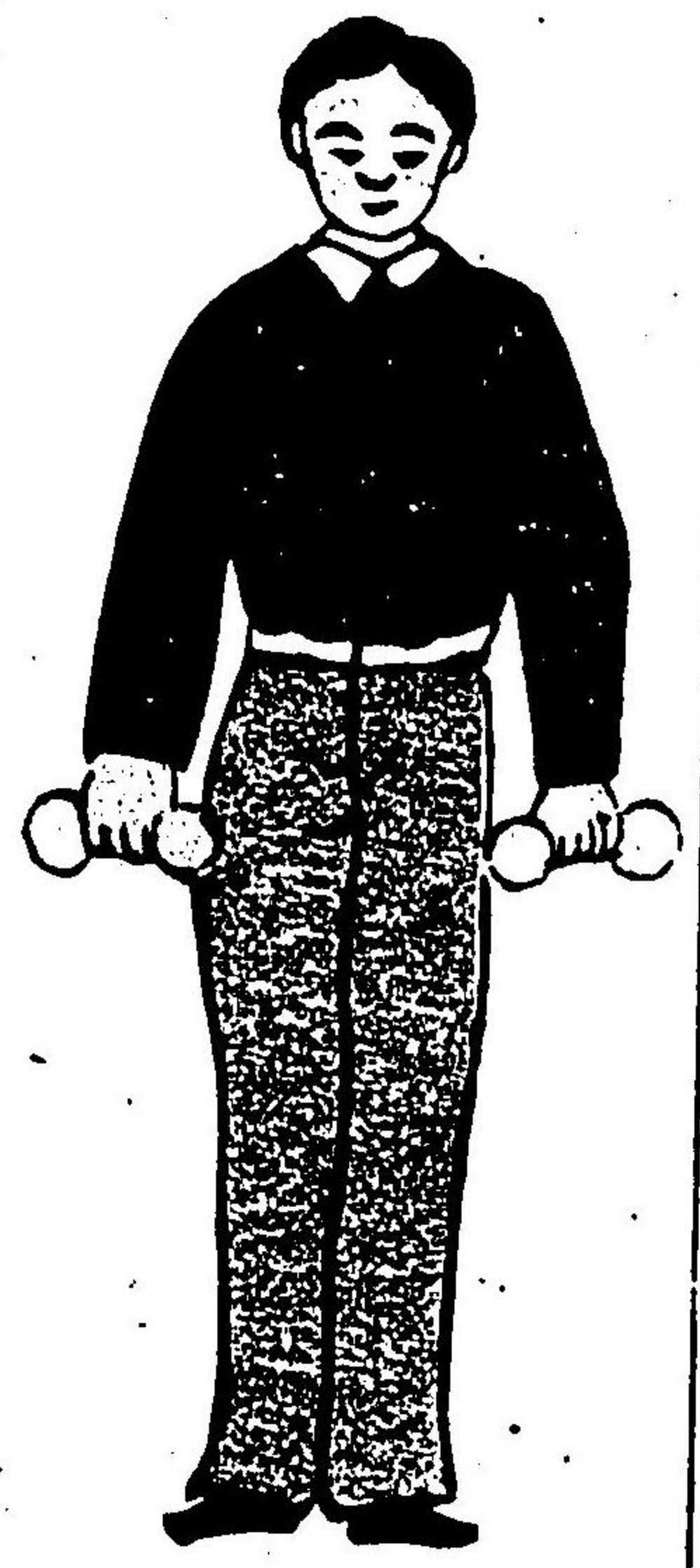
特64  
113

體操學

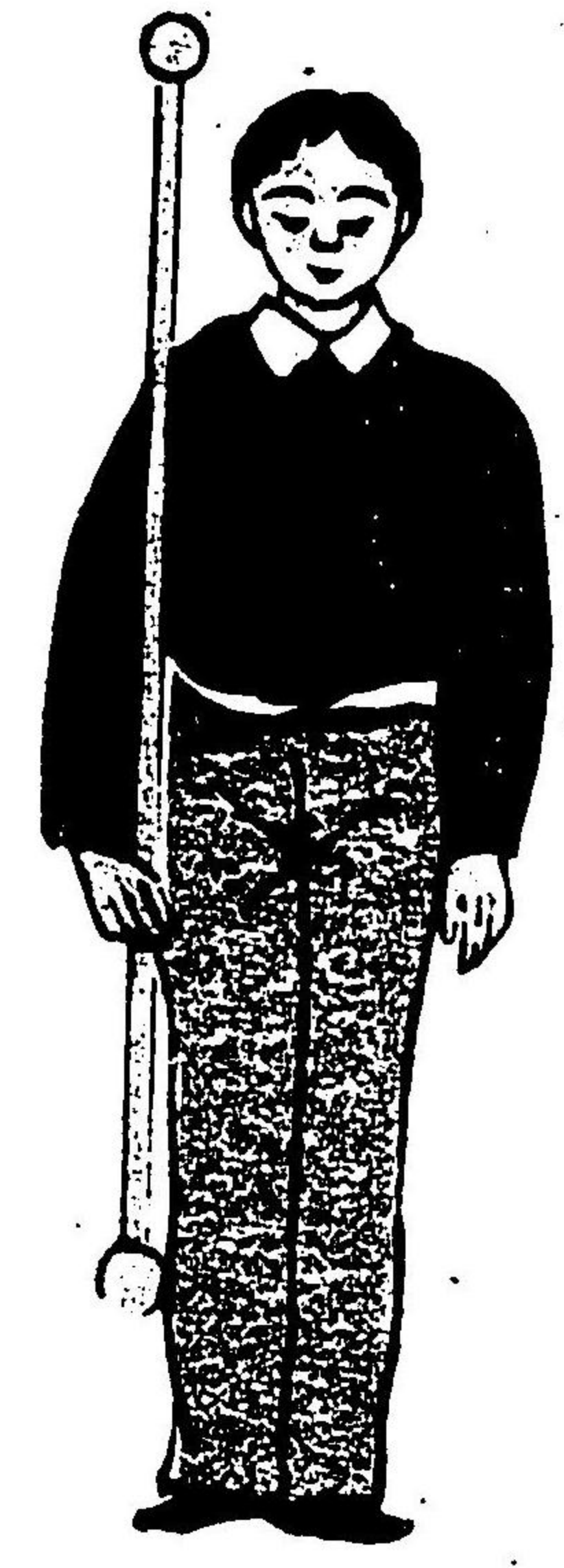


明治十九年六月十五日內務省贈付

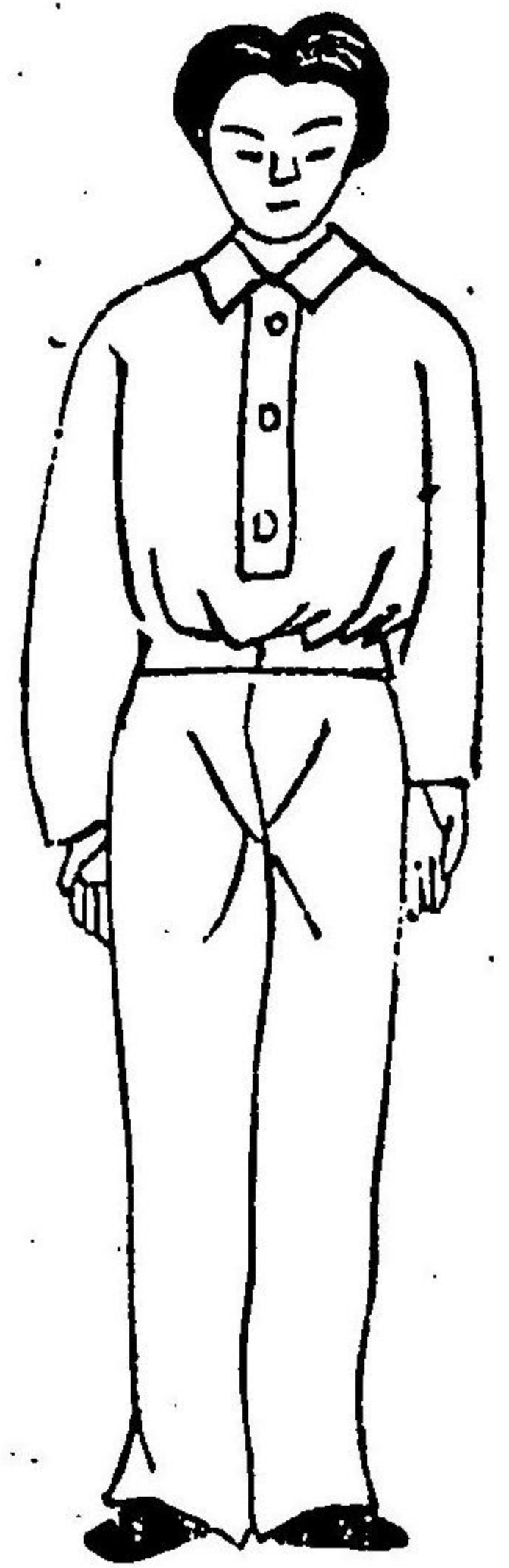
亞鈴  
體操



球竿  
體操



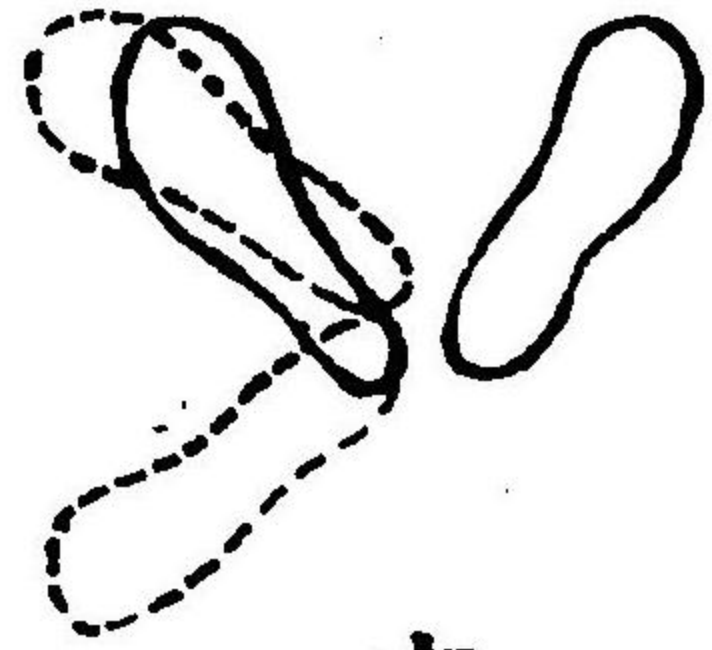
體操術の心得  
 先體操の初めは教師(列ヲ造シ)の号令  
 と下ま時ハ各生徒順ニ居並ぶべし此  
 時教師(氣ヲ着ケ)の令と下せば生徒ハ  
 皆全体と真直みりて兩の踵と近接兩  
 足の先を開き眇をとり兩手の小指と  
 腿のところニ附べし 左の圖の如し



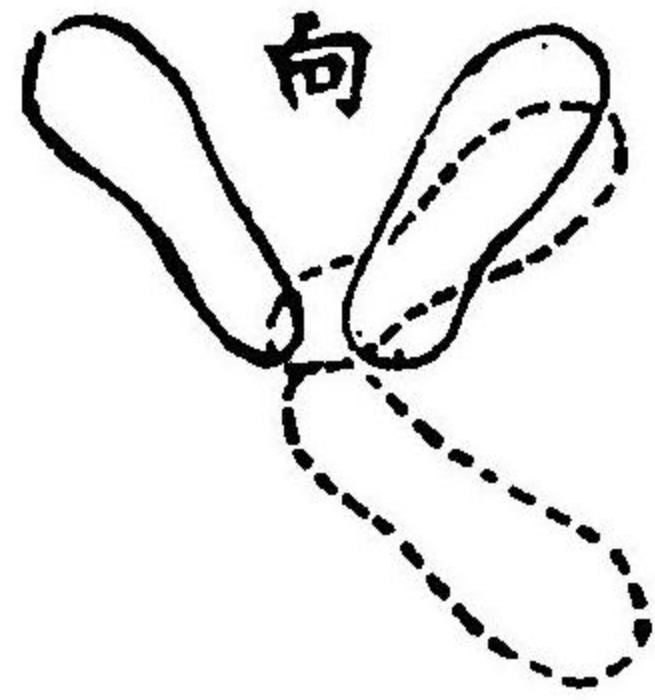
教師(右へ準へ)の令あるときハ各生徒  
 皆頭と右小轉し目と隣りの生徒の肩  
 さきと見るべし又(左り準へ)のときハ  
 左の肩と見るべし

教師(右向ケ)の令と下きときハ身体の  
 重みと左りの踵よよせ足の先とあげ  
 右の足とあげて轉るべし又(左向ケ)の  
 ときハ右の踵と知るべし

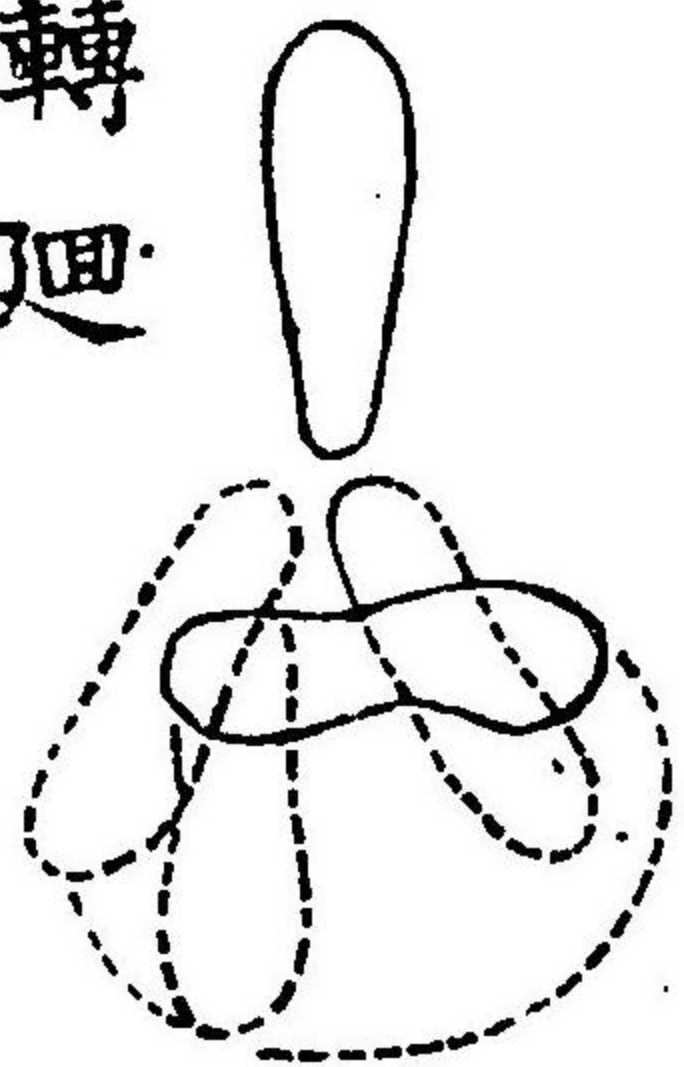
左向



右向



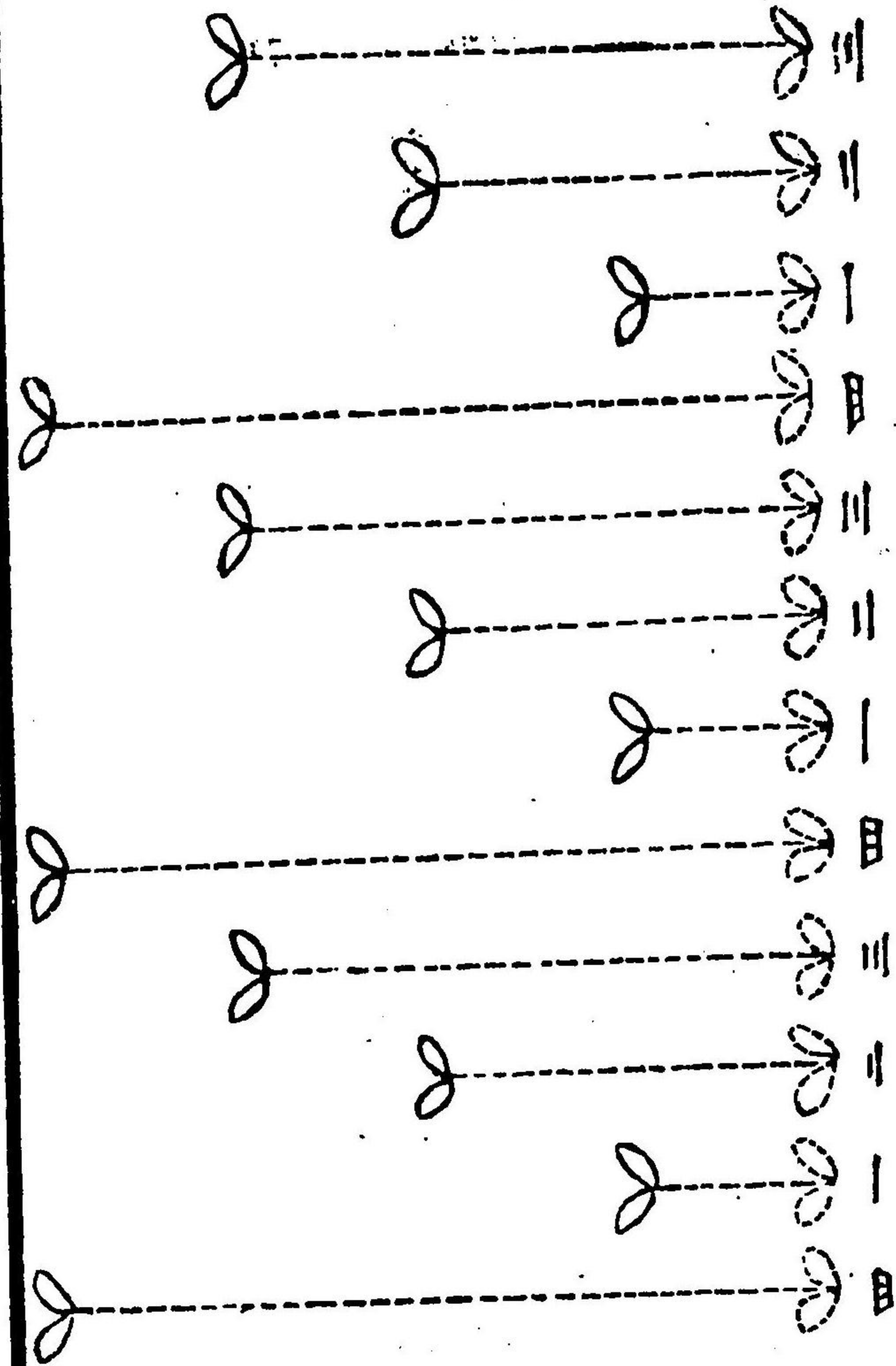
轉廻



教師(足ぶと進メ)の令あるときハ左リ  
の足よりさき小踏出キベ一又(全隊止  
シ)と令と下キときハ其足の前ヨ出  
るところへ後の足とはこぶべ一  
教師番号の令と下キときハ首位ヨあ  
る生徒より順ヨ四一三等の番号と  
呼ぶベ一但し其番号と唱ふるとき

ハ其頭を少し左リヨふつてのふべし  
教師(開ケ進メ)の令あるときハ各生徒  
ハ其番号のかわヨ從ヒ大股ヨ一二三  
四と足と進めて自分の位置止るべし  
教師(休メ)の令あるときハ其位置とは  
なれど足と比ゴとくユ一て休息すべ

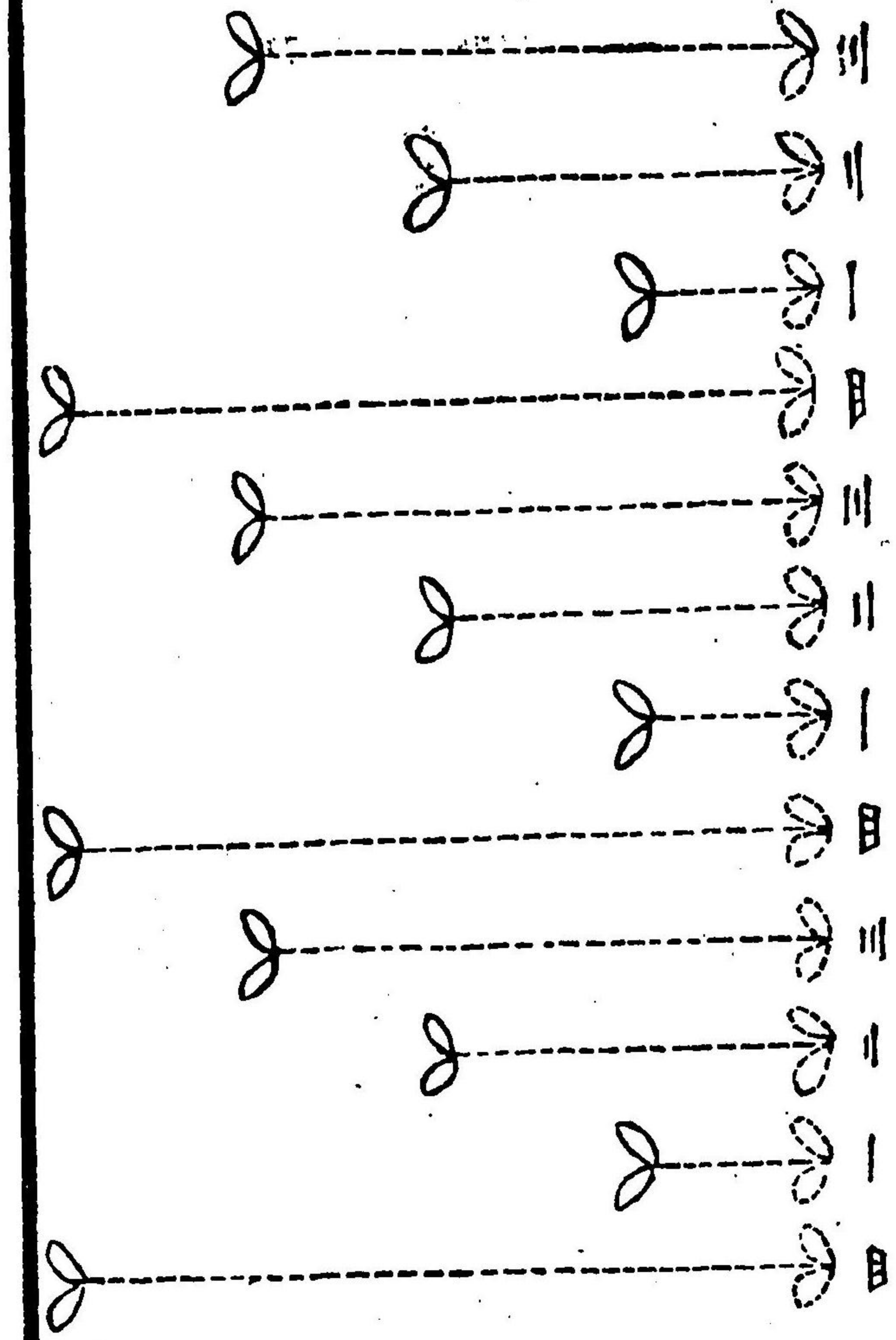
列と開く図



体操をハリてのち教師(分レ)の令と  
 下るときハ左りの足と正面をむけ右  
 の足と一尺ばかり後へ引きその中ほ  
 どと左りの踵を向ハせ左りのひざと  
 まげて手と前を出し右の手と肩まで  
 あげ共よ手とひらき(進メ)の令ふて  
 両手とうつて解散すべし

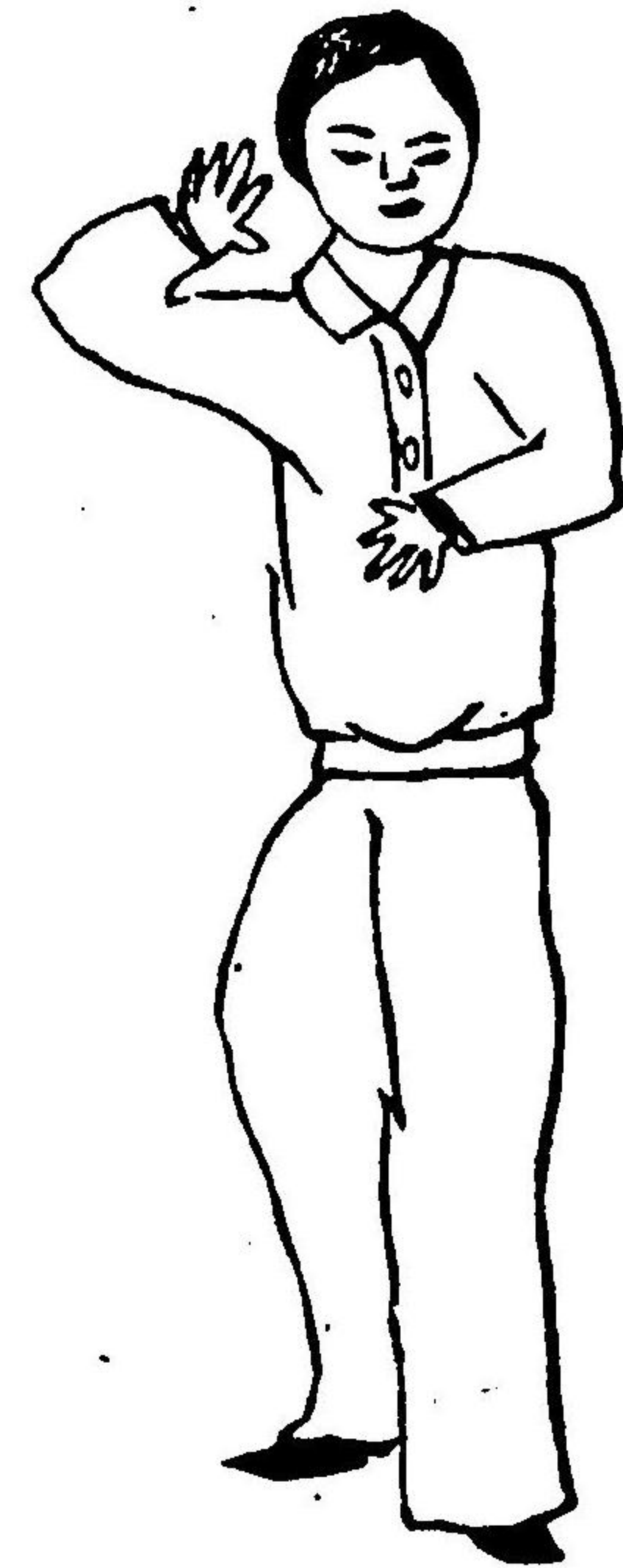
体操をハリてのち教師(合シ)の令と  
 下るときは左りの足と正面をむけ右  
 の足を一尺ばかり後へ引きその中ほ  
 どと左りの踵に向はせ左りのひざと  
 まげて手と前を出し右の手と肩まで  
 あげ共よ手とひらき(進メ)の令ふて  
 両手をうつて解散すべし

開列の図





図が整れ解ち



教師(用意)の令を下せるときは各生徒  
 その運動をなさんとする形をなすべ  
 し又(始め)の令にて運動をはじむべ  
 し教師(止め)の令あればそれまで運  
 動を止むべし若又運動中(尤へ)の令あ  
 るときは中途にてやめ又を止めより  
 運動すべし

矯正術第一節

始め両ひちを  
左右に伸し手

のひらと  
上を向け次

頭上をわきより  
両ひちをのび



▲手を拍てのち  
下をうれて外股

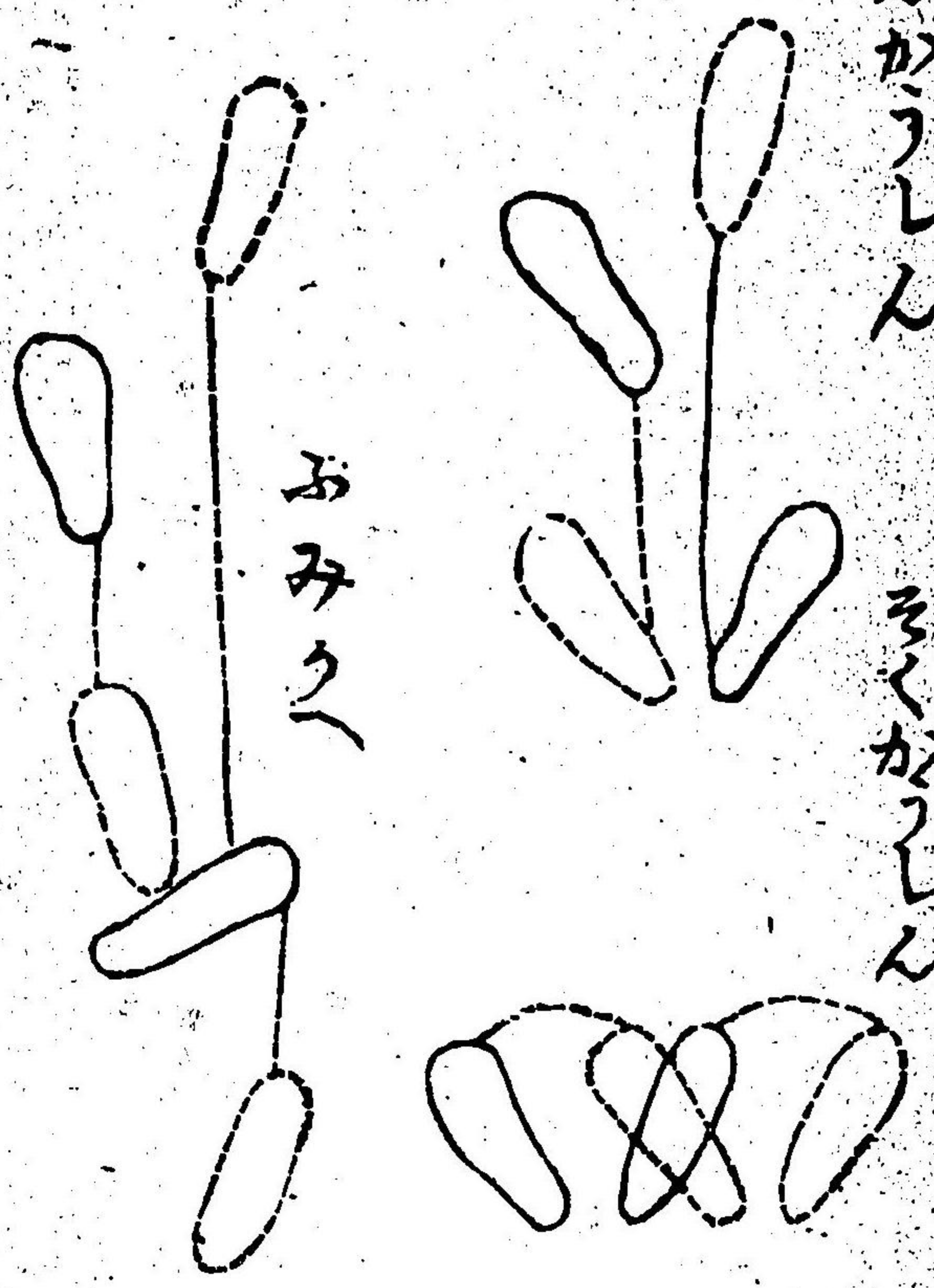
●をきり

べし

せんかうしん

せんかうしん

おみく

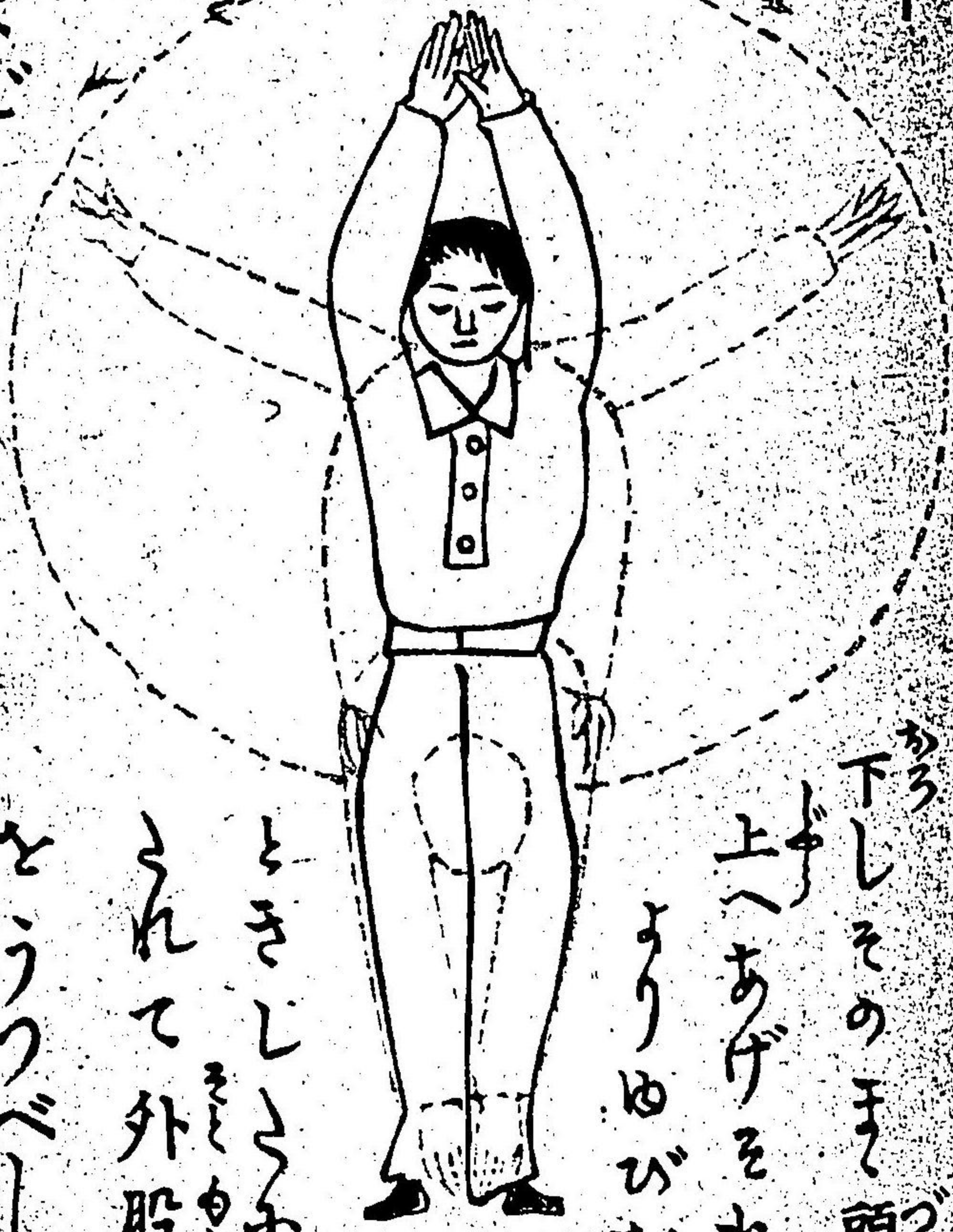


同二節

はじめあや  
指とく

前へみ

ゆひのさき  
を足の  
爪さきまで



下しそのまゝ頭

上へあげそれ  
よりゆびを

ときしこふ  
とれて外股

をうつべし

同三節

始め両ひざを

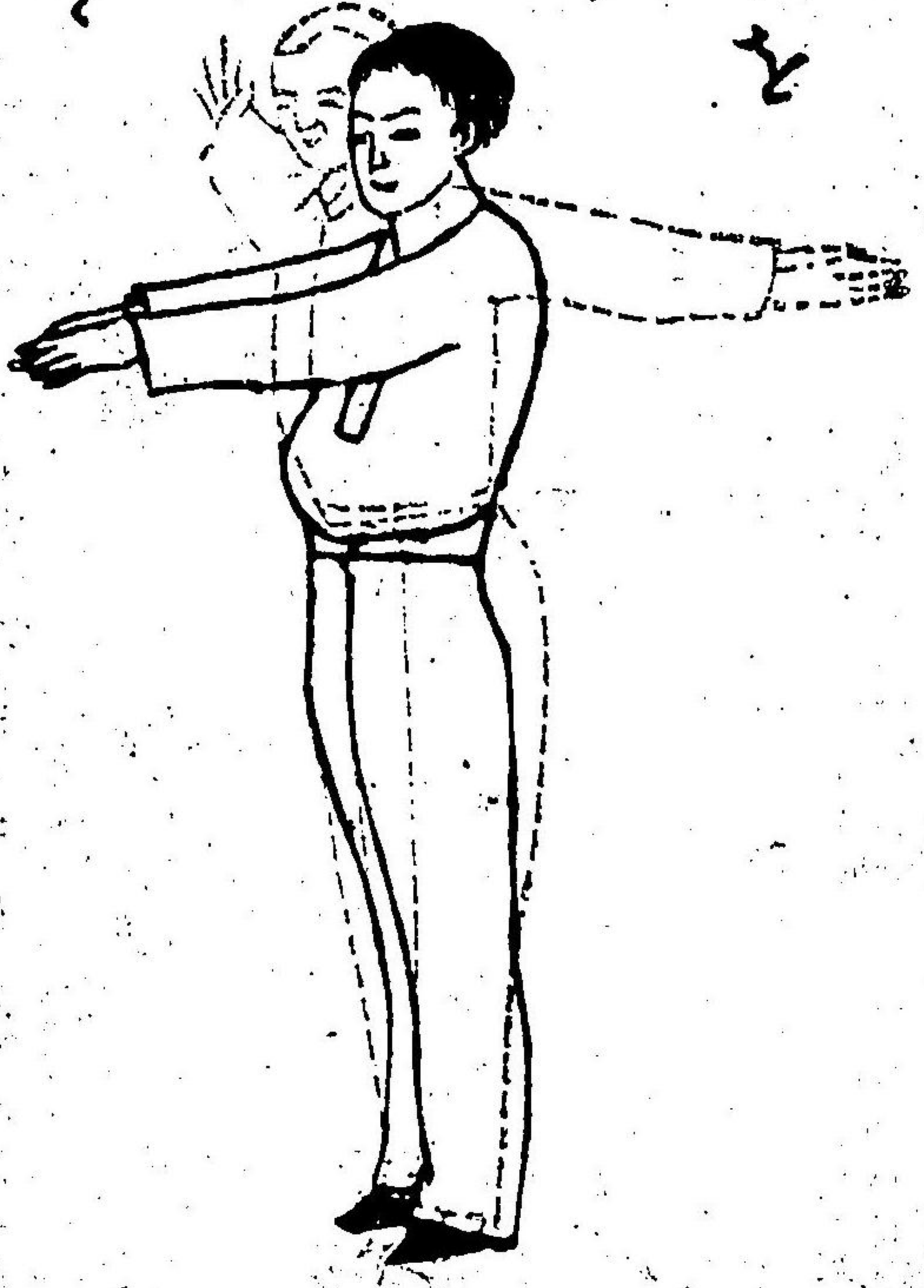
前へのび

次すこしく

きびを

あげて手を

うしろの方へ



同四節

はじめまびきと

あげ

両

ひぢと

伸し頭上へ

あげて手と



うち其まひぢと

まげまゝして左右の

中位より下を十

の字の如し

同五節

始めまびきとあげ身体くまの

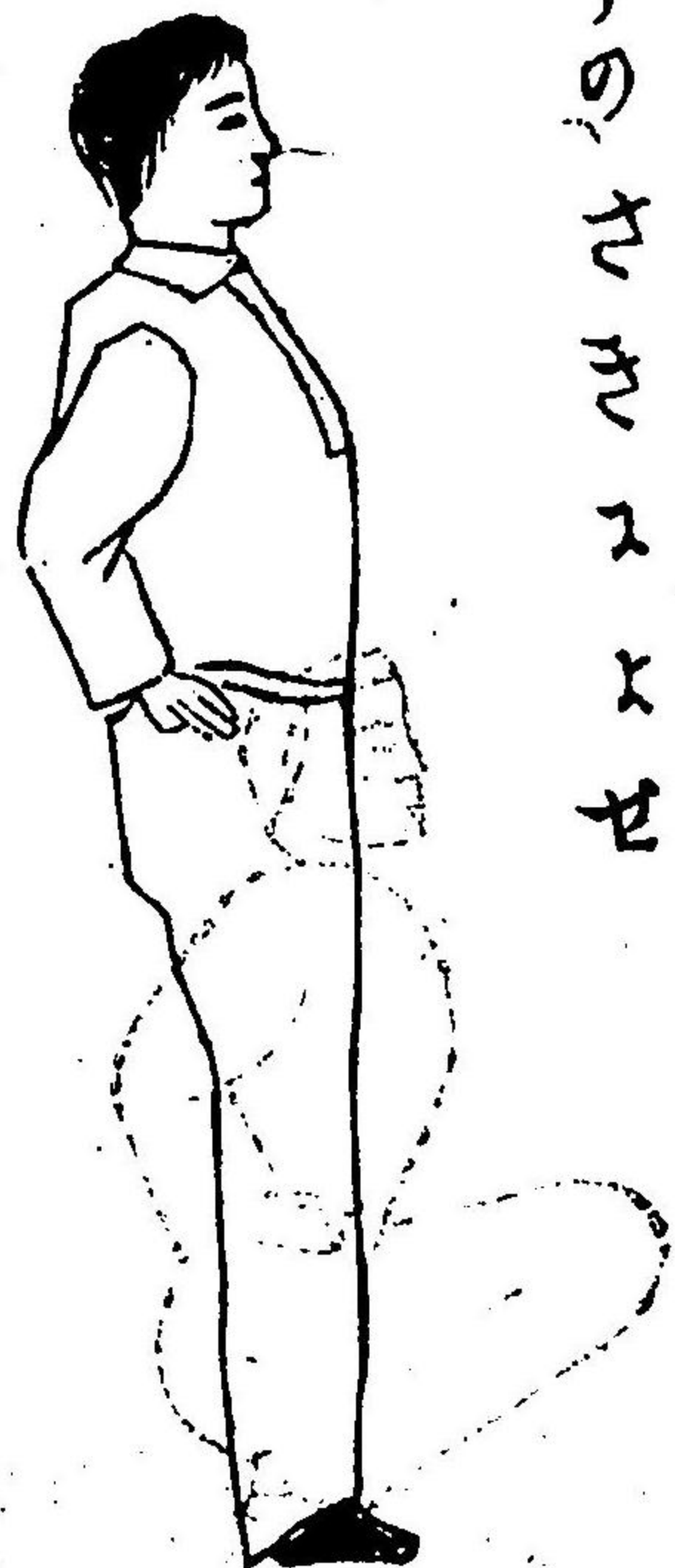
重おもさをあしあしのさきよとせ

的あてとよぶ

てひざと

まげ尻しりをまびきよ

つけそのままく真直まことなつべし



同六節

始め両のこ

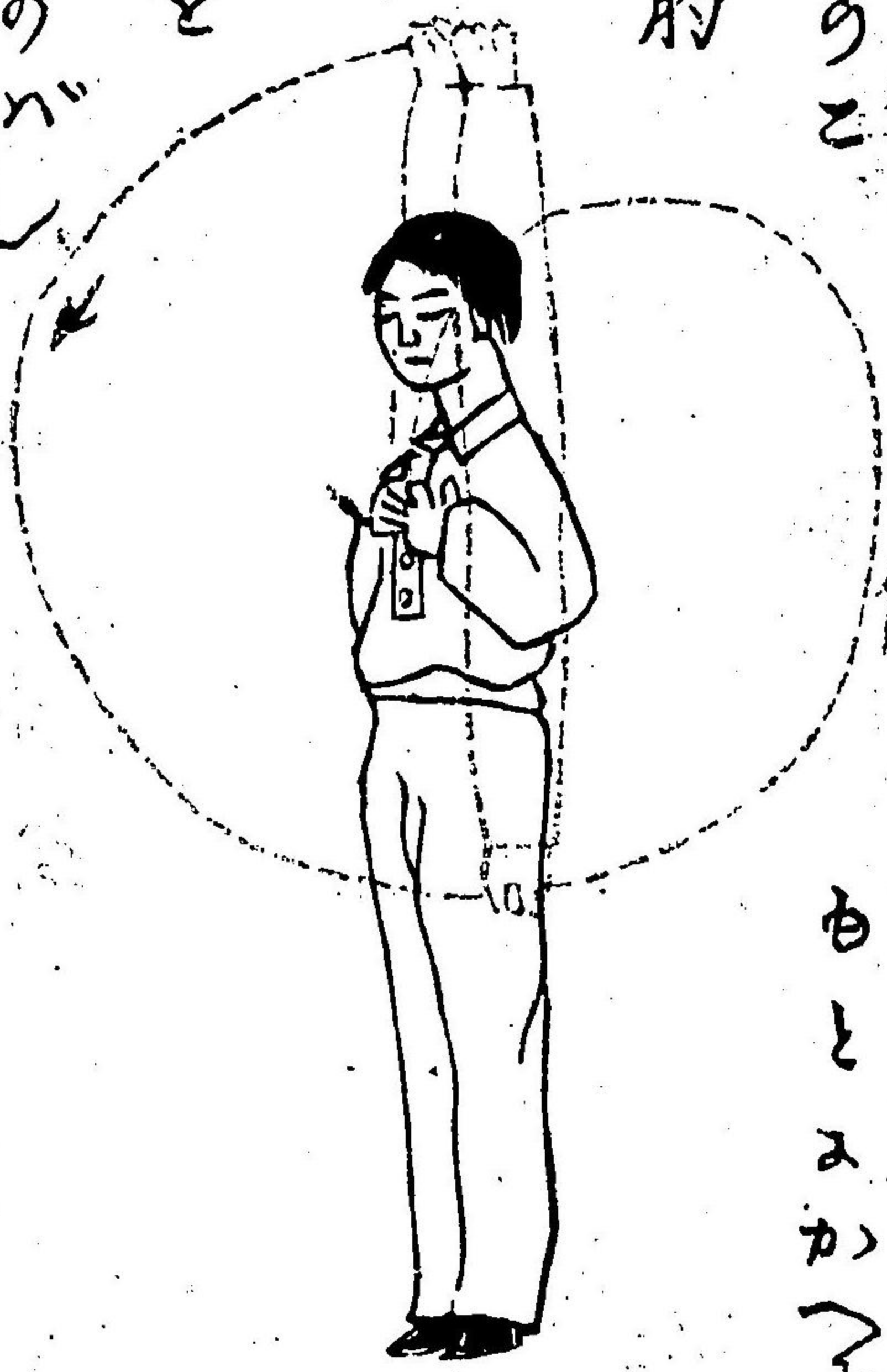
ぶくまて肘

の上と

うち

両ひぢを

頭上へのグシ



次は前より回して

もとよかつ

同七節

両ひぢをまぐる

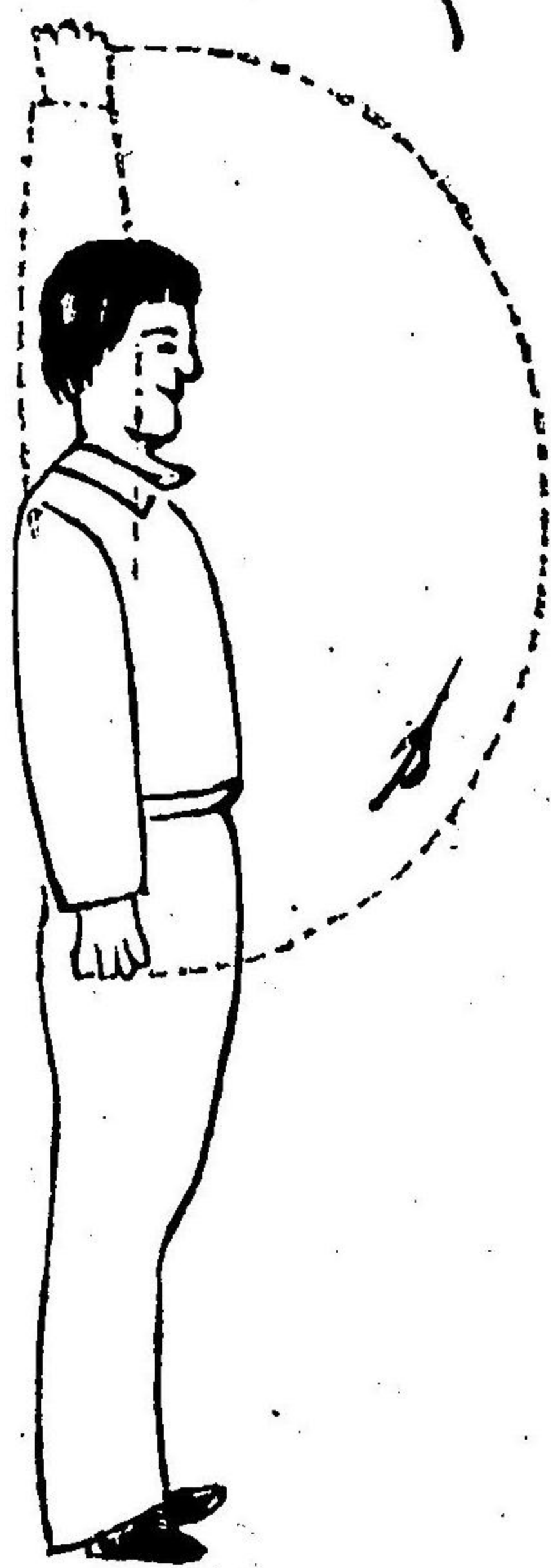
こはなすく

下より

前の方

うち頭上へのうちあが

とぶしと合せつぎは前

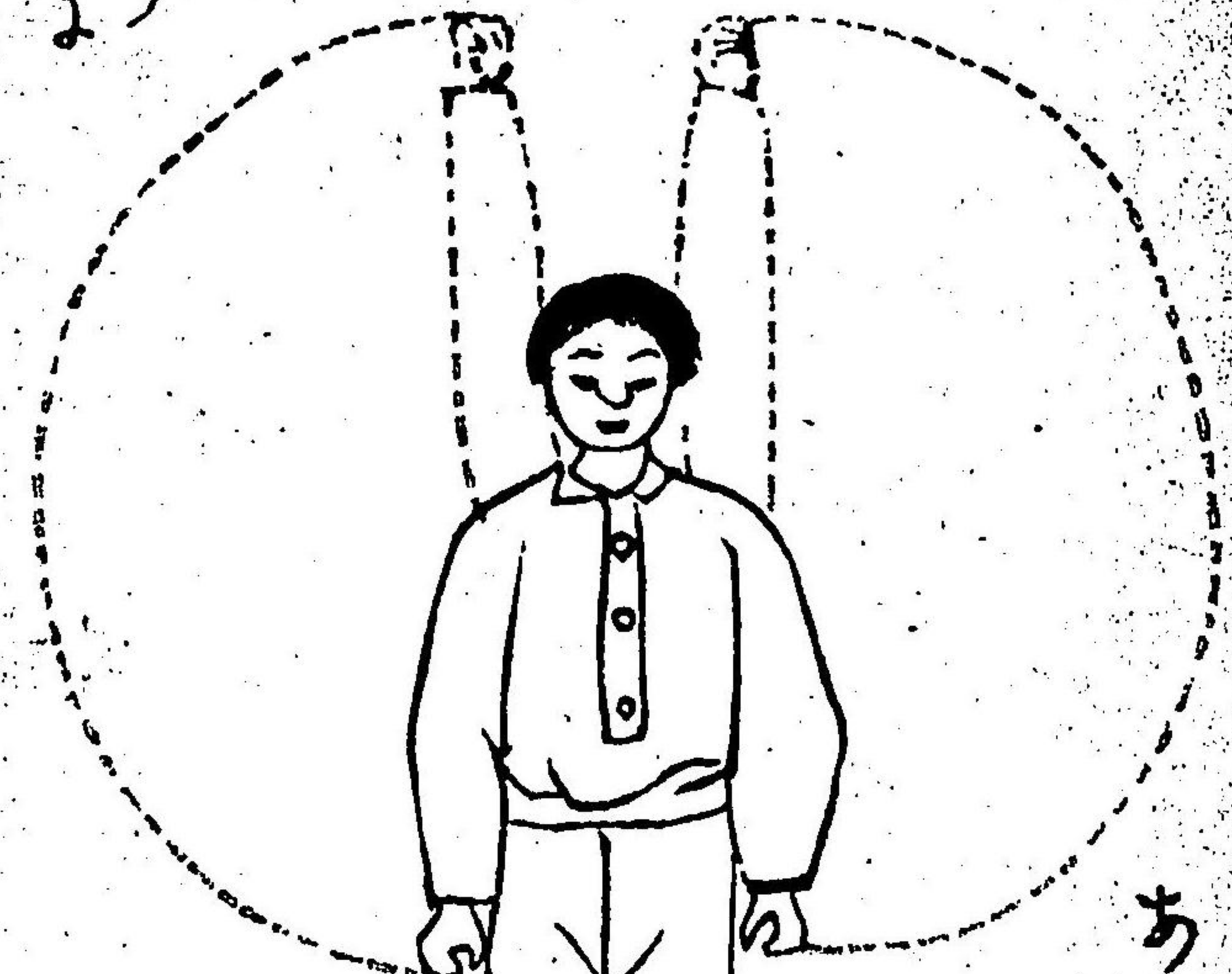


おろしてえよ

かつ

同八節

らんも  
ひちと  
まけが  
横より  
とぶ  
とぶ  
と頭上よ



あげまゝ

かろーて

外股せうつ

同九節

両の拳と  
まげてわき  
の下  
とりひぢと  
肩と  
のちと



のバキこと

十の歩の

同十節止

体と半ハ

かむむけ

手と左右

のバ―手

ささめて肘の止

少く打べ



これハ右と左のニツ

あ

徒手体操第一節

▲又左の拳とあぐる事共

両の拳と的

あて右の拳よ

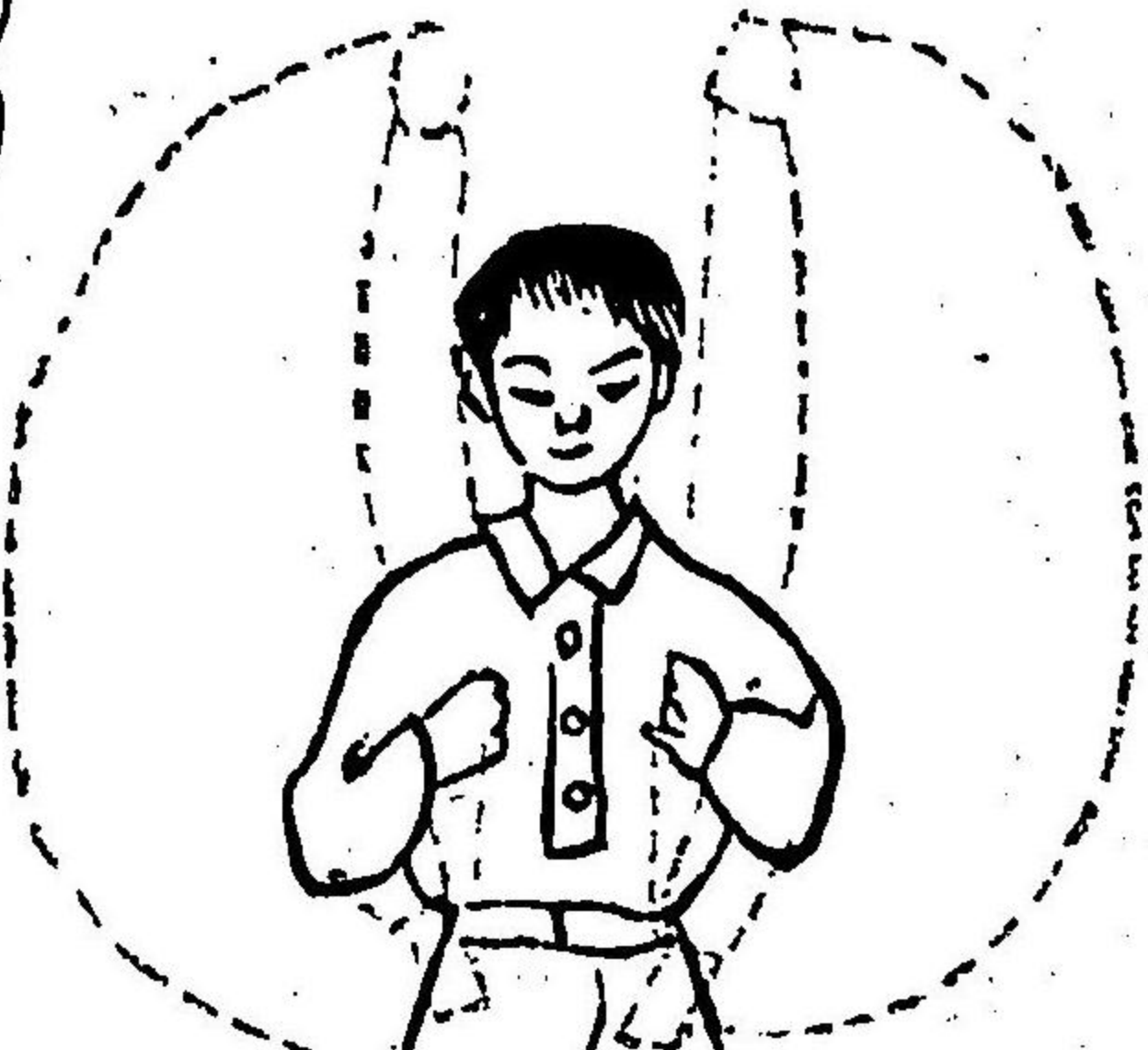
り股を打こ

八度又左へ

打こ八度夫

左右交々うち

右の拳と正面より頭上へあが



八度次は側面

りあぐること

前へあがる

同二節

両手と

廣ガ

手の

ひろと

上むけ

左右に伸し頭上

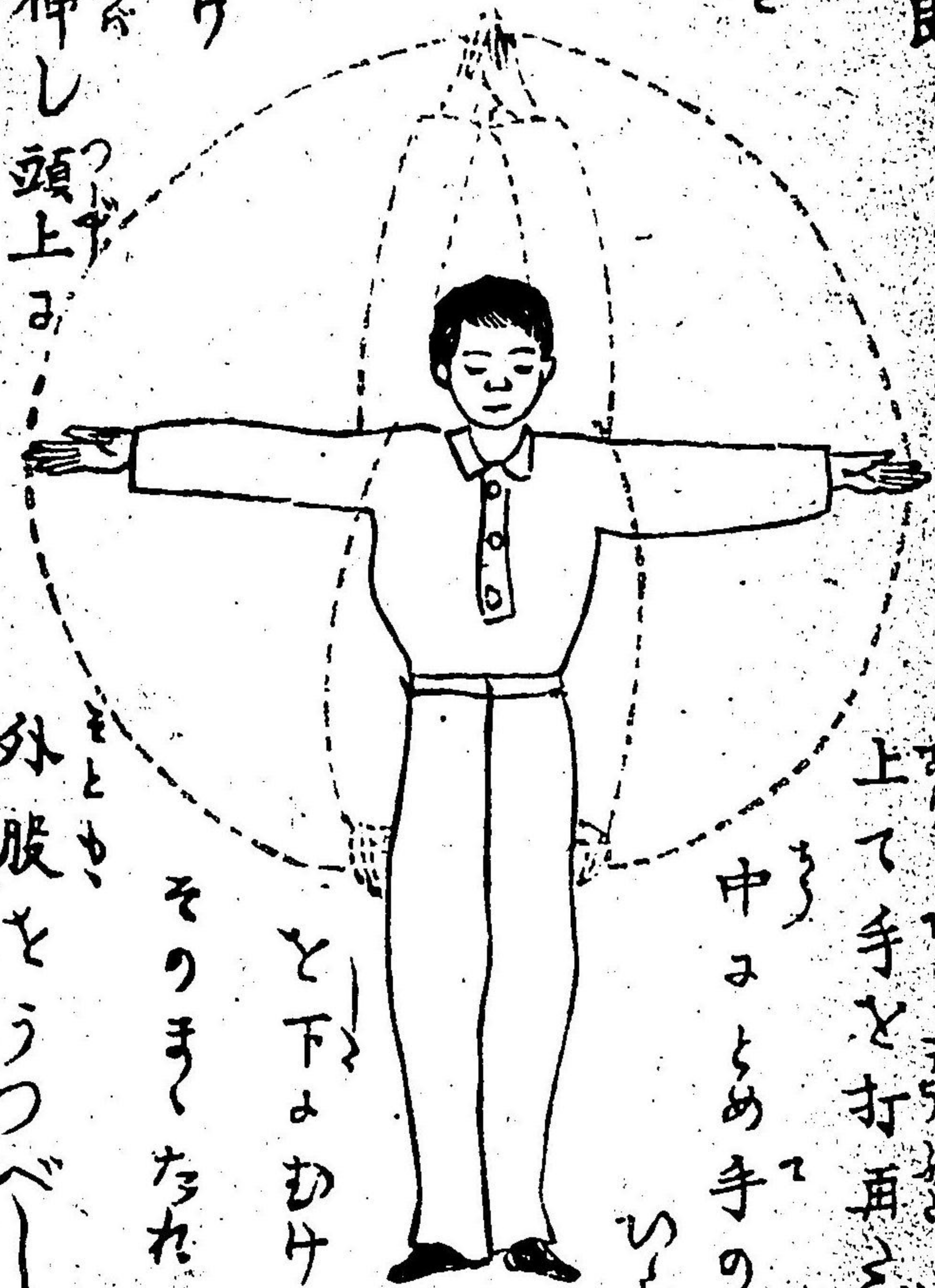
外股をうつべし

そのまゝたれて

と下むけ

中よめ手の

上げて手を打再



同三節

胸とけり

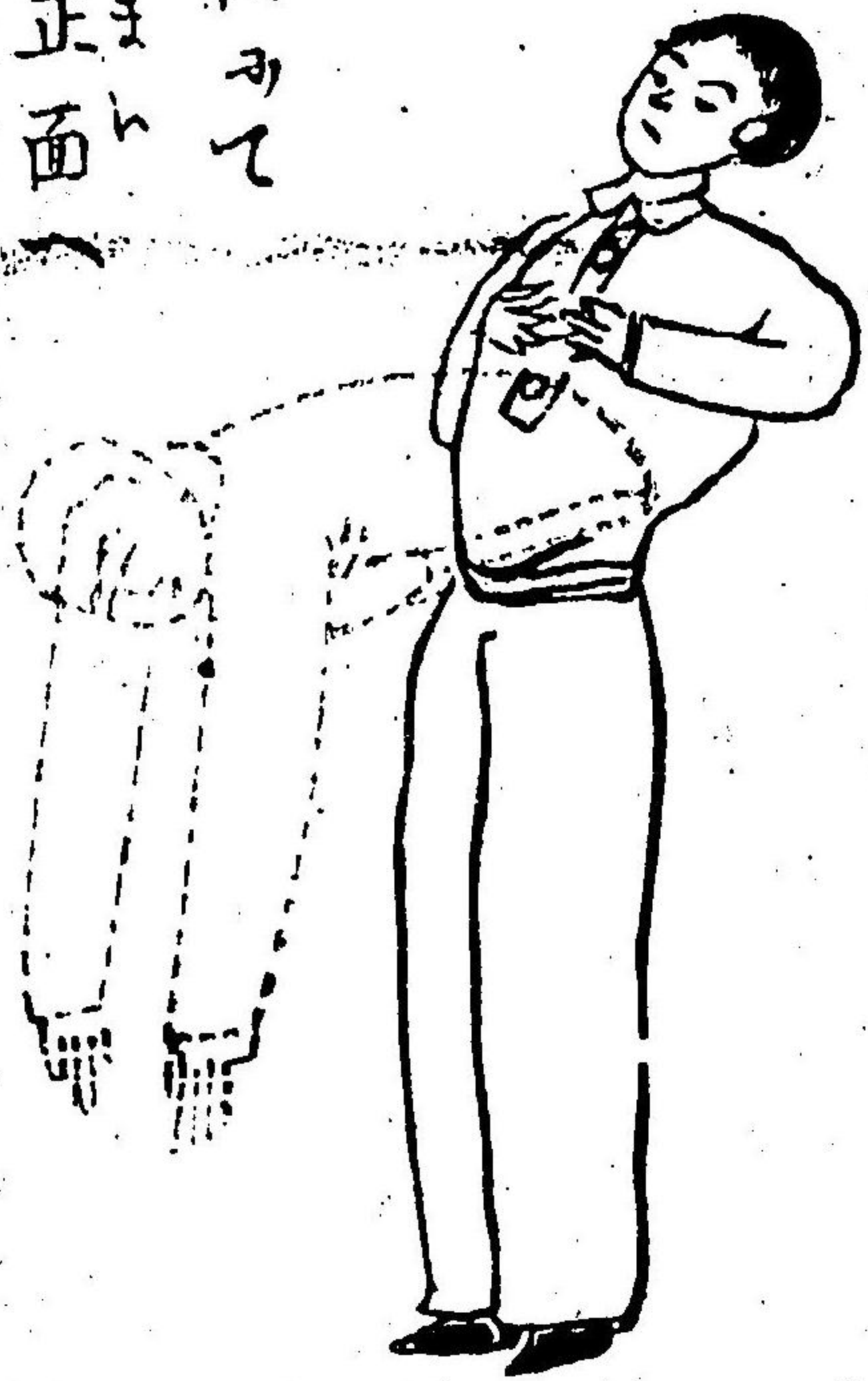
出—両手

と胸をあて

手とひろげ指みて

うち夫より正面へ

屈み両手とひろげて手とあべし





同四節

腰より上

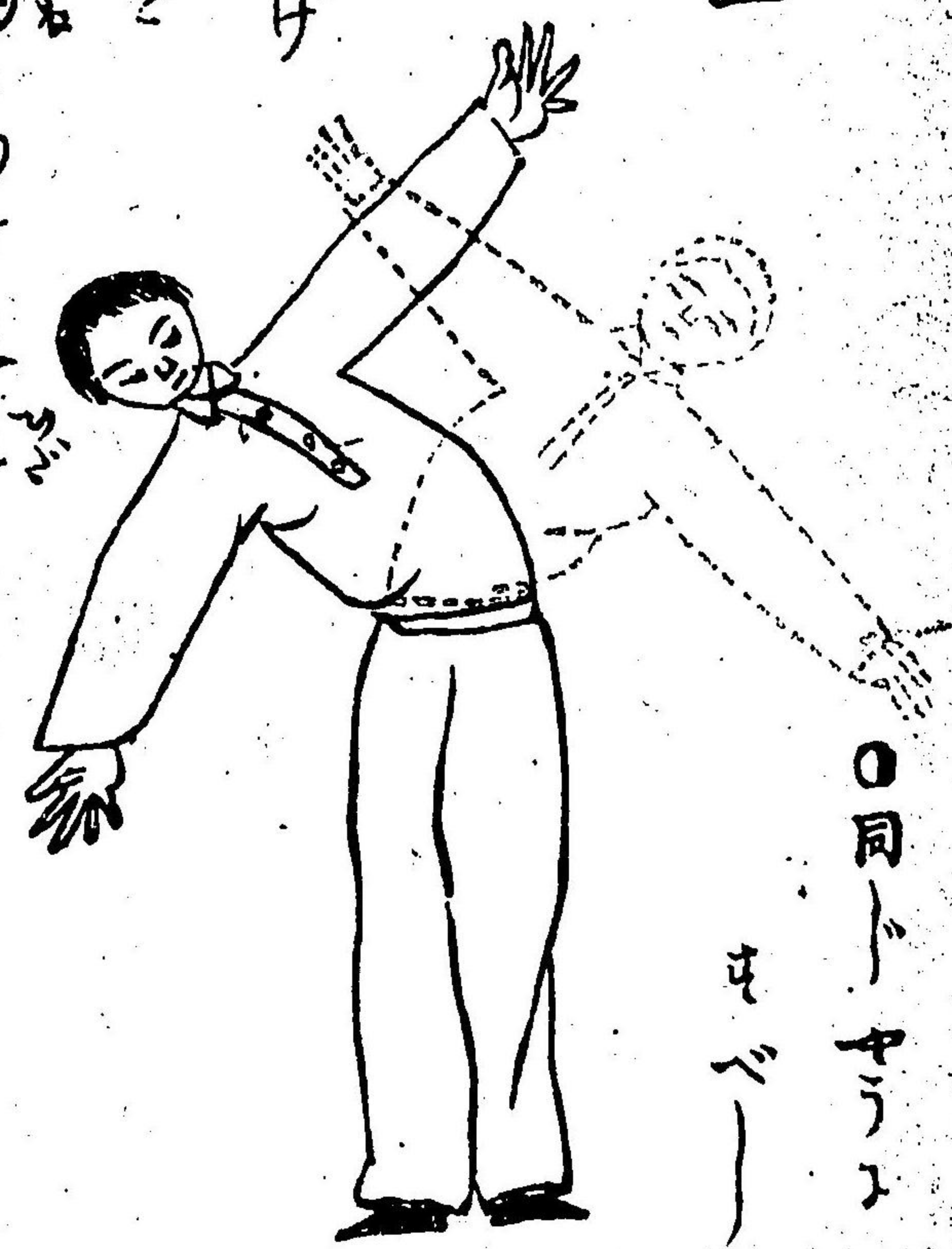
と右

まげ

手とひろげ

次はひぢを

かみで胸おなをつけ又また左ひだりよりして



○同トヤリ

まげ

同五節

両ひぢをほりて

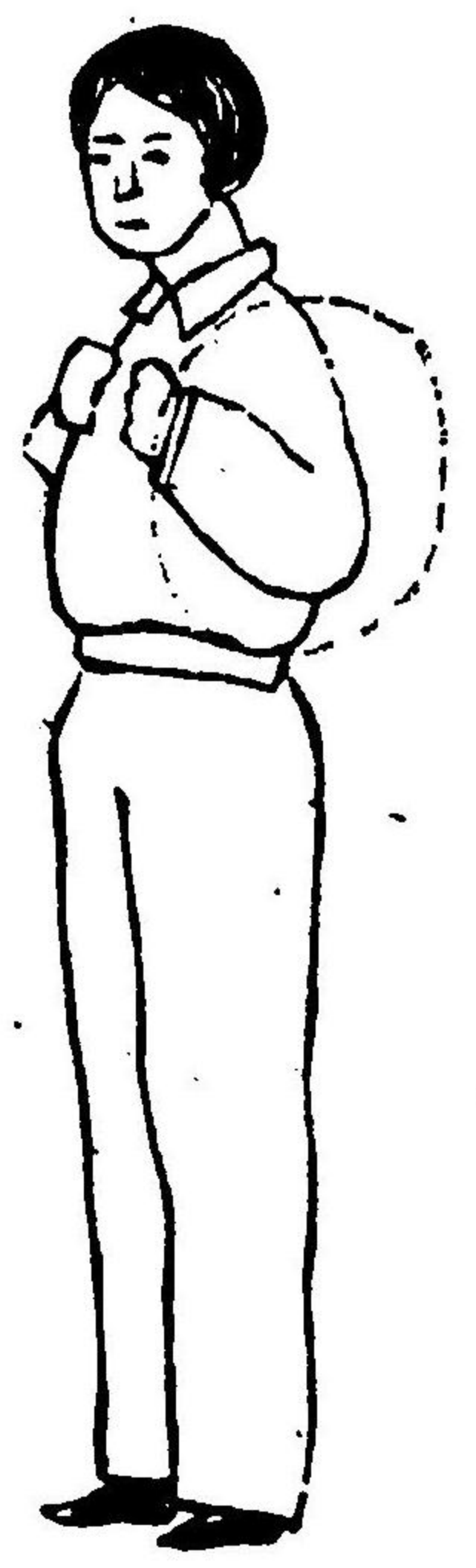
手とあねま

あて

ひぢの

先さきより丸まると

あぐくべー



同六節

○右の足と丸へ回し左の足とす

右の足と一ニ三四とすめ  
あつこと右と

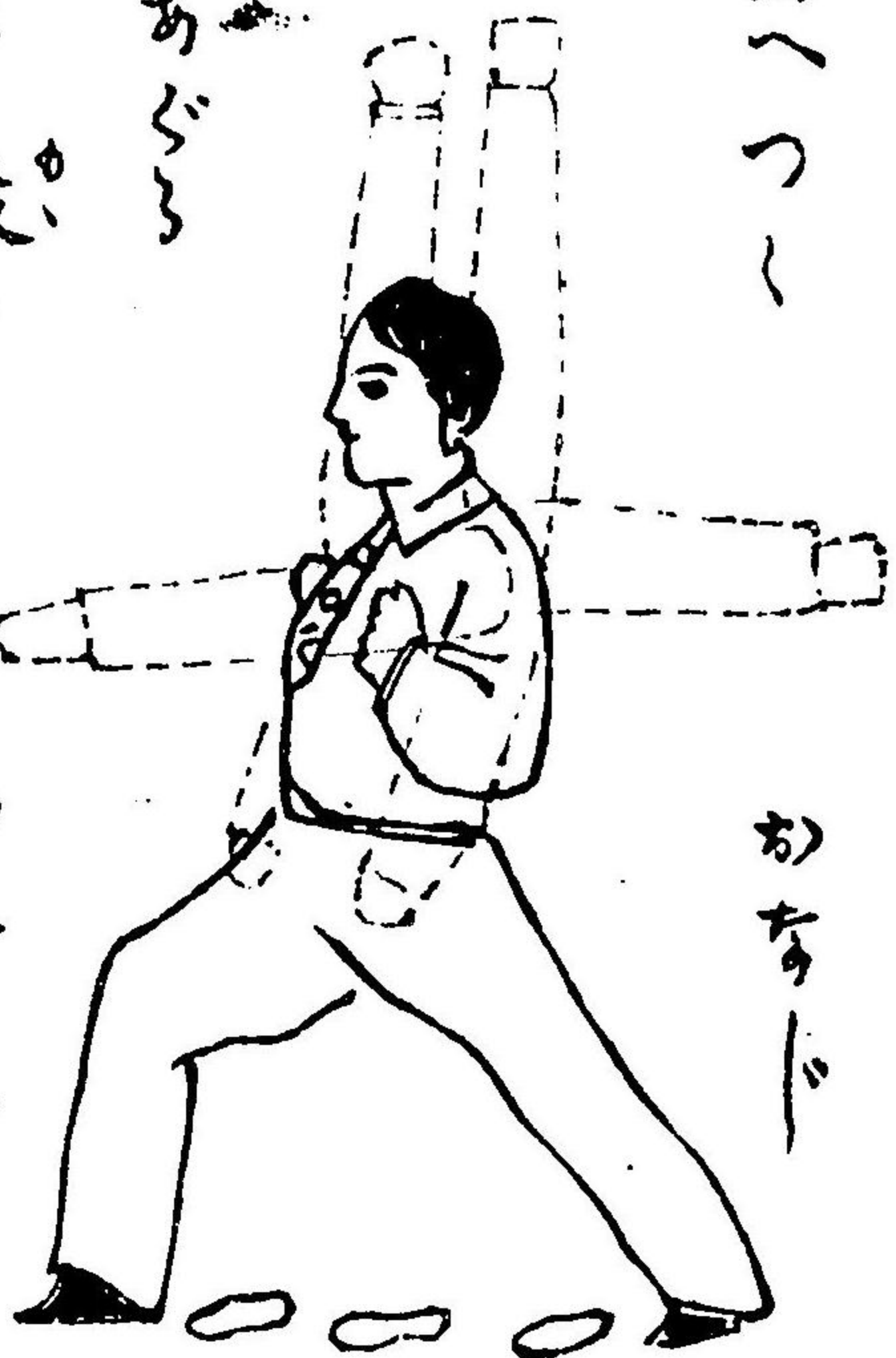
右の拳より正面へつ

こと四度次左

右へ突こと四度

次は頭の上へ突あが

こと四度次は胸より股とらうこと四度それう



同七節

両手をひろげ

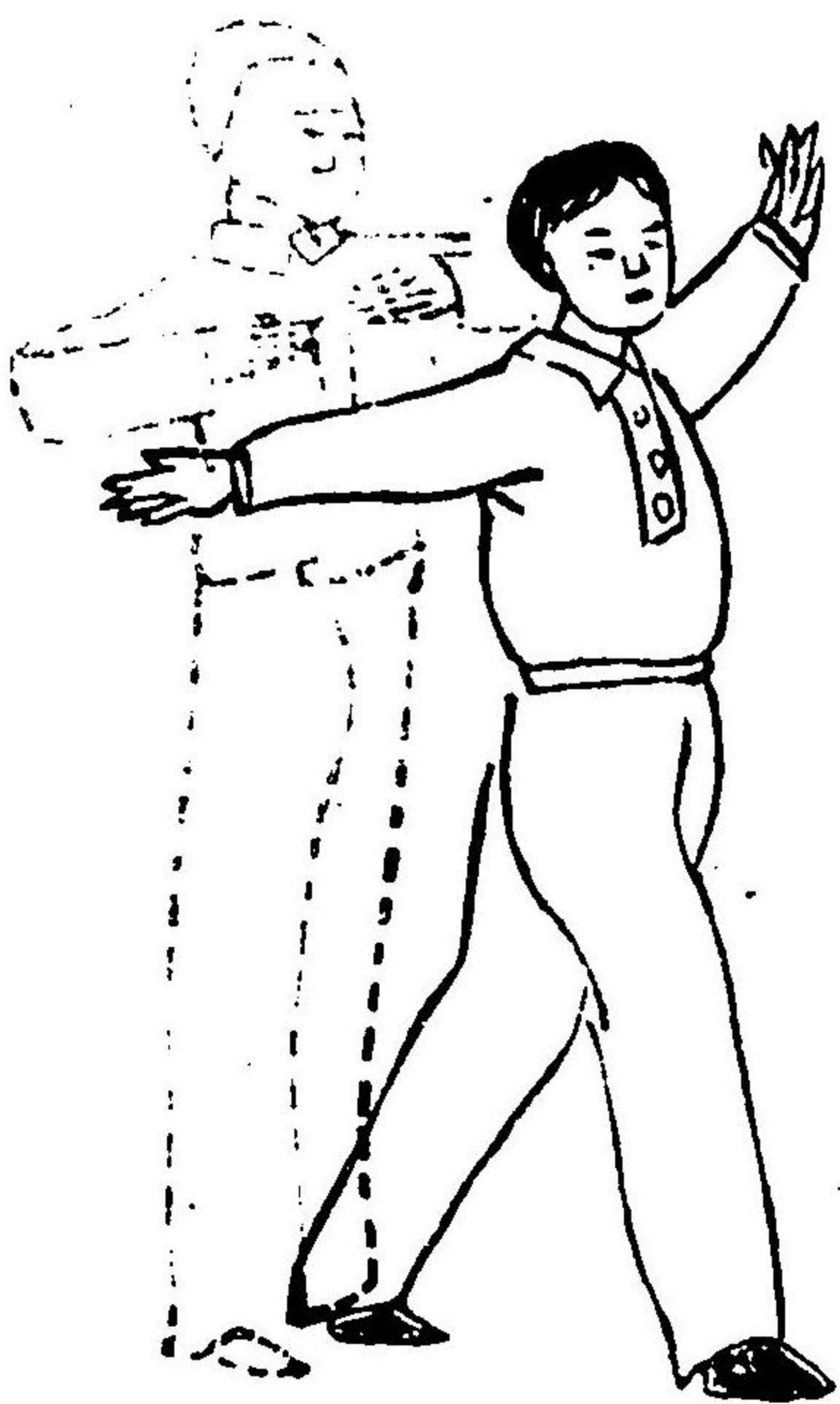
右のあしと

前よりし丸

回るとき

両ひぢと張て

手のさきと胸をあてること四度



同八節

全体をまろすぐ

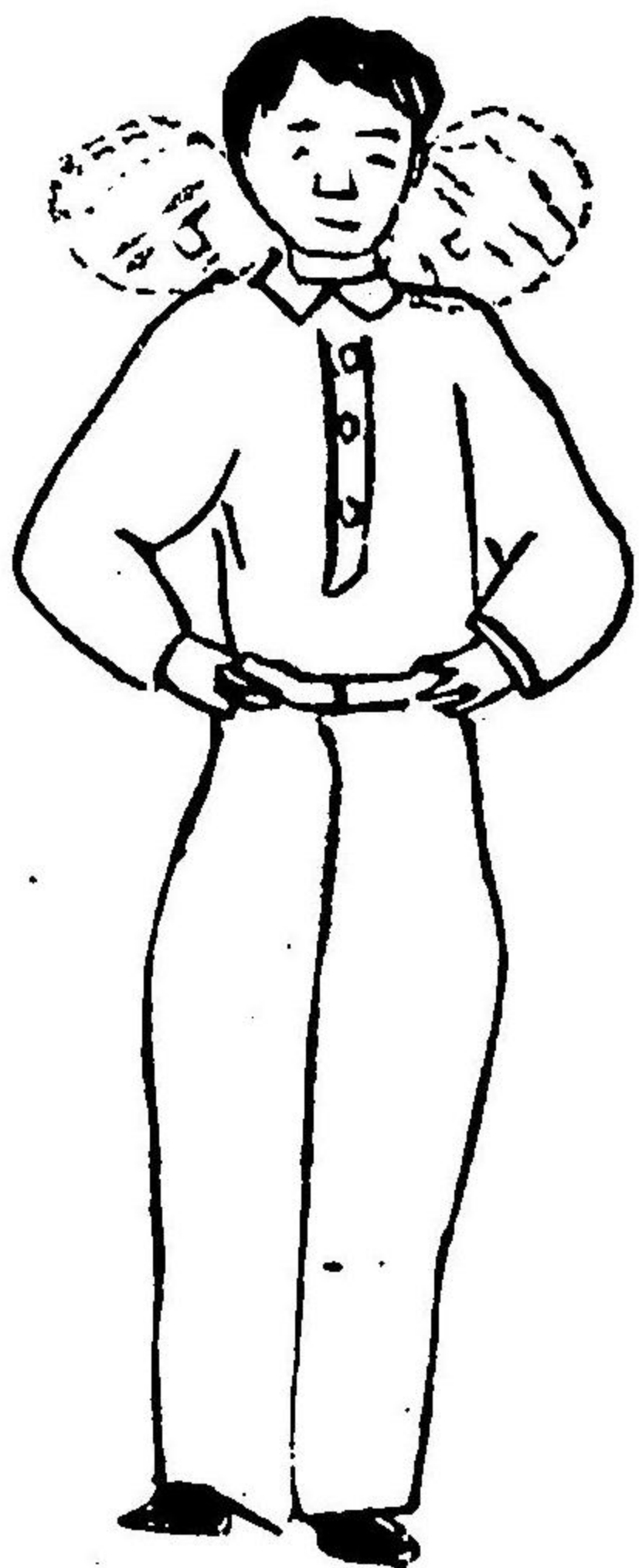
よーて両手と

腰の上よおき

頭ぞかりと右よ

まげ尤よかへー又左りよ

まぐること右とかあど



同九節

是もからど

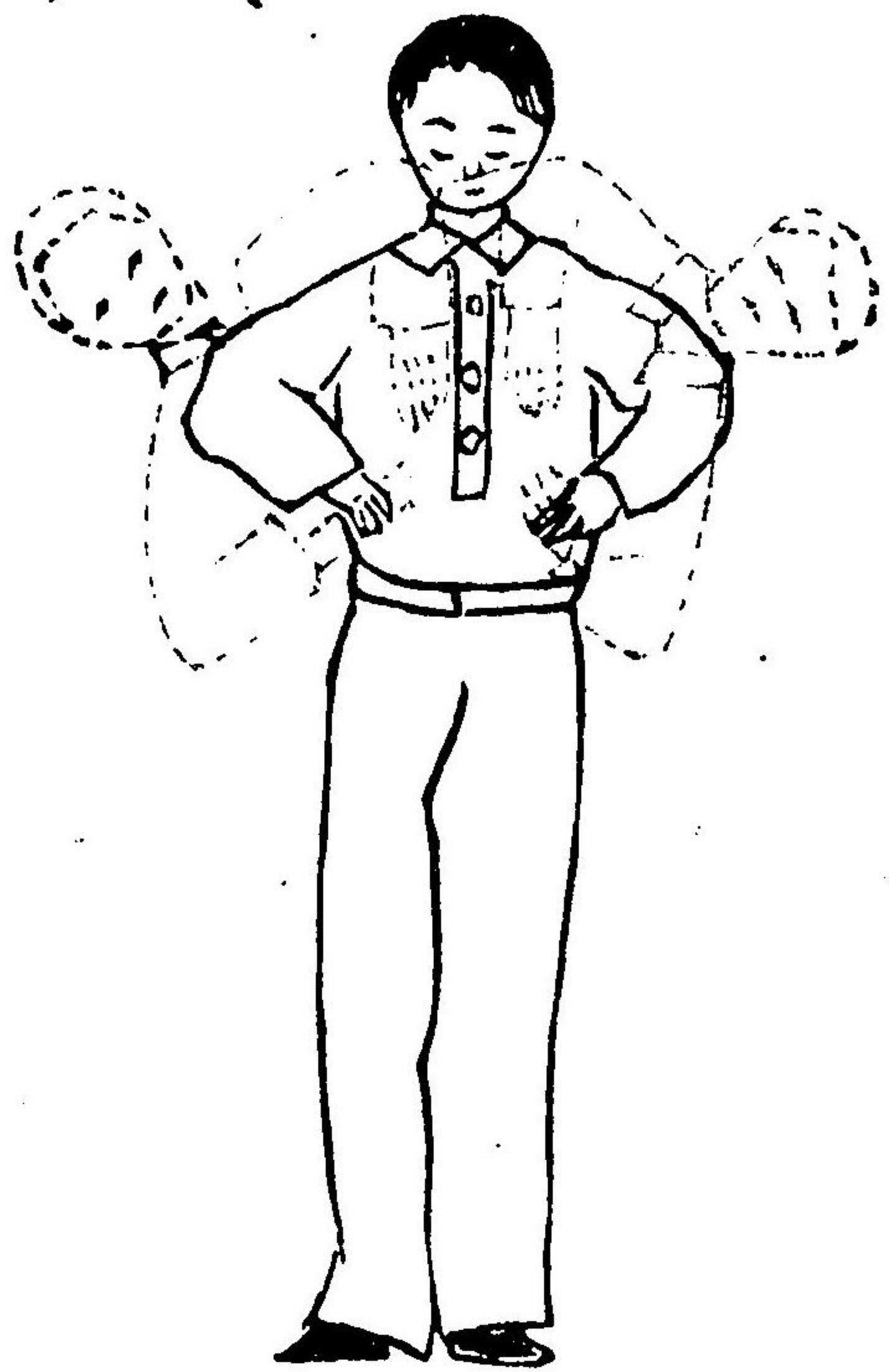
とまろすぐ

よー半え体

右りまげて

尤よかへり

又左りまぐること右とかあど



同十節

これ由全体を

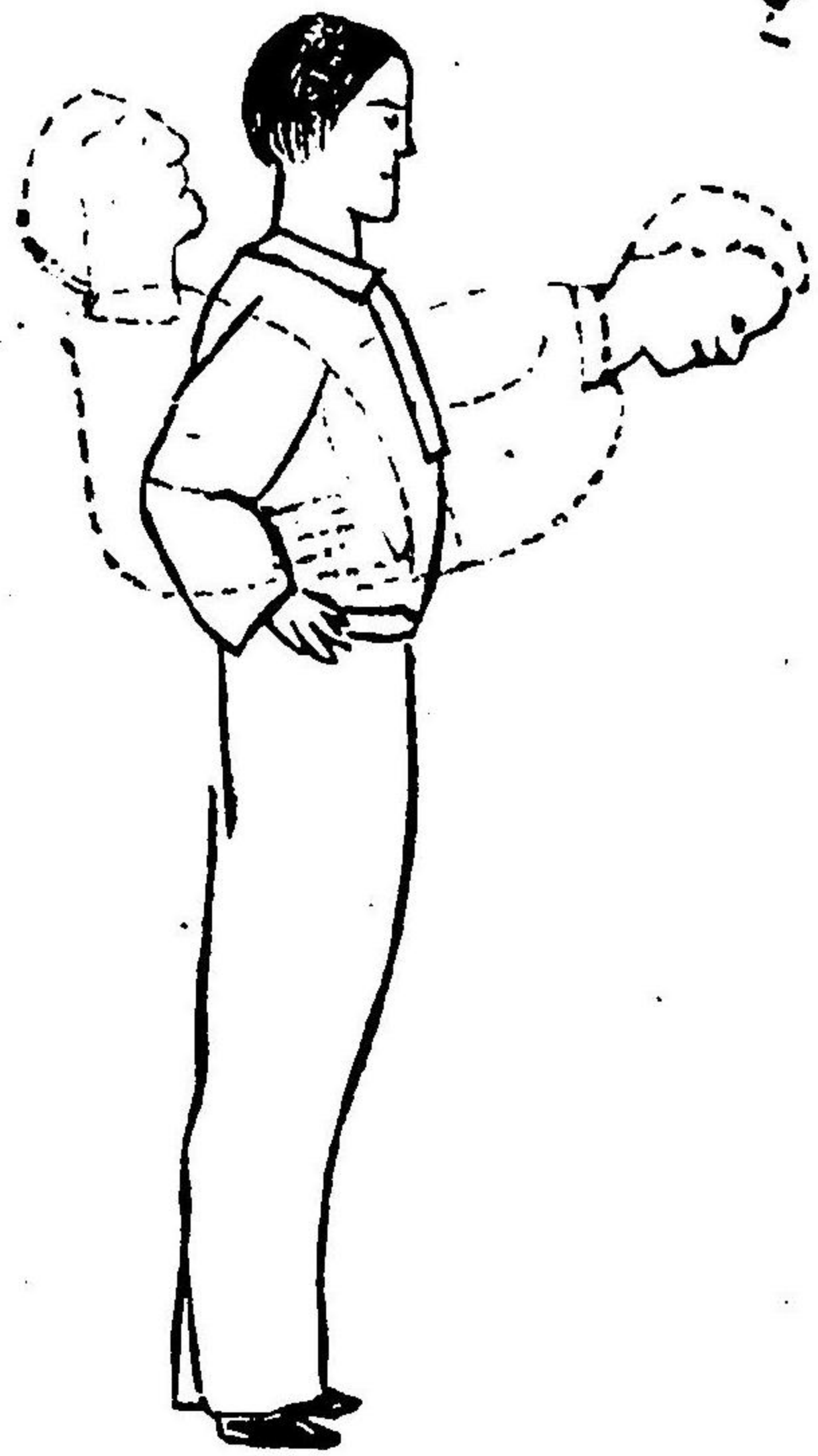
まろすむ

して半体

と正面

屈り元

回り又うしろへまろすむ事ともよ四度



同十一節

両ひぢを張拳と

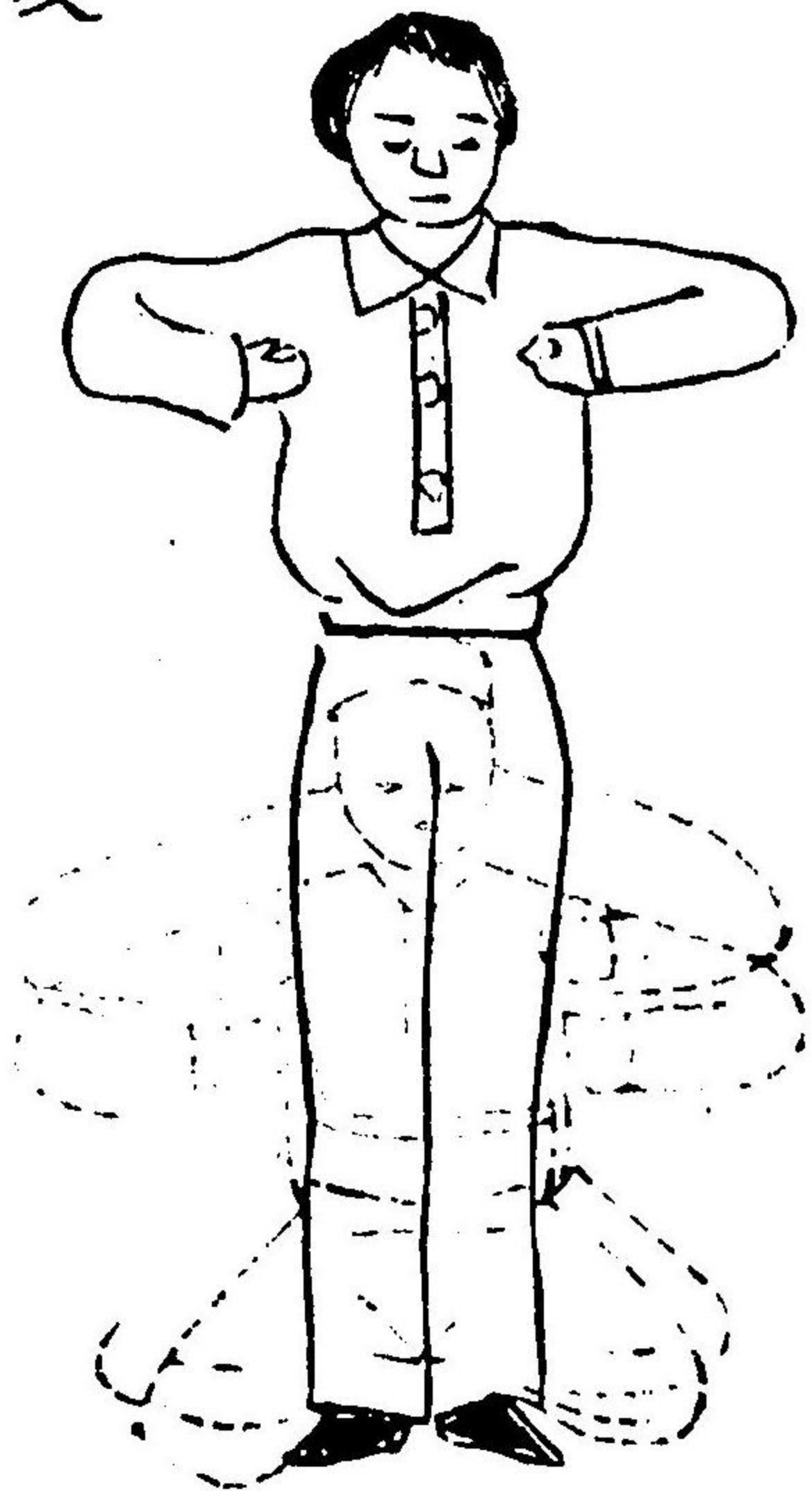
脇の下に狭み

そのまゝ両膝

と屈み下ろて

ゆきまゝ二度

いまけいよのつて真直よ立上り。



同時よ両の拳と突おろして

外股よかくべー

同十二節

始り<sup>リ</sup>左<sup>サ</sup>右<sup>ウ</sup>の手<sup>テ</sup>と

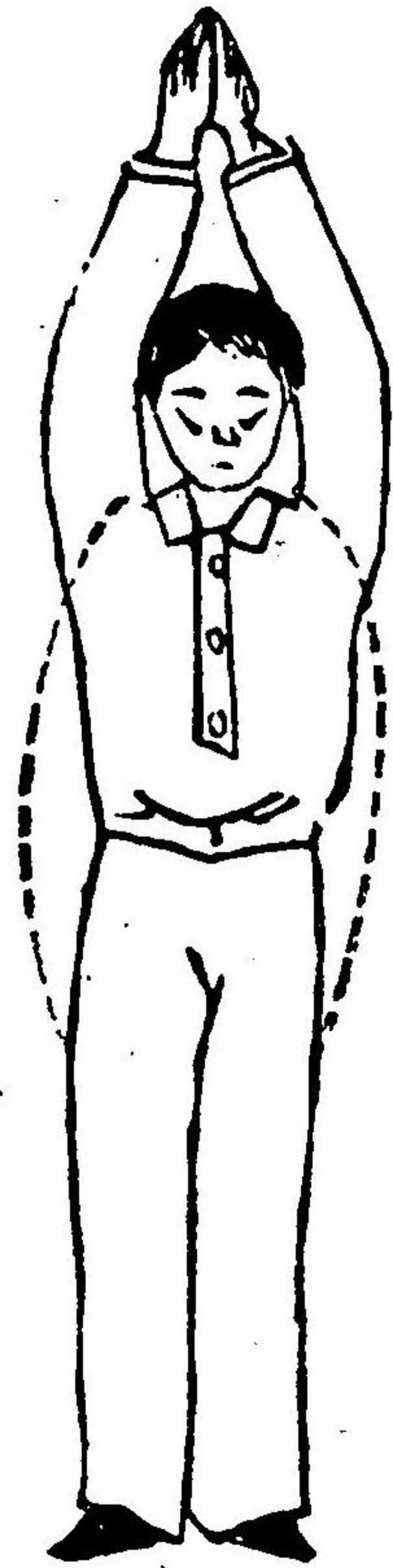
あごまの

上へ

あげて

手<sup>テ</sup>と<sup>ソ</sup>う<sup>ウ</sup>ち<sup>チ</sup>其<sup>ソノ</sup>ま<sup>マ</sup>い<sup>イ</sup>背<sup>セ</sup>後<sup>コ</sup>へ

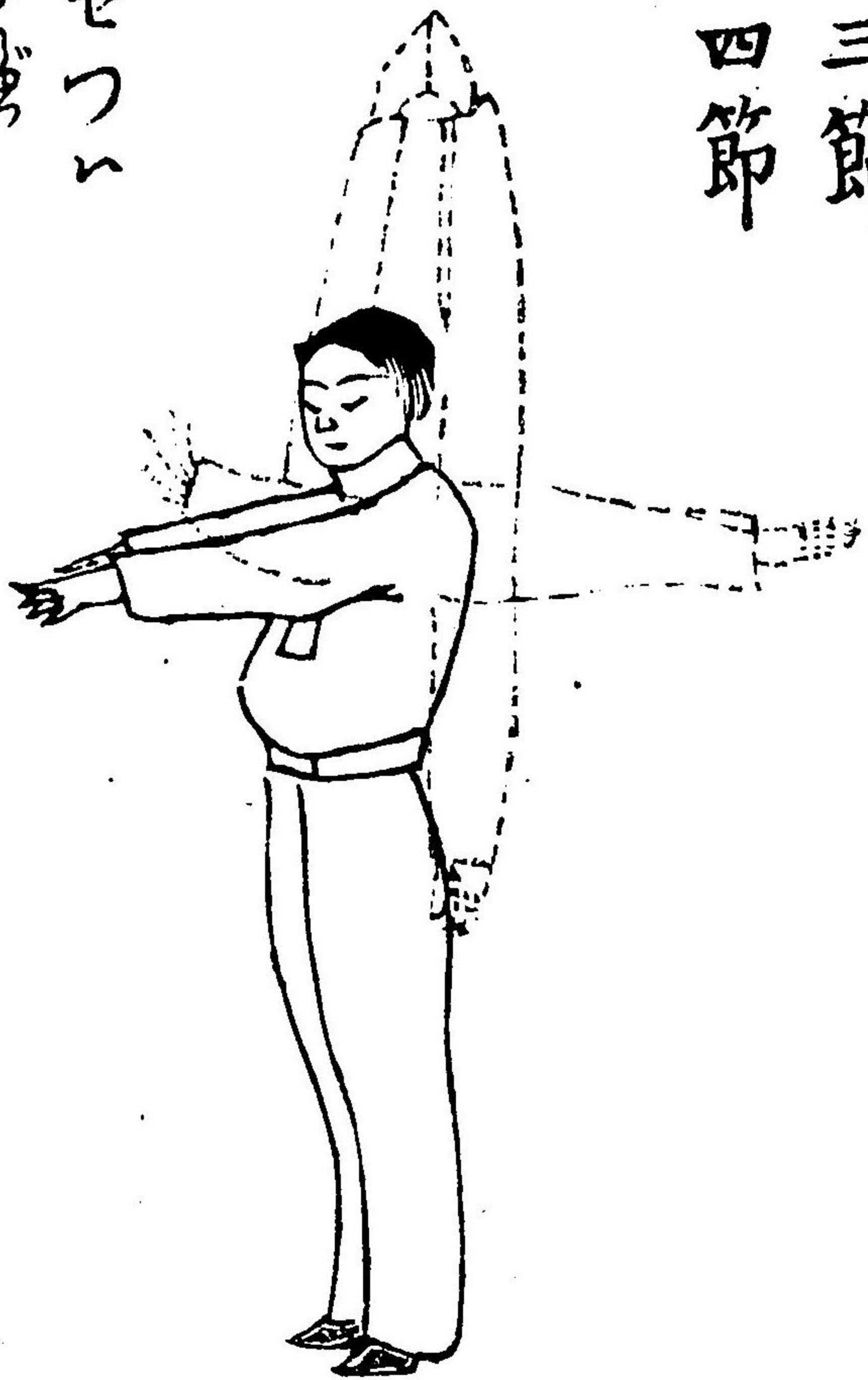
下<sup>シ</sup>り<sup>リ</sup>て<sup>テ</sup>又<sup>マ</sup>手<sup>テ</sup>と<sup>ソ</sup>う<sup>ウ</sup>つ<sup>ツ</sup>べ<sup>ベ</sup>ー



同十三節  
同十四節

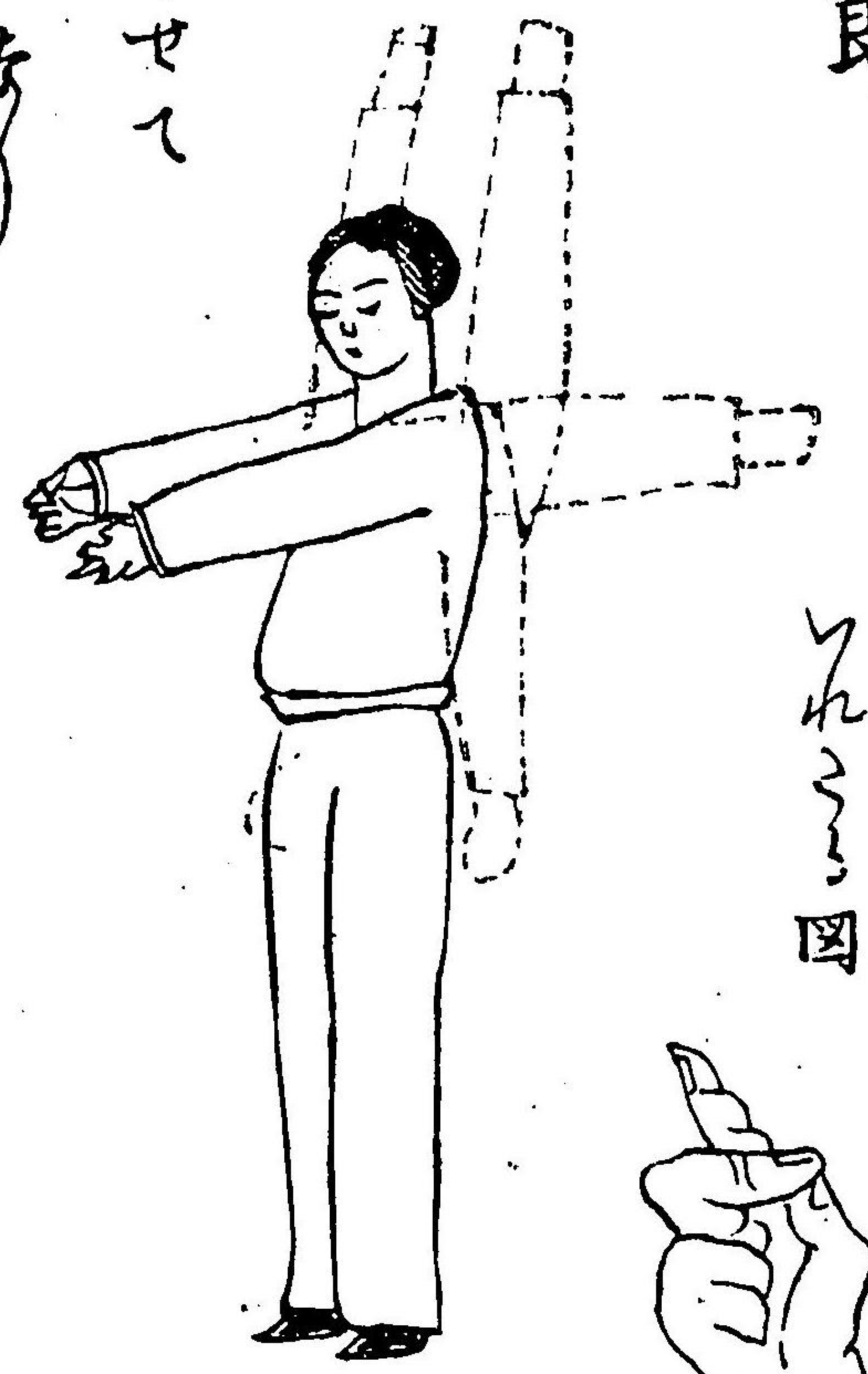
此<sup>コノ</sup>二<sup>ニ</sup>せ<sup>セ</sup>つ<sup>ツ</sup>い

矯<sup>キョウ</sup>生<sup>セイ</sup>術<sup>ジュツ</sup>第<sup>ダイ</sup>三<sup>サン</sup>第<sup>ダイ</sup>四<sup>ダイ</sup>と<sup>ト</sup>同<sup>ドウ</sup>じ

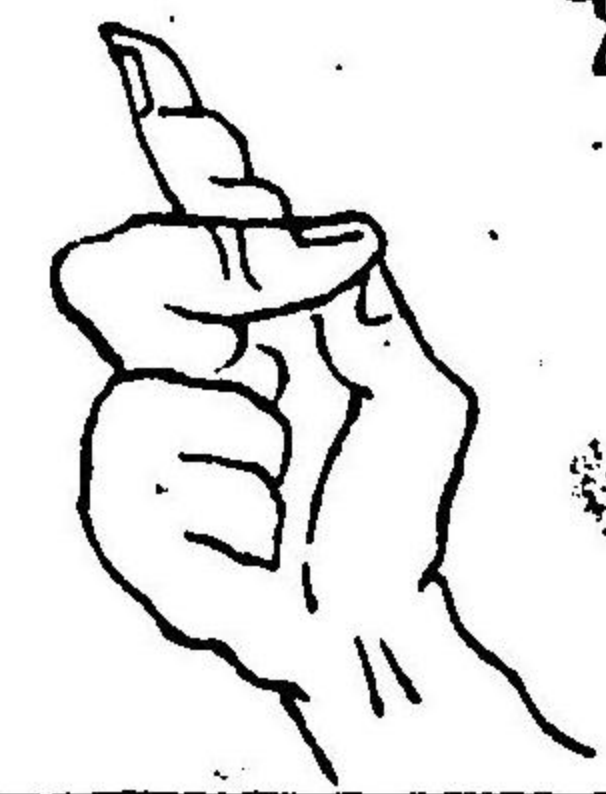


同十五節  
同十六節

是ハ  
 中指と  
 へカとよせ  
 へカとよせ  
 へカとよせ

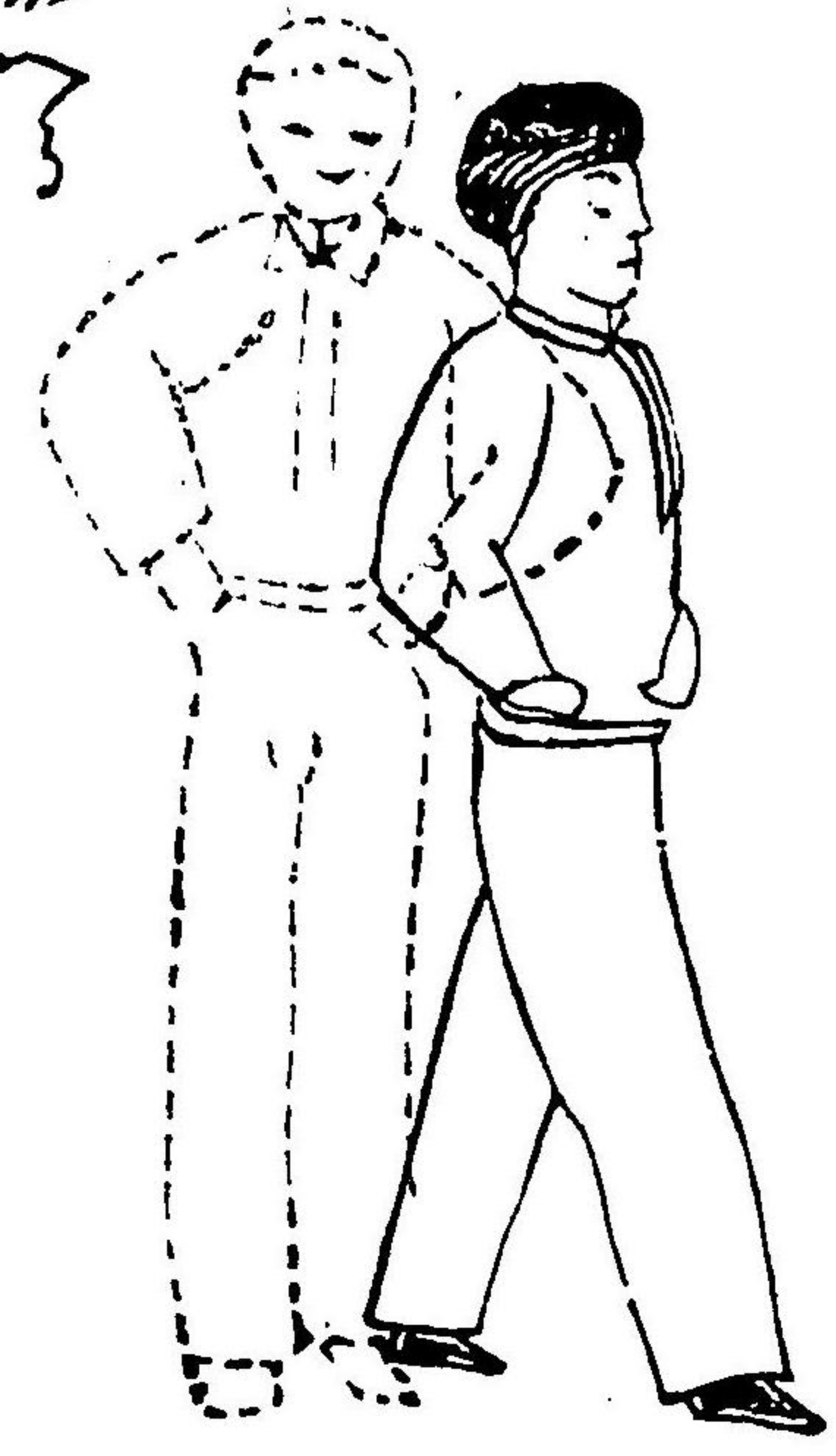


指はちろちと  
 図



同十七節

全体と真直よ  
 手と腰よ  
 おき右の足を  
 前に出し足  
 と引て尤よか  
 こと 繪図のこと



同十八節

胸とはり出し

左右の手と

と一につけ左

りのきびきとあが

右の足と出して元にかへ

左りもまゝ同ド



同十九節

両の拳と胸と

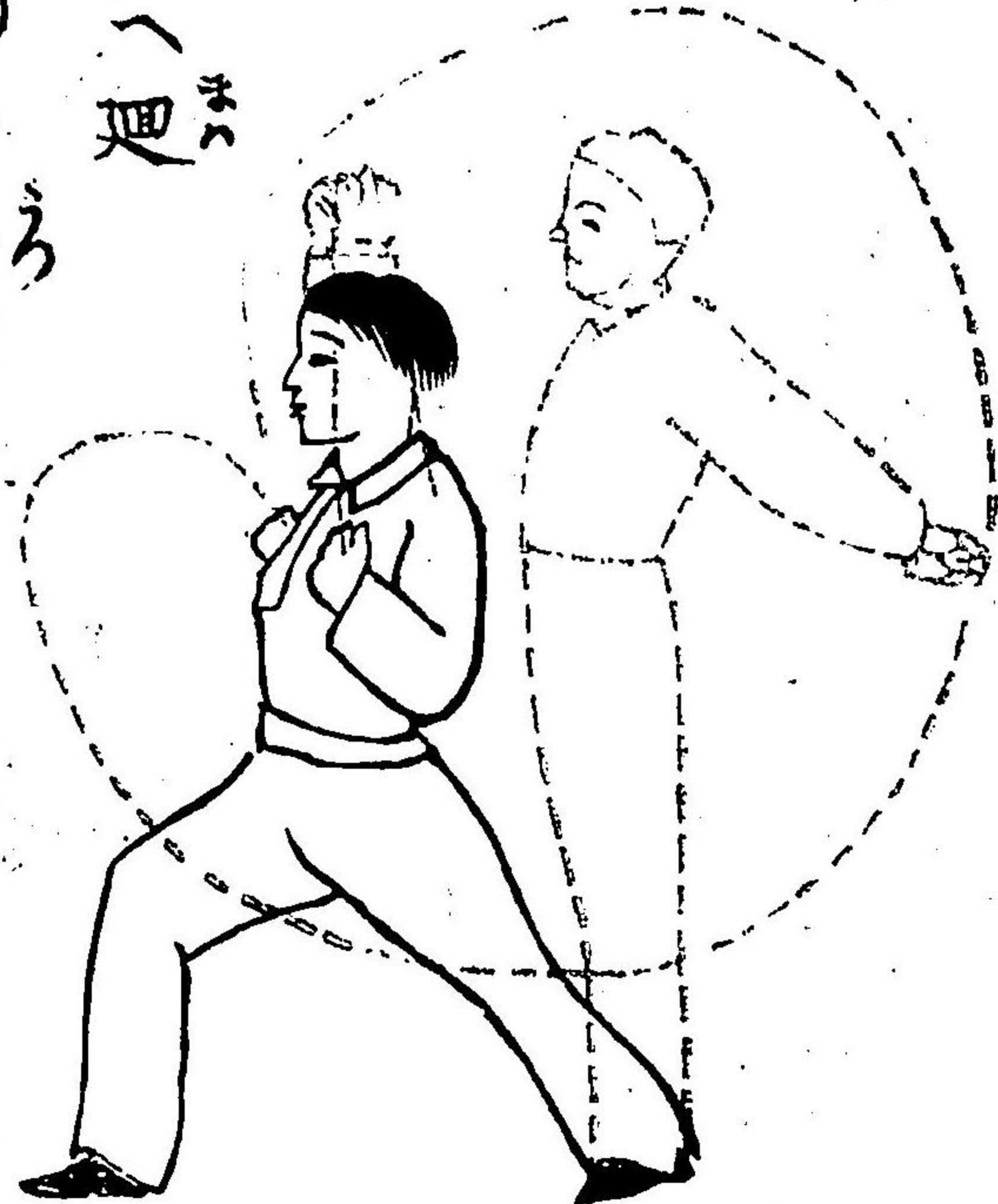
あて右の足と

出—両の拳と

頭の上よあが正

面よりおろ—後へ廻

して真直に立胸とおろ



同二十節止

右の足と側面

踏出—右の

拳と突出—左の

手とまげて頭の

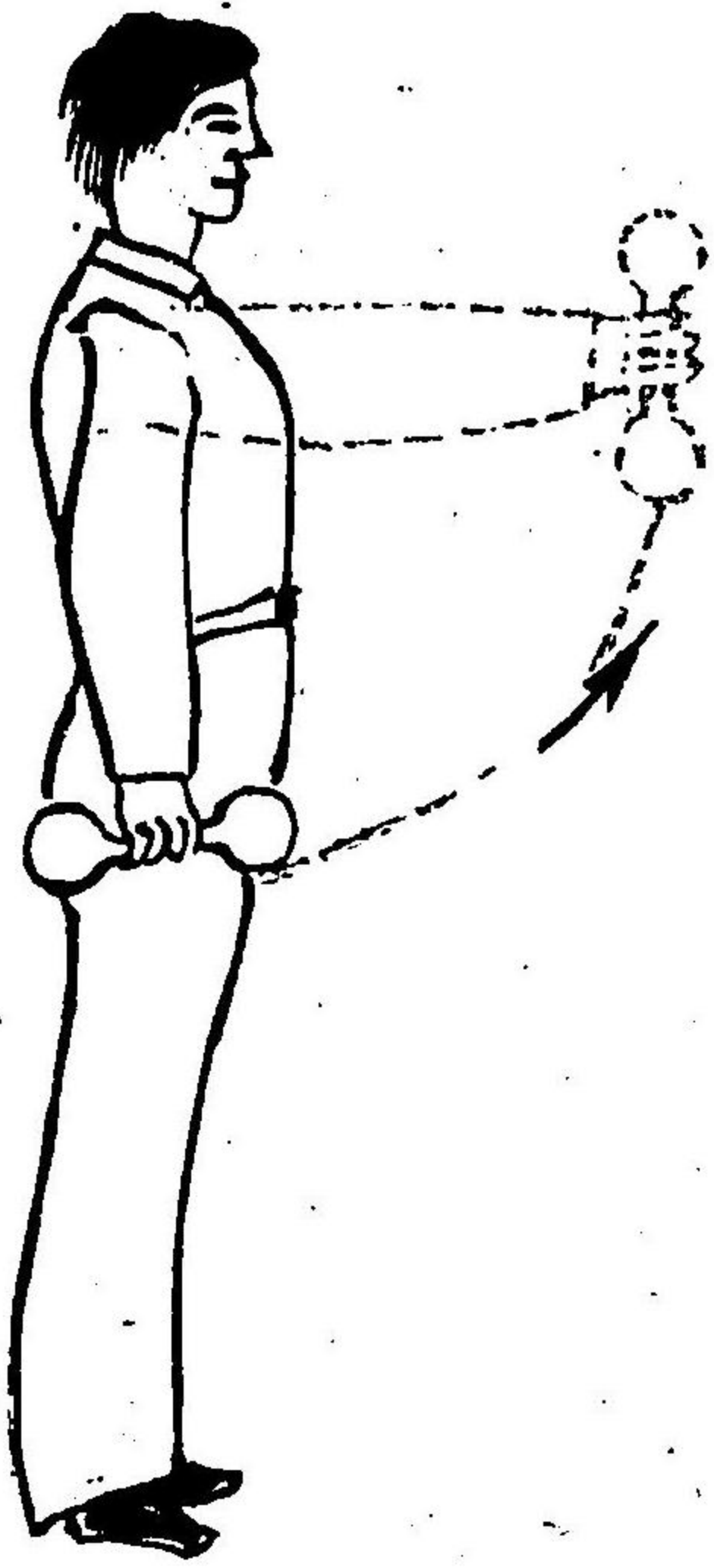
上とのせ足と引とたん

ふ手と伸し両手と

後またれ  
て手とニツ拍べし

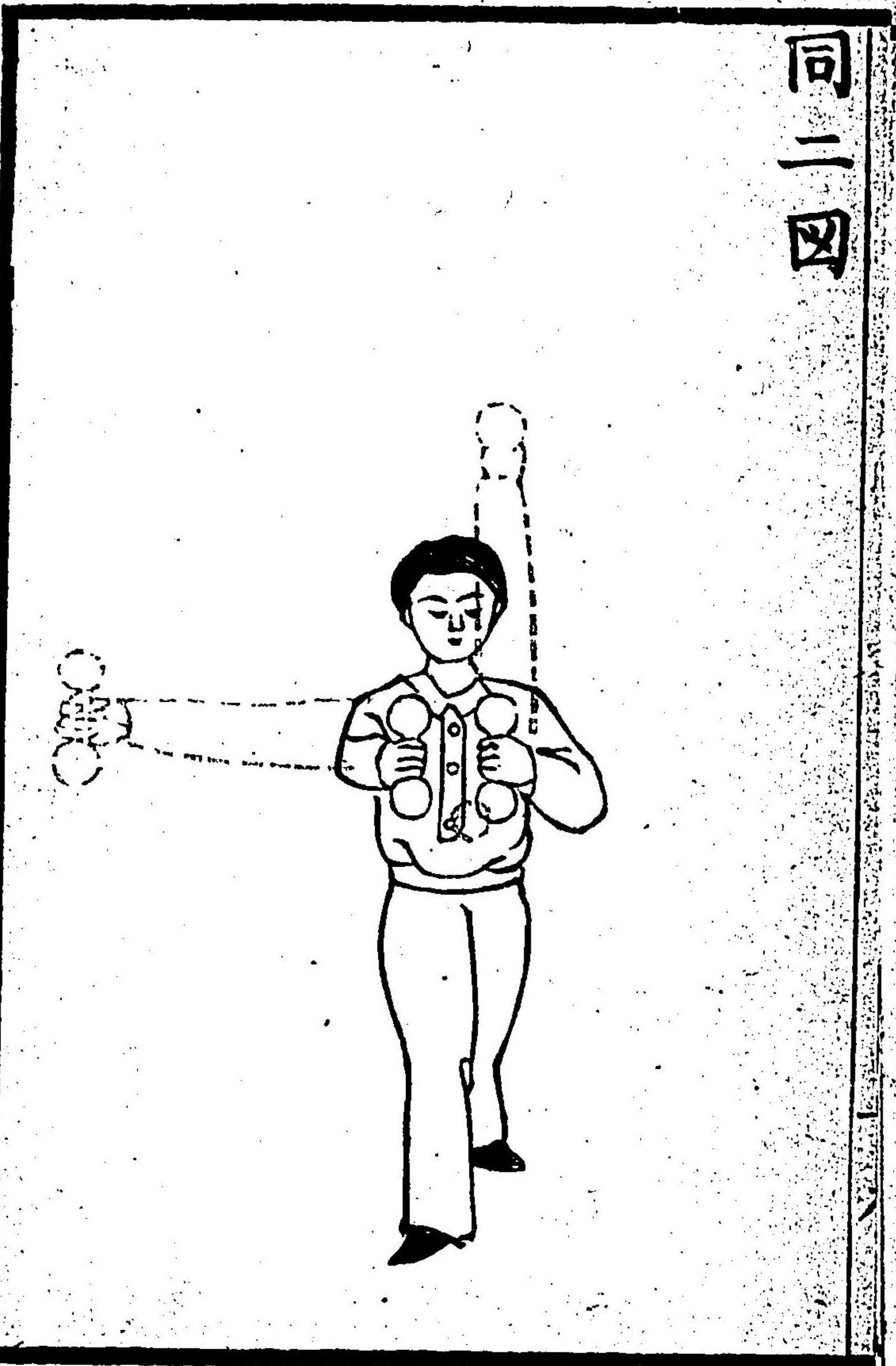


啞鈴体操第一回

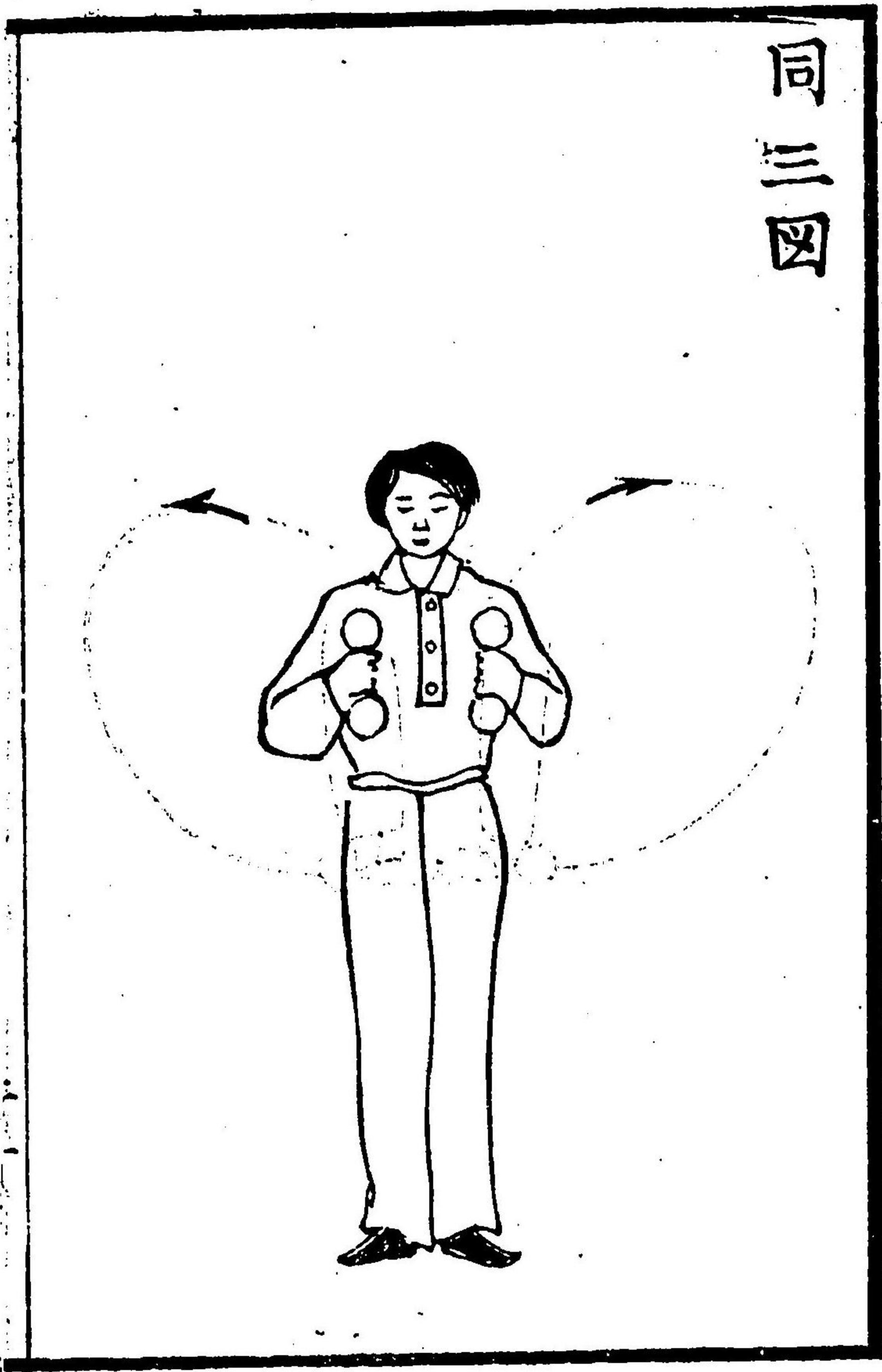




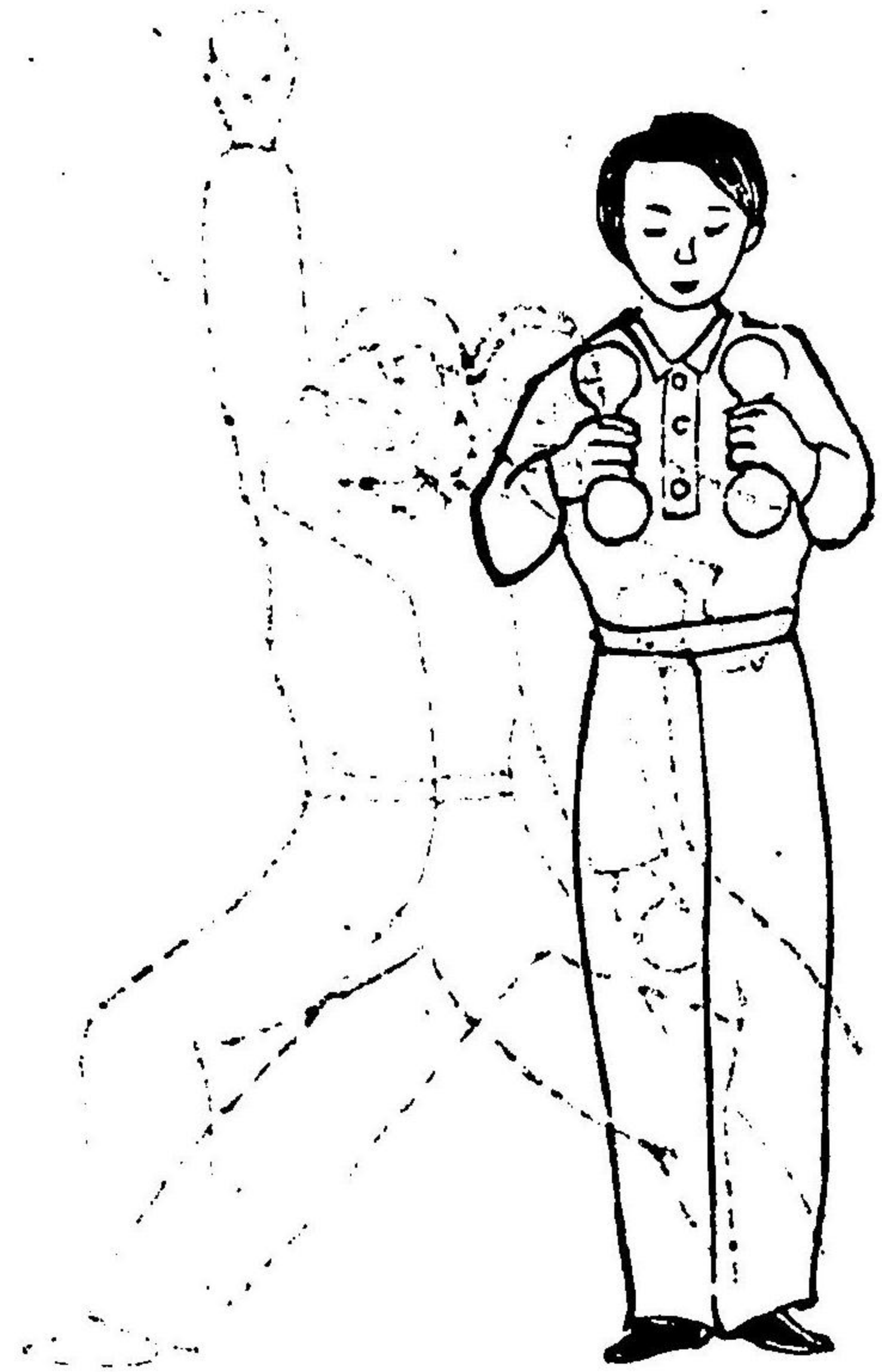
同二圖



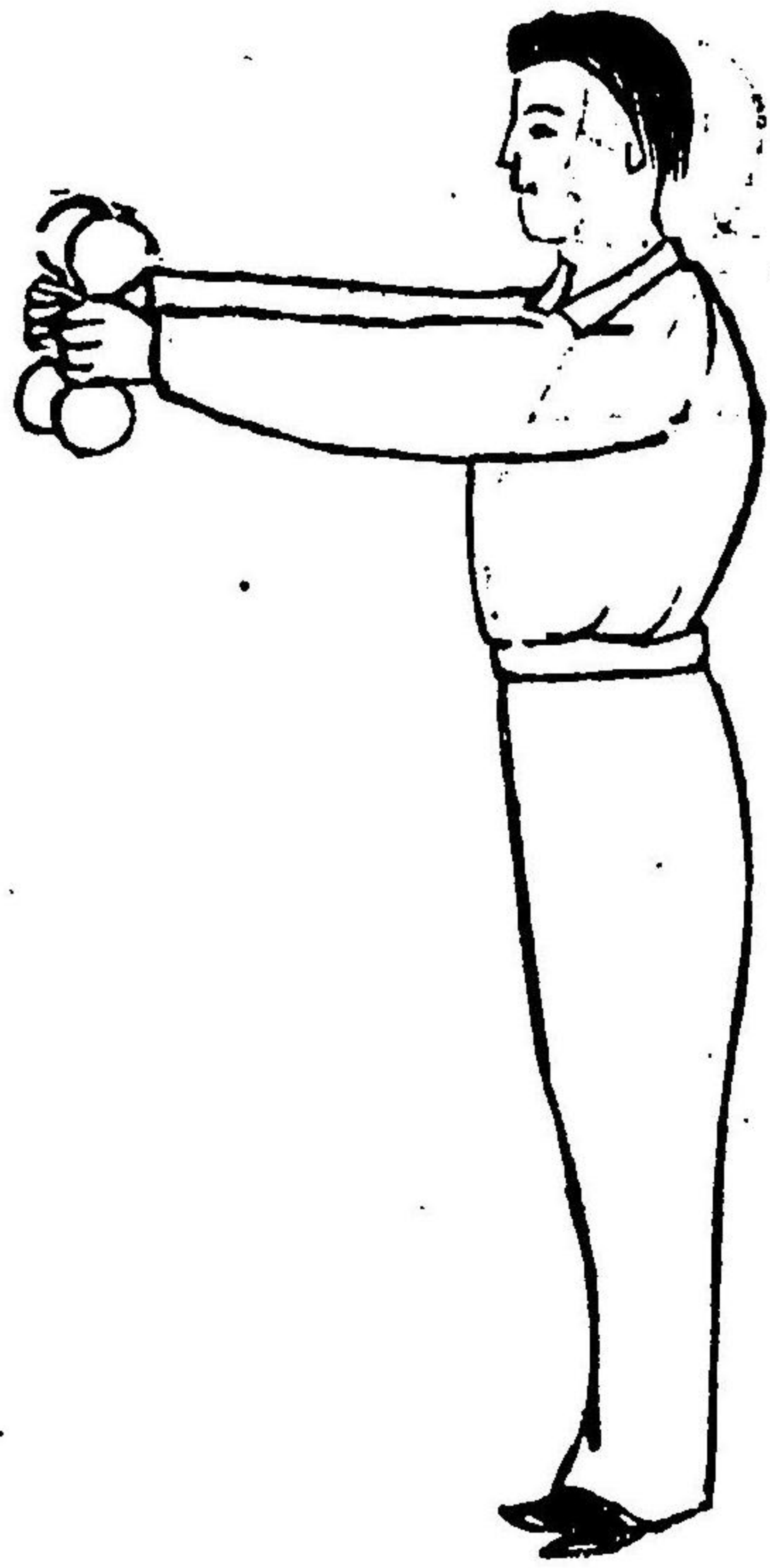
同三圖



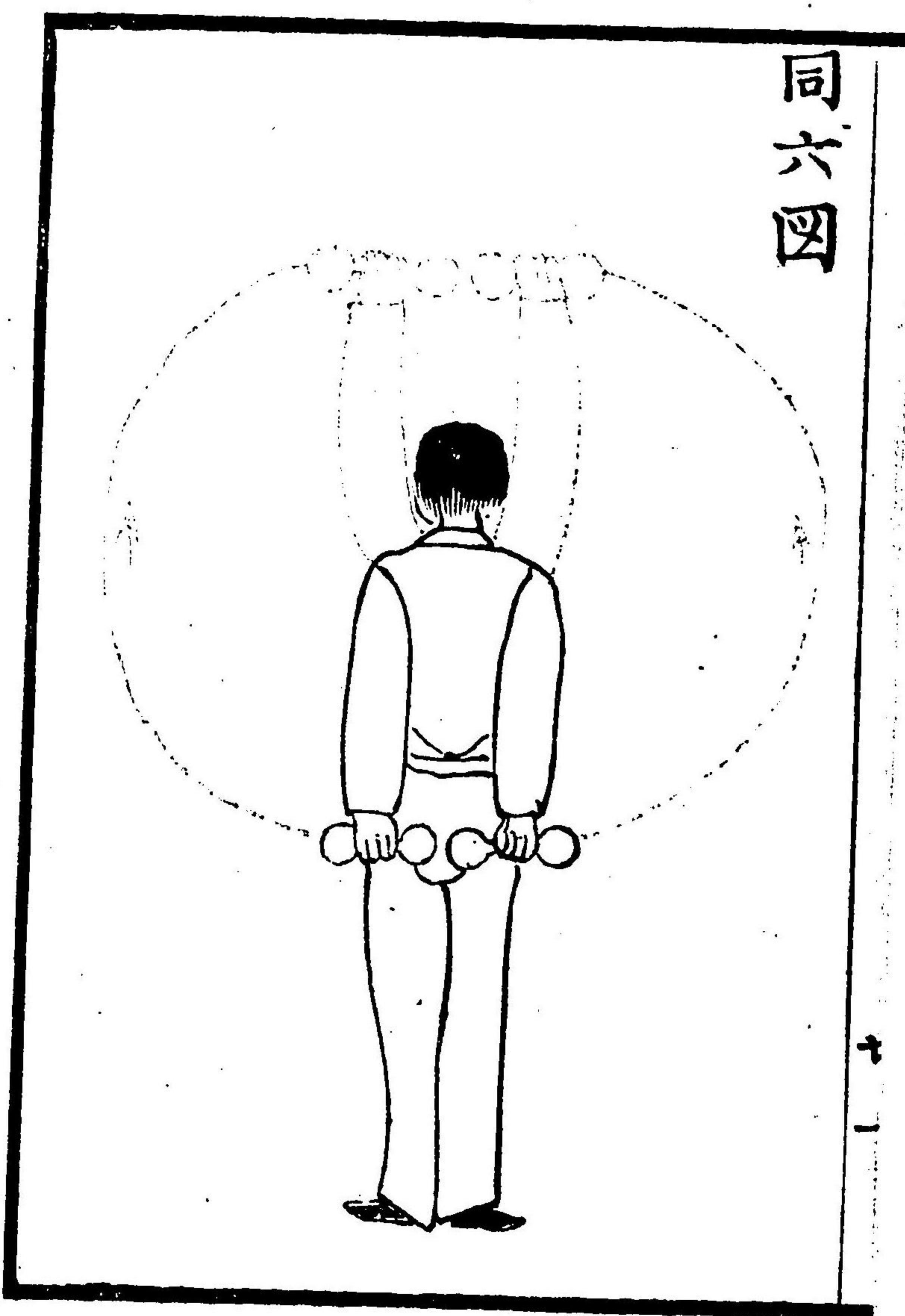
同四圖



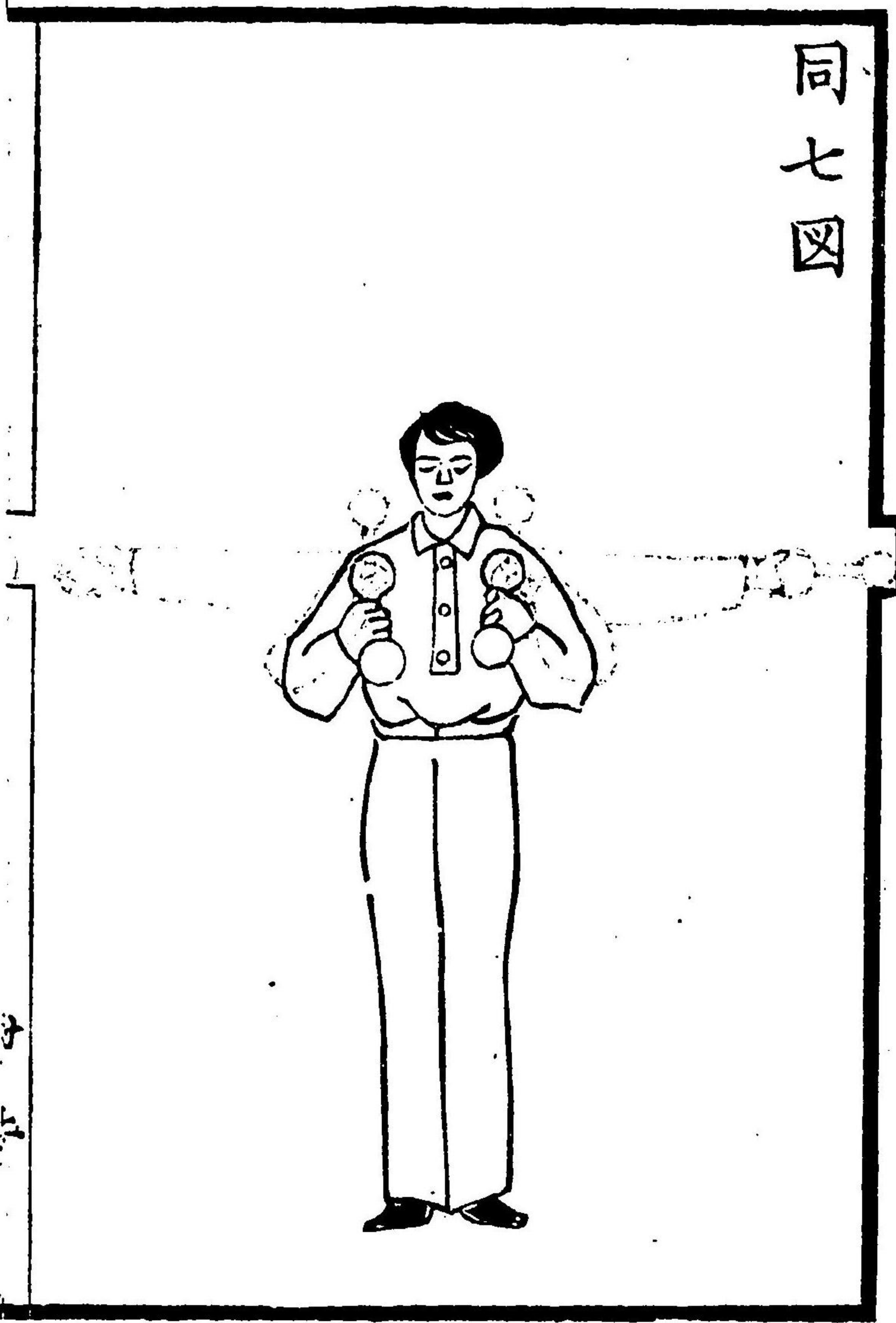
同五圖



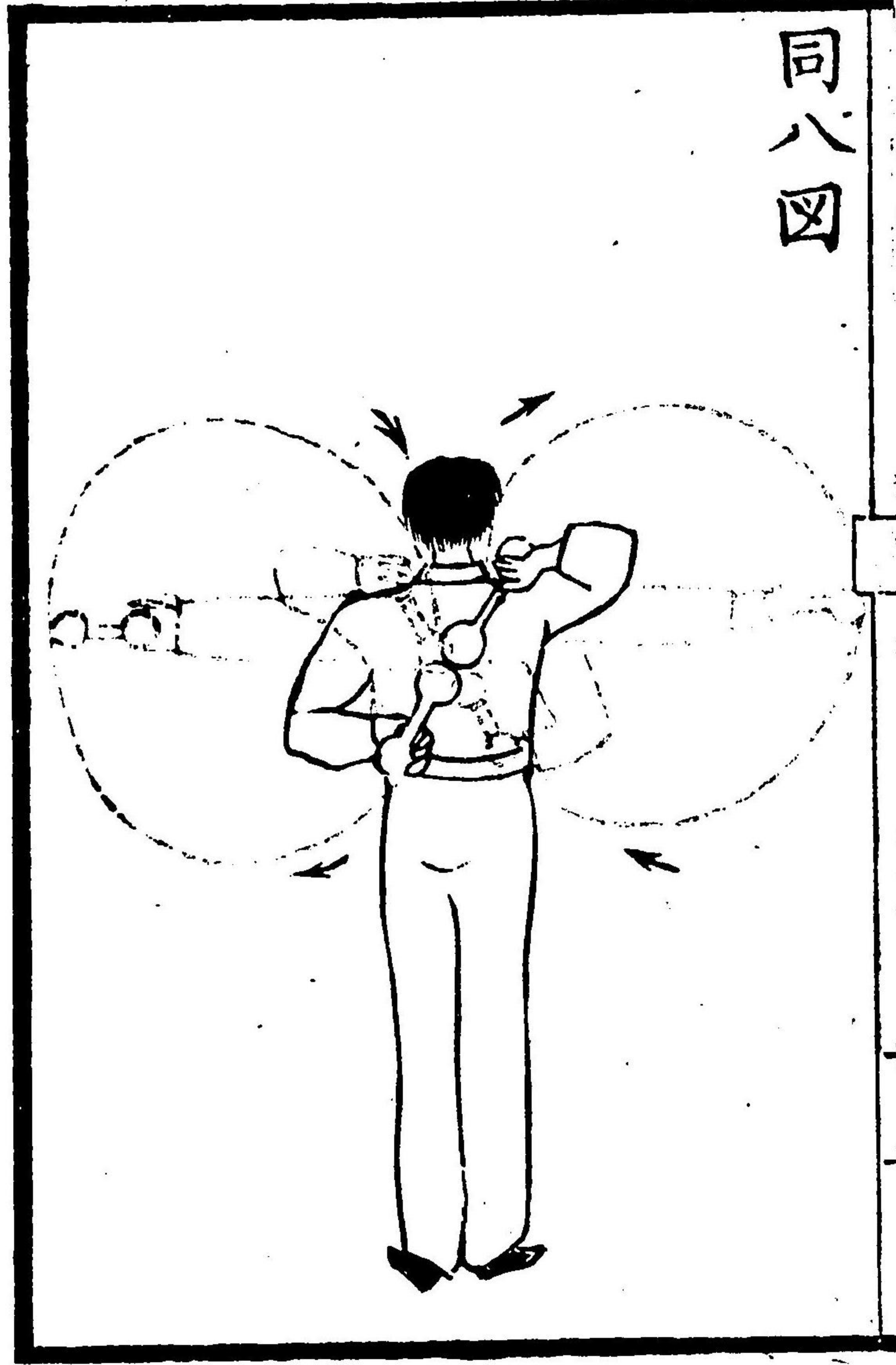
同六圖



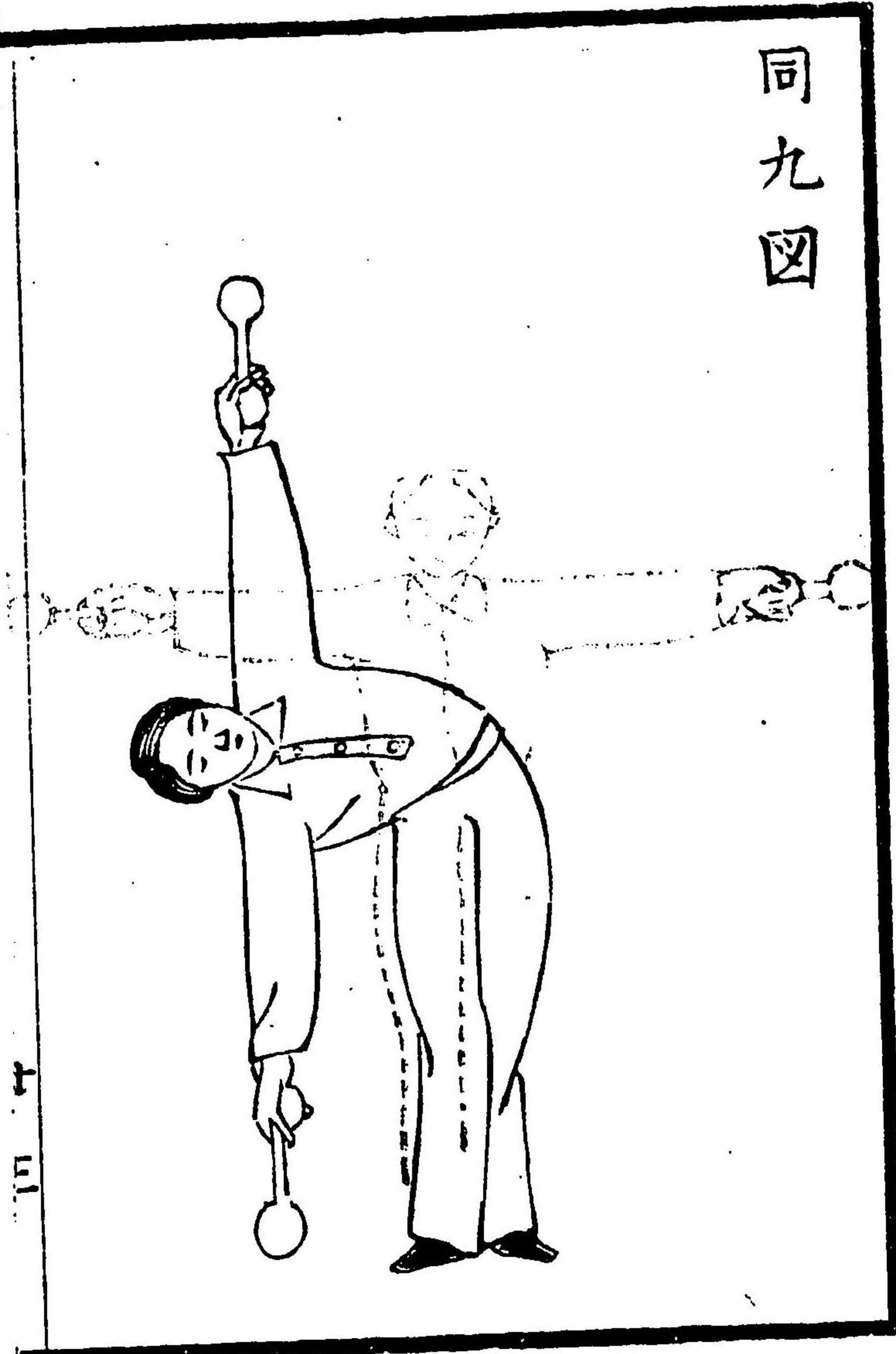
同七圖



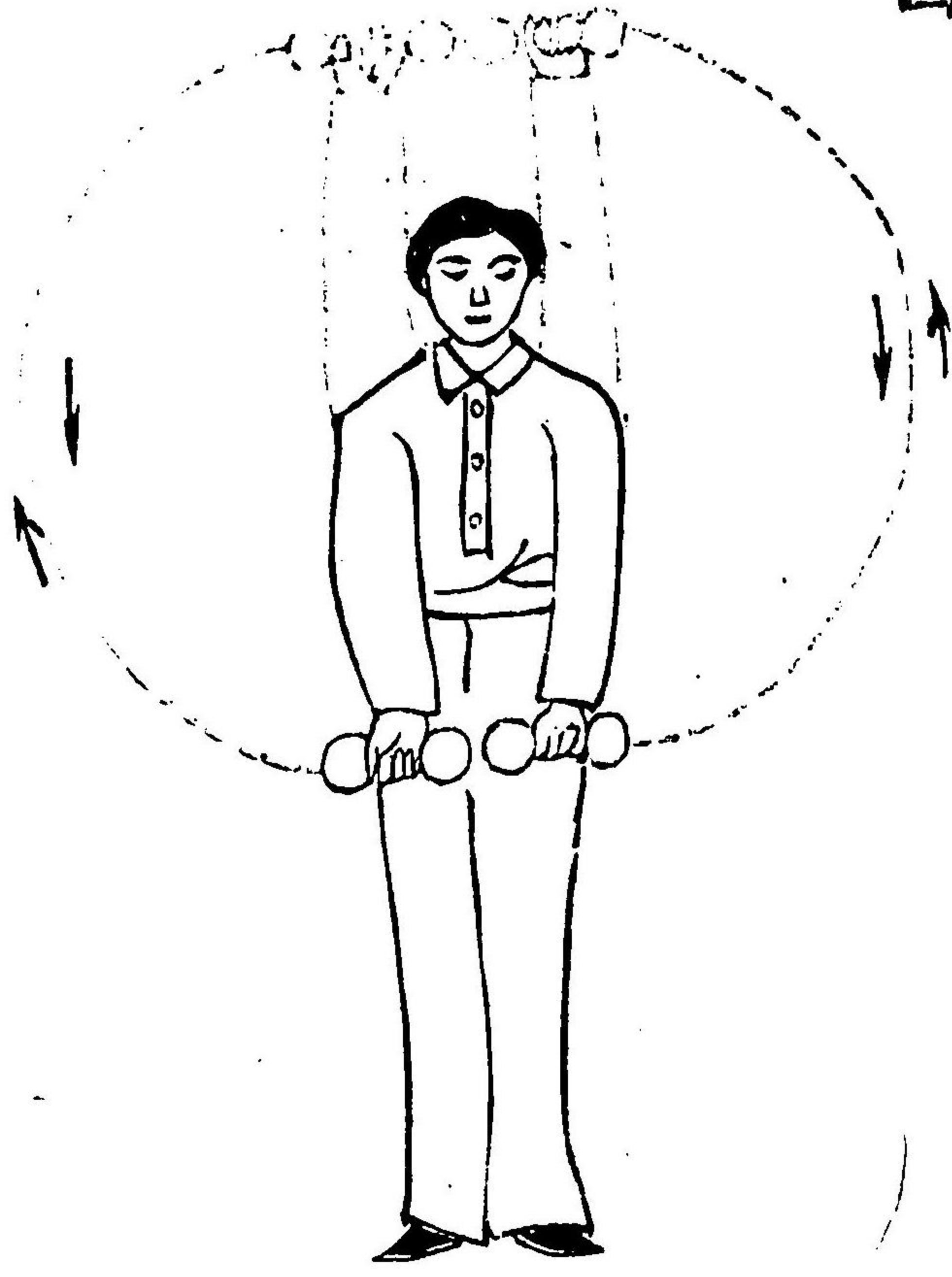
同八回



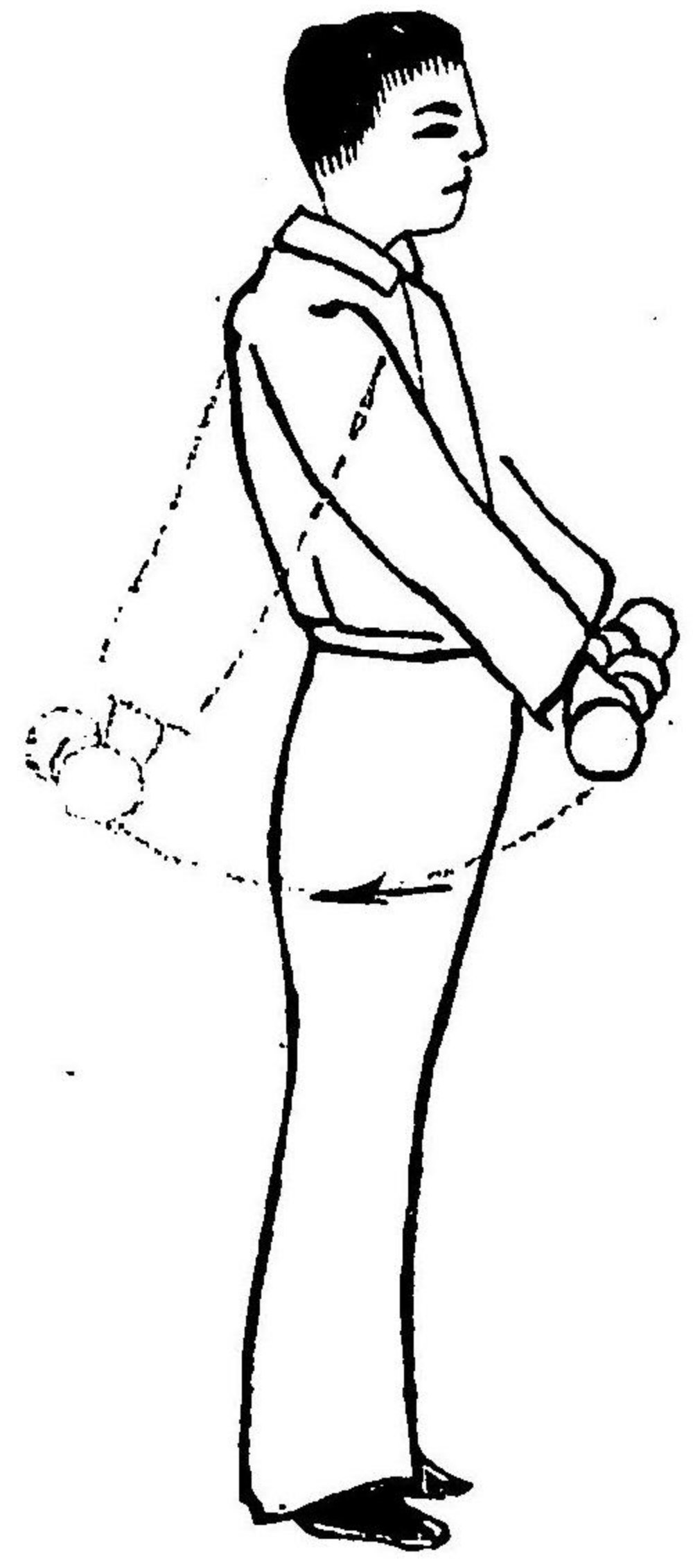
同九回



同十四



同十四



11  
12

11  
12

同十二圖



同十四圖



同十五圖



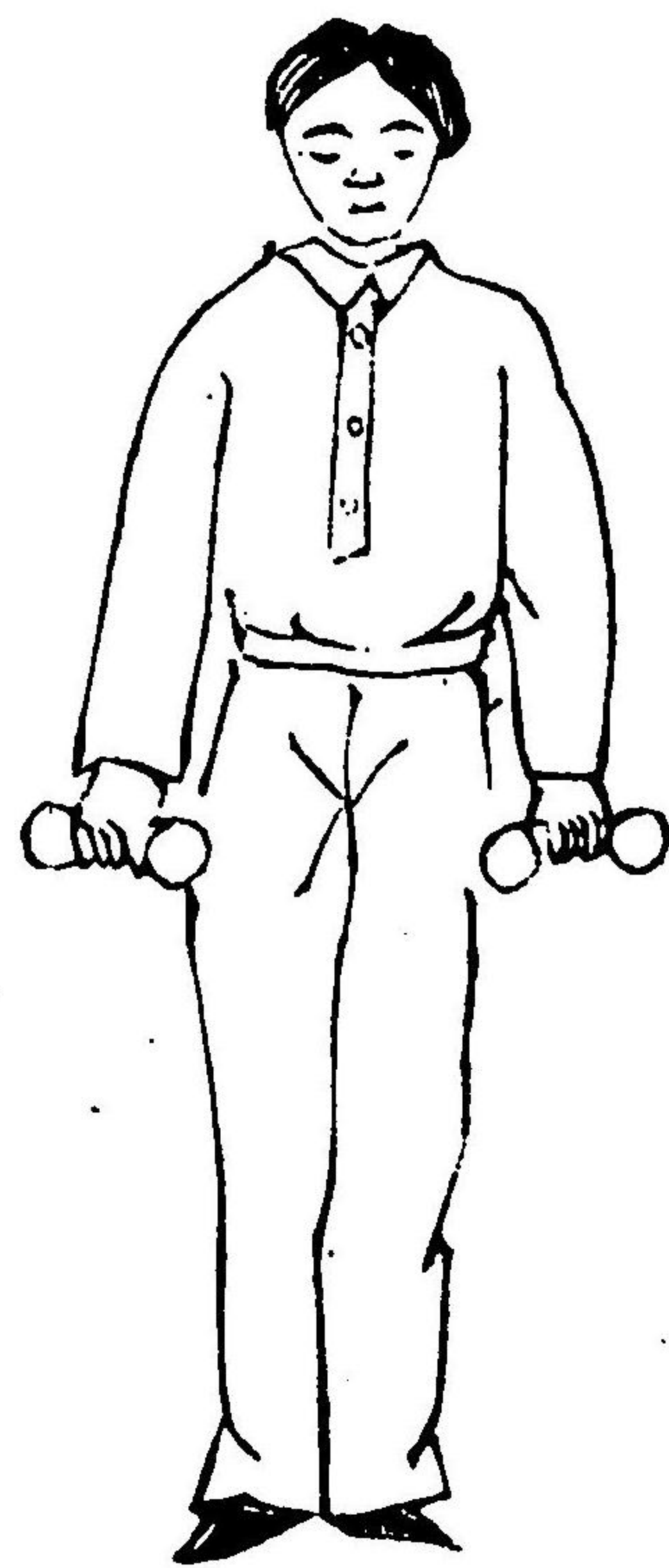
同十六圖



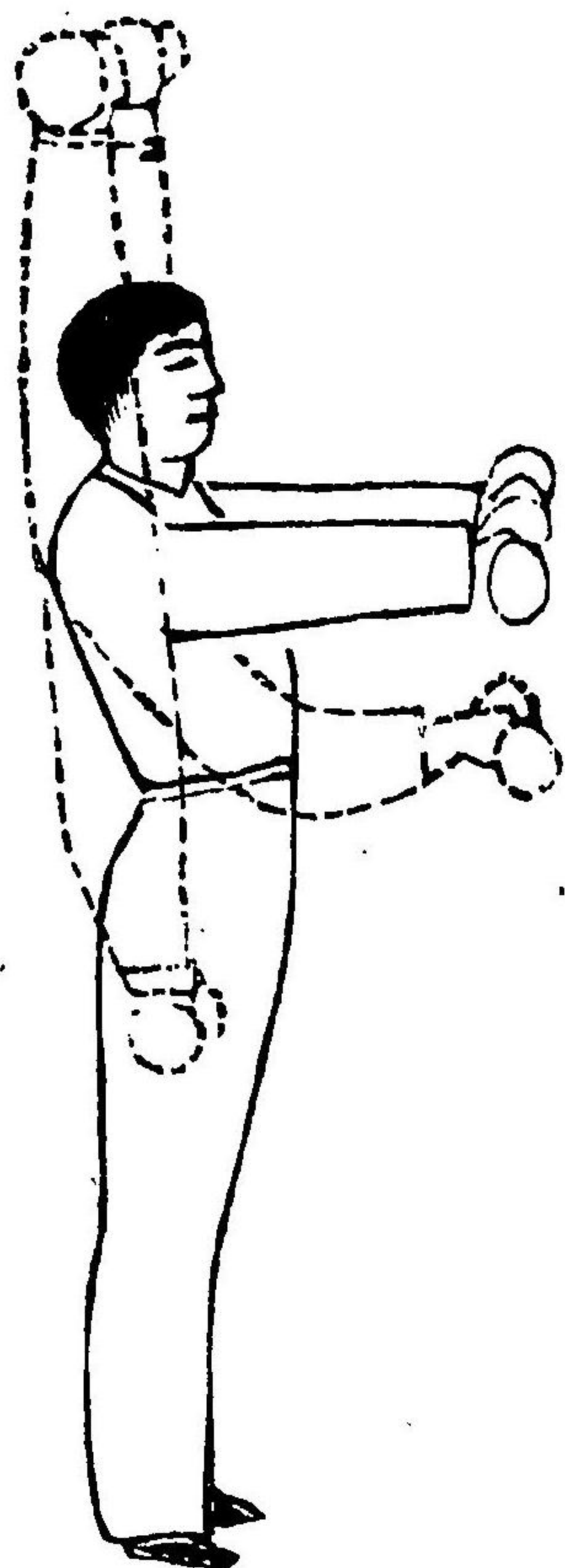
十五

十六

啞鈴体操第二  
同十七回

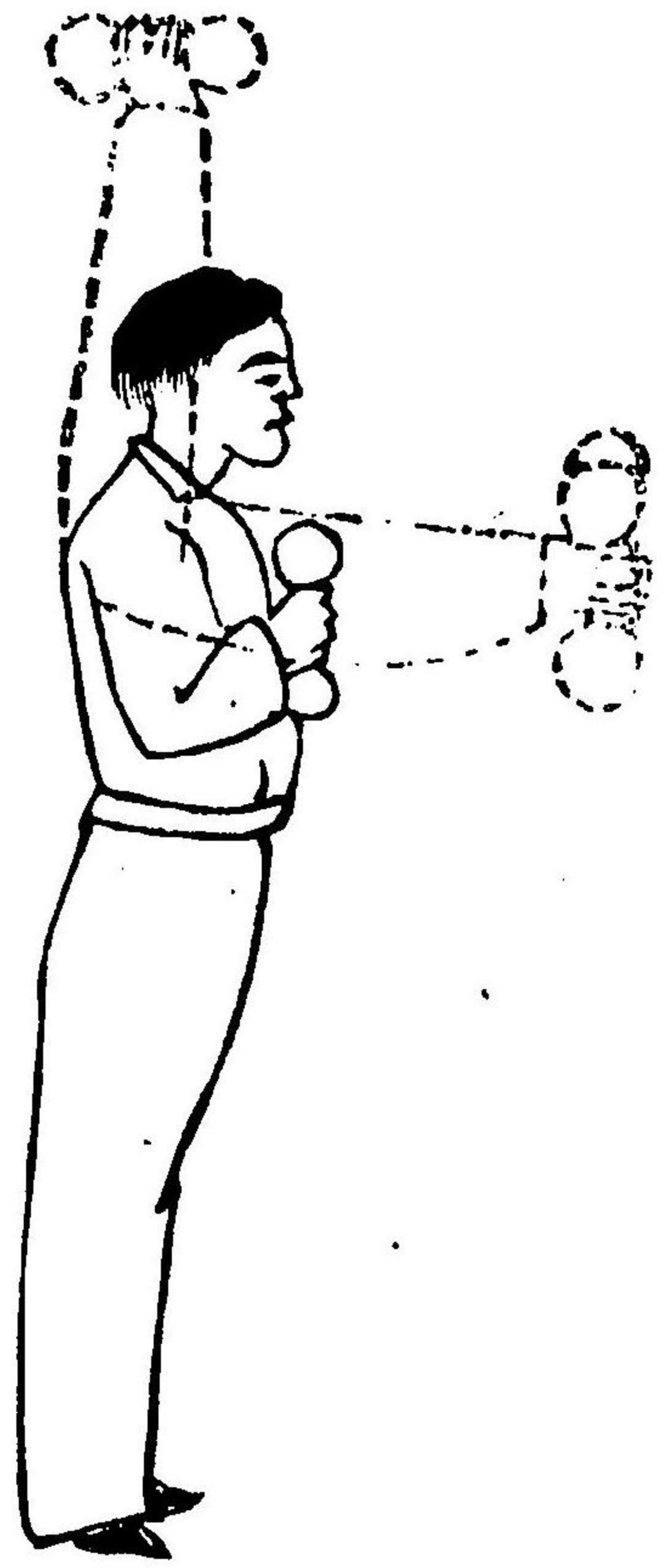


同十八回

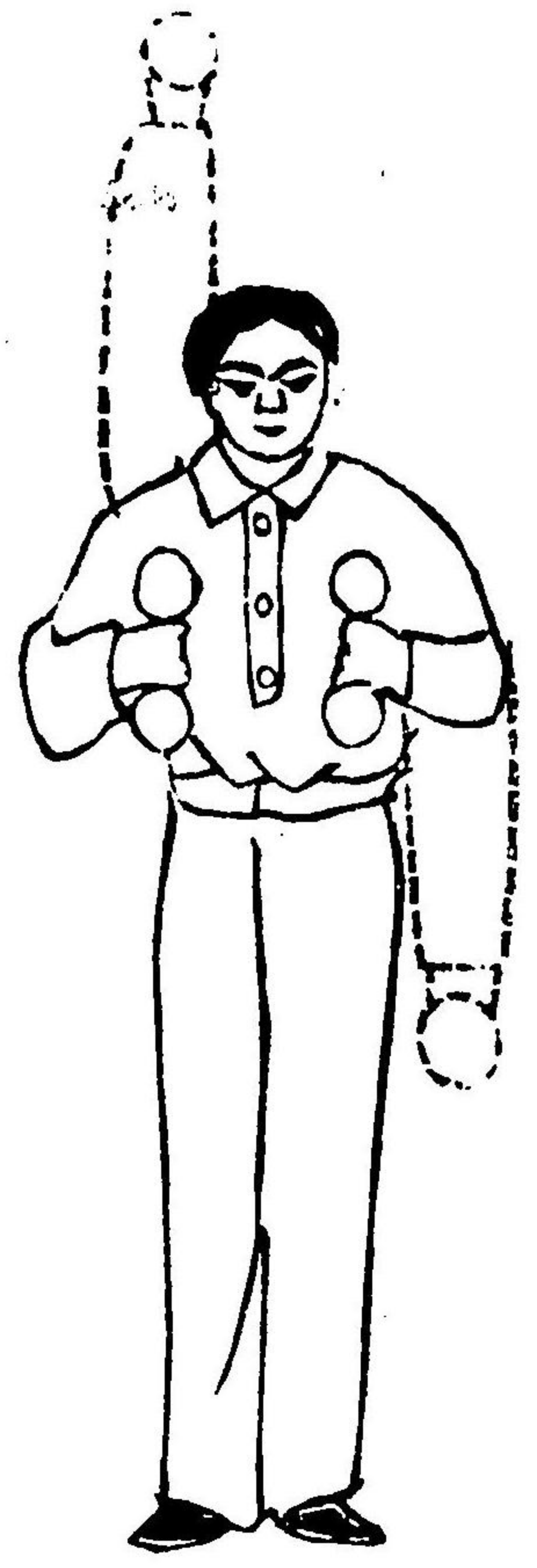




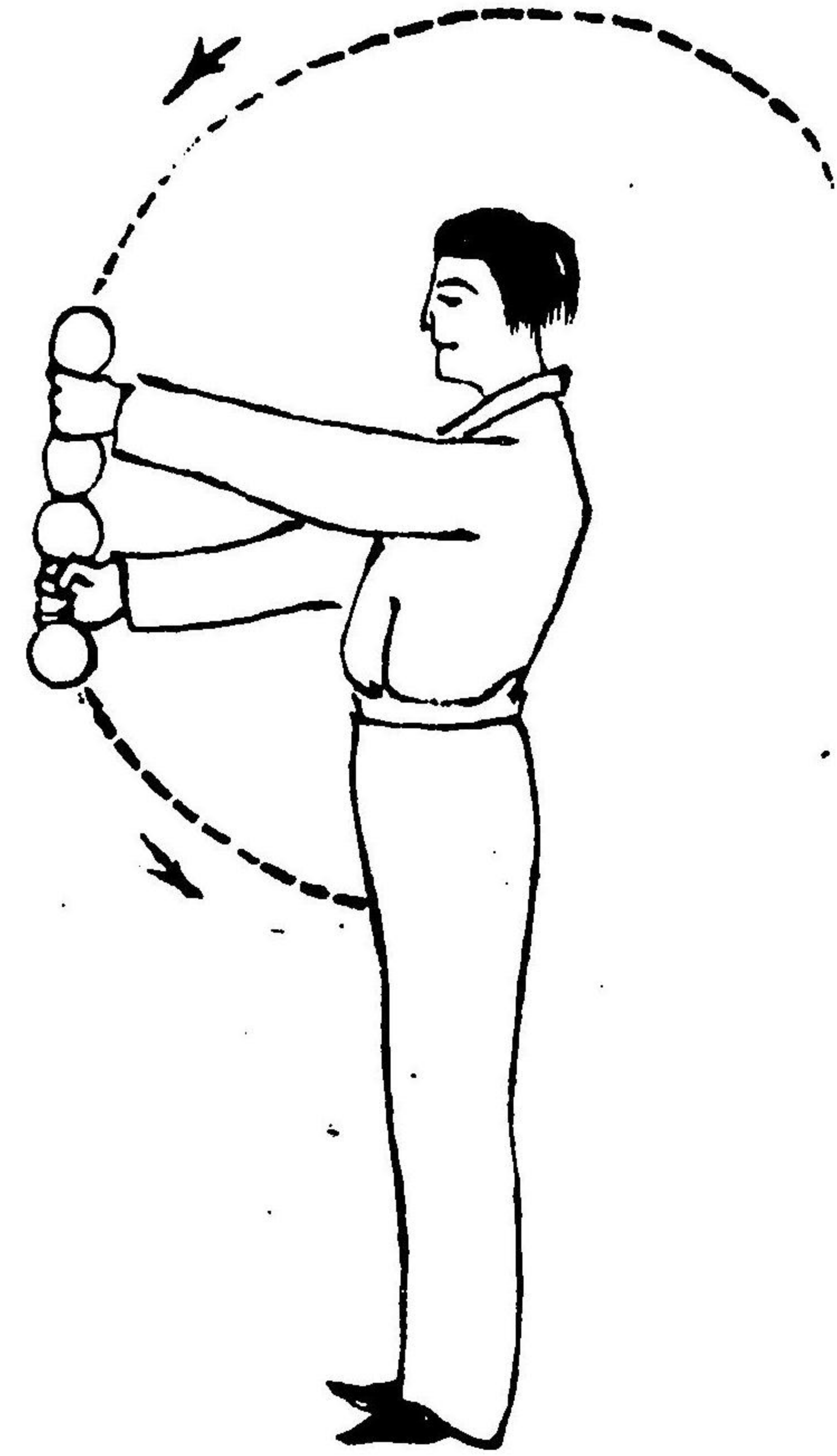
同十九回



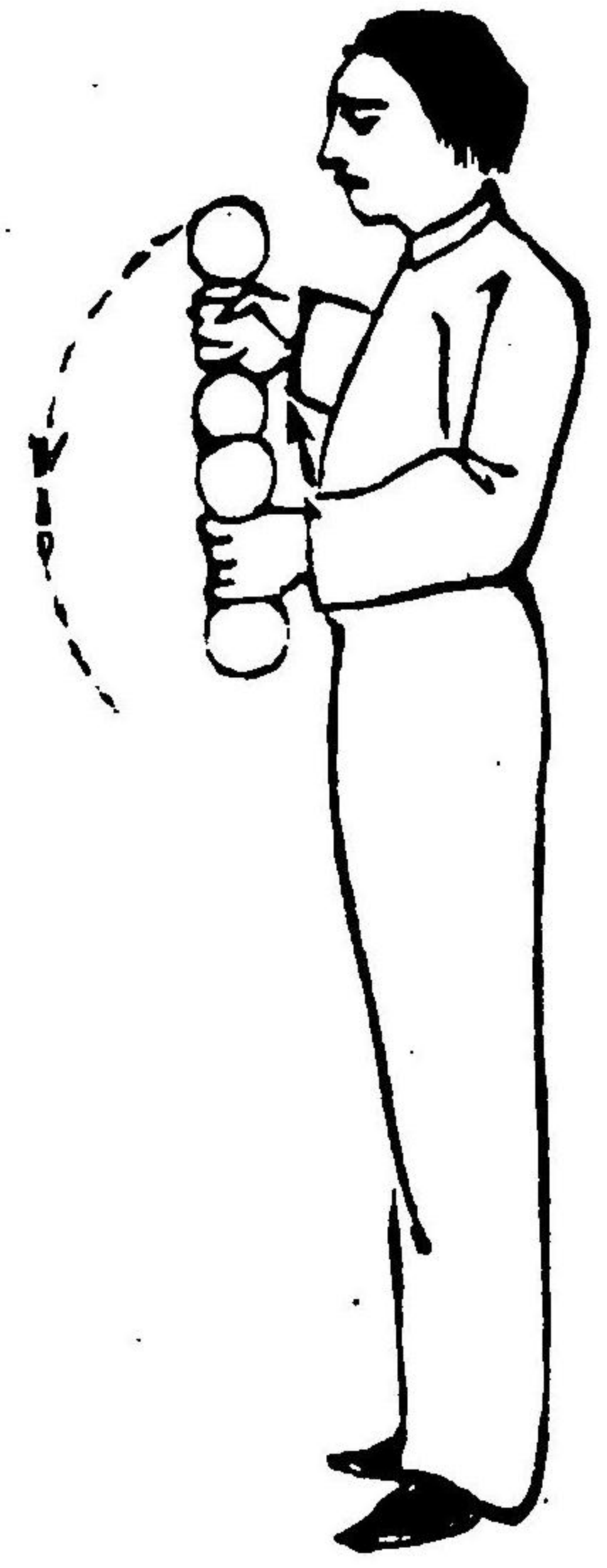
同二十四



同廿一圖



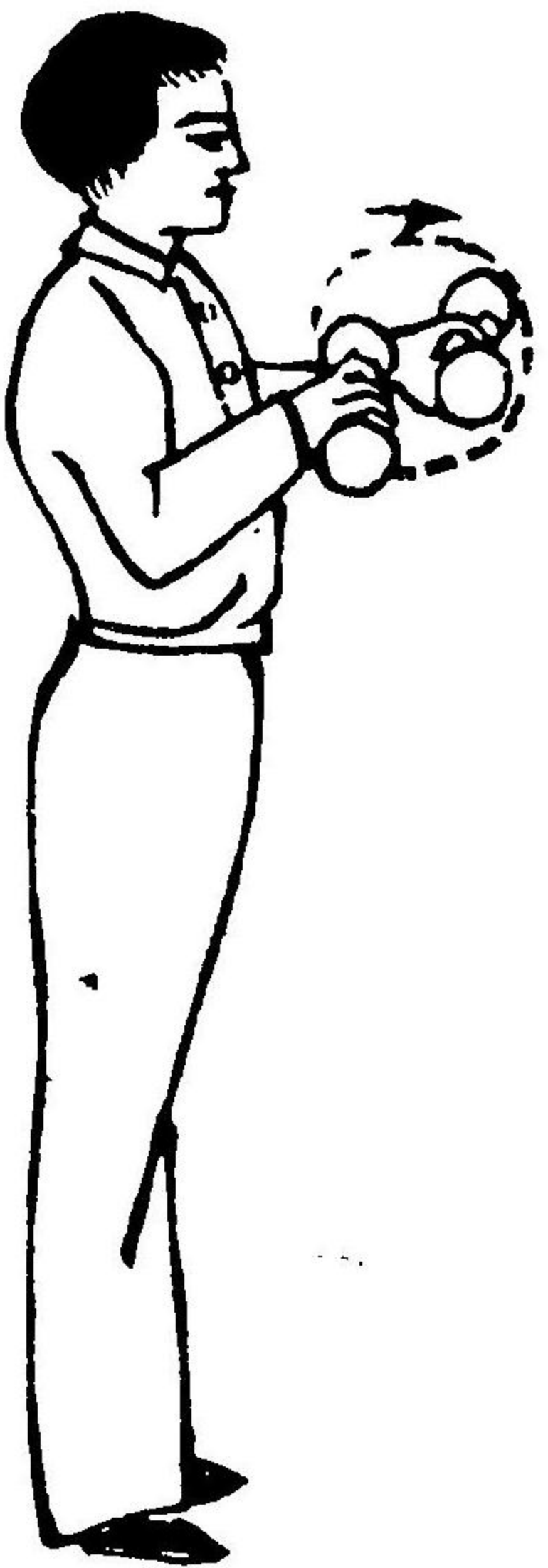
同廿二圖



廿九

廿八

同廿三圖



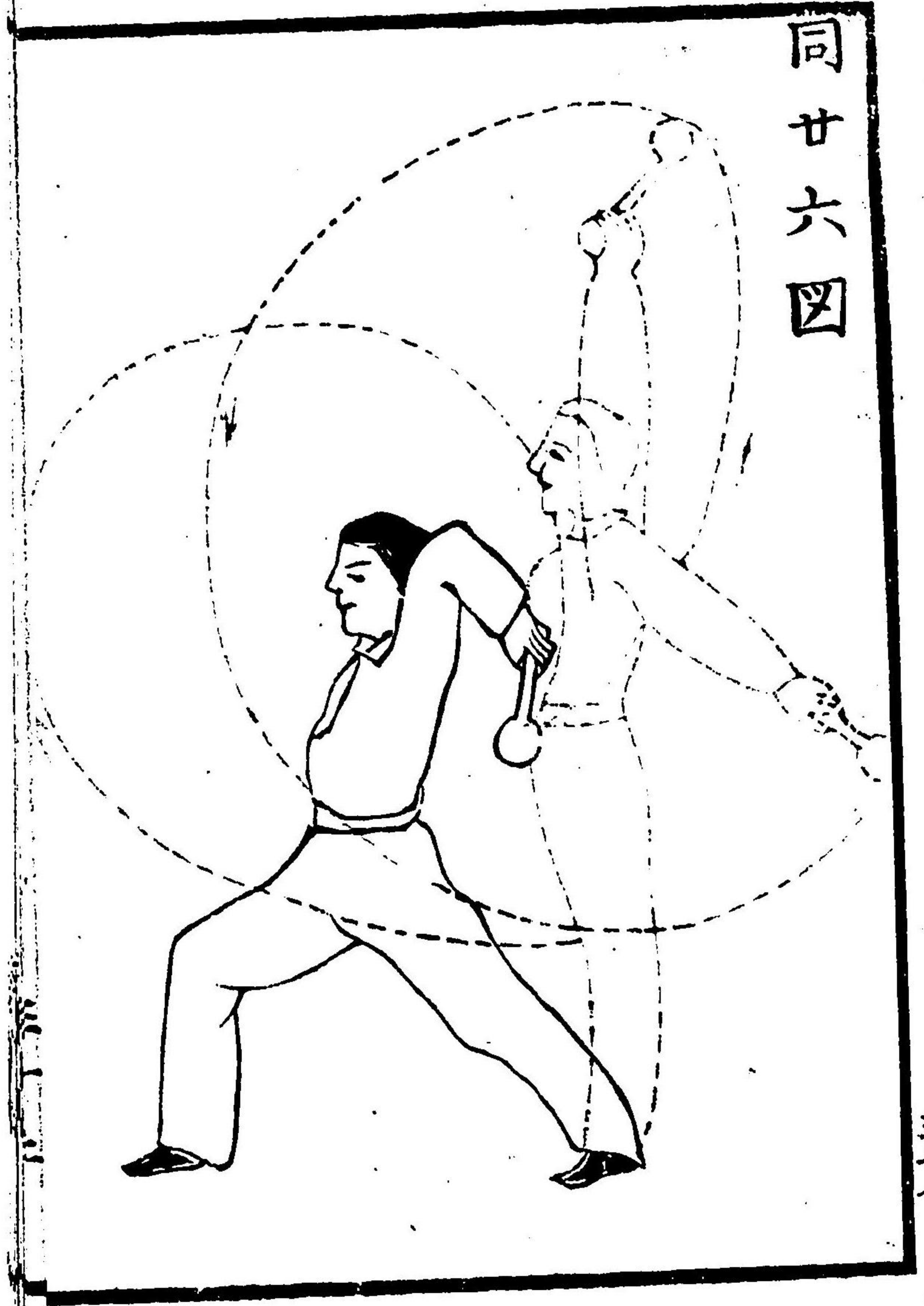
同廿四圖



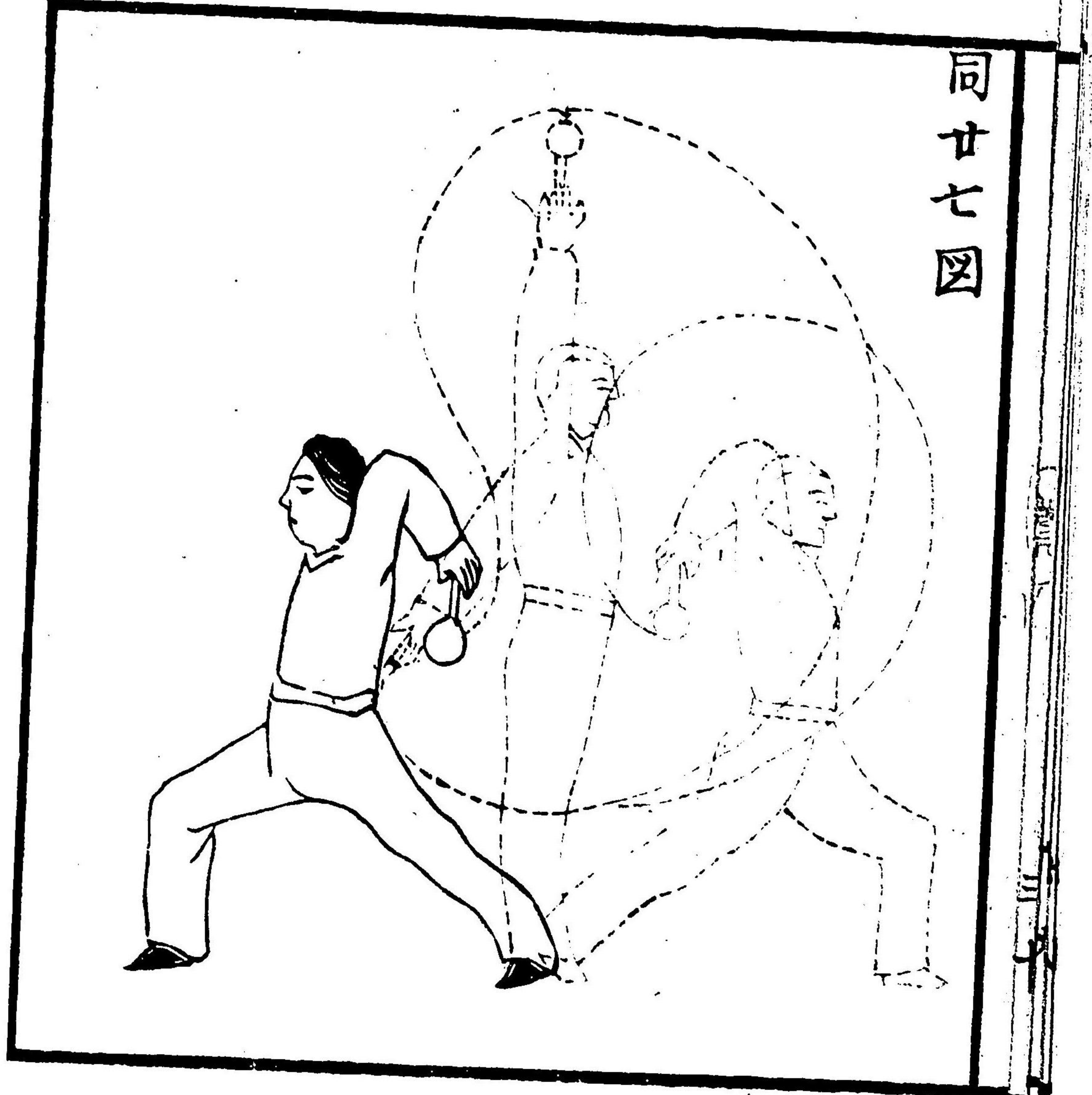
同廿五圖



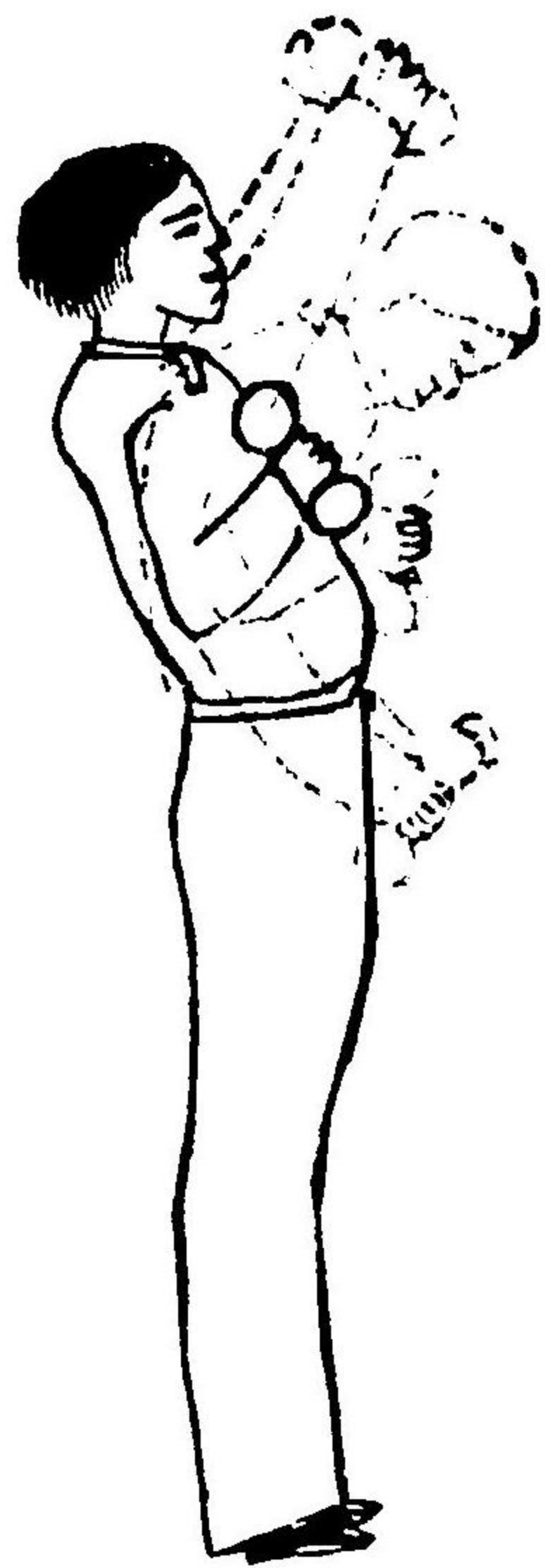
同廿六圖



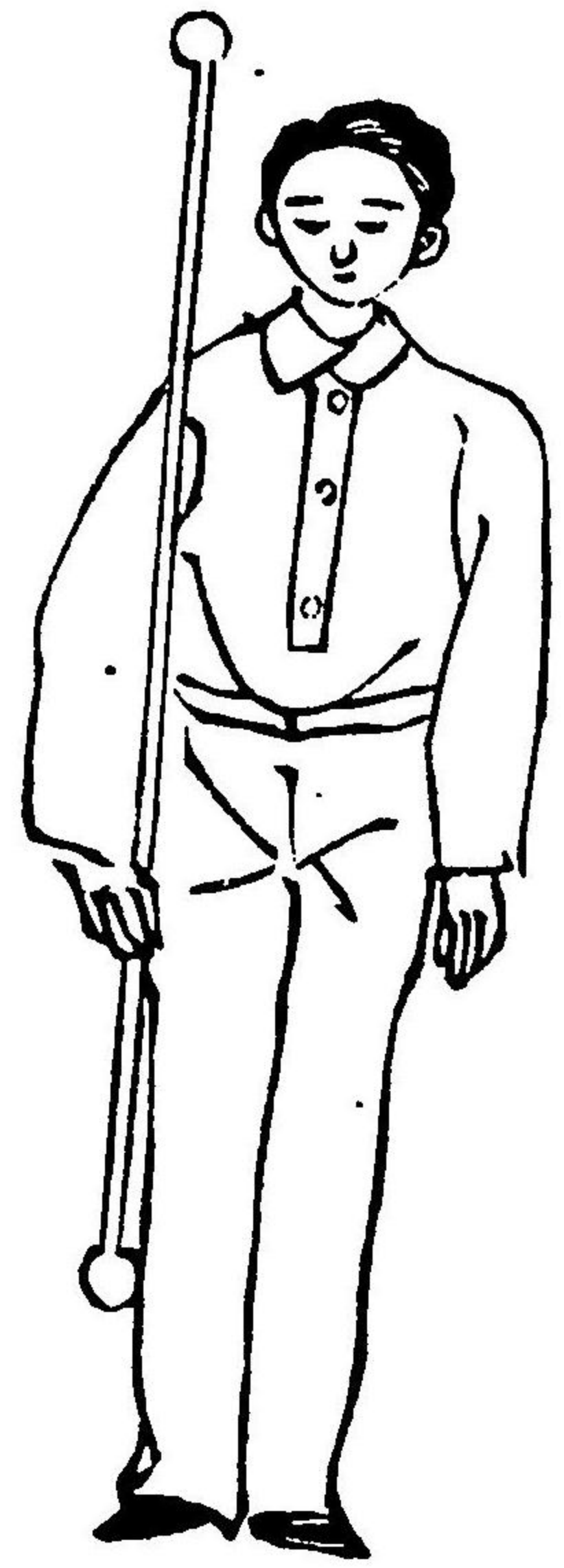
同廿七圖



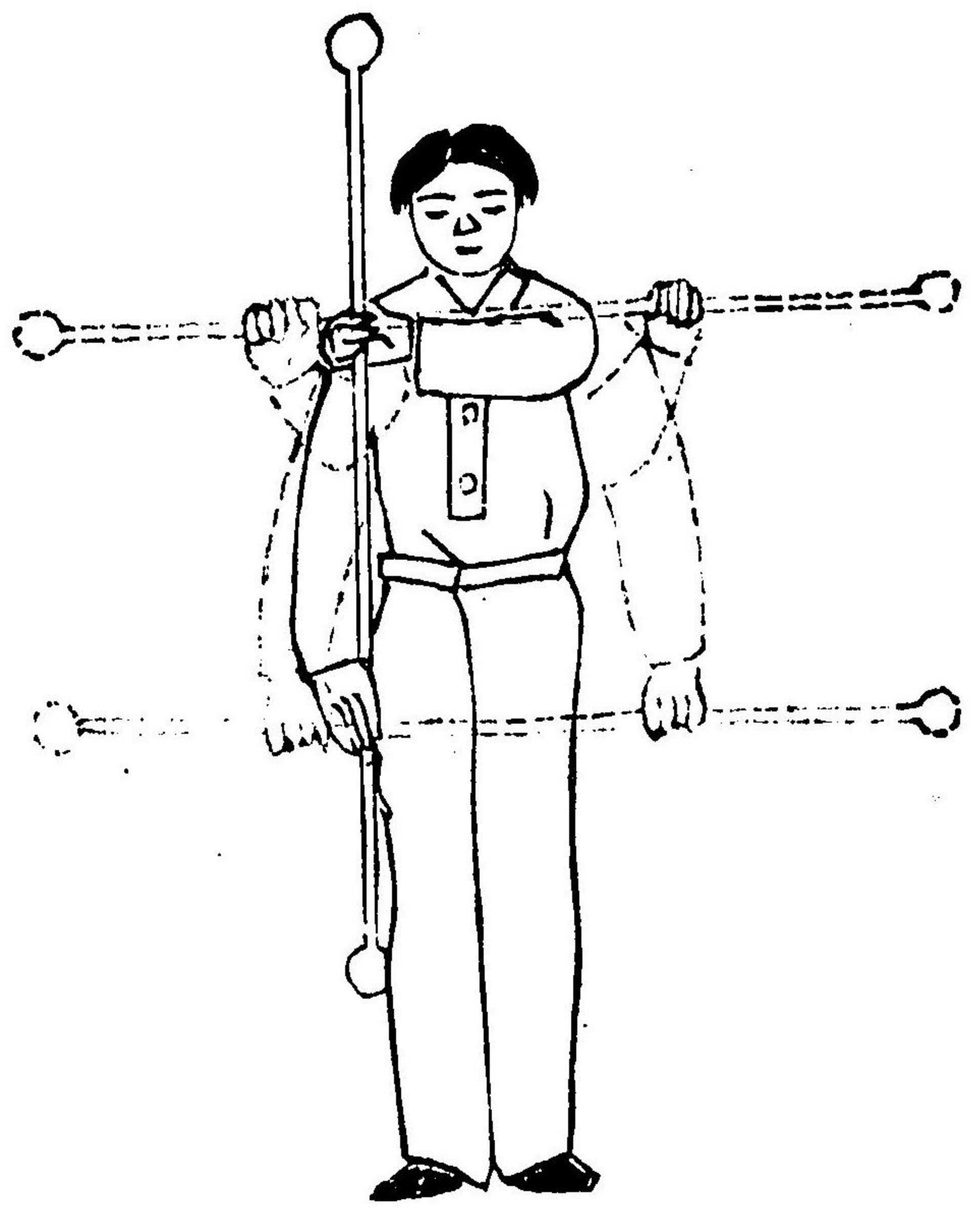
同二十八回



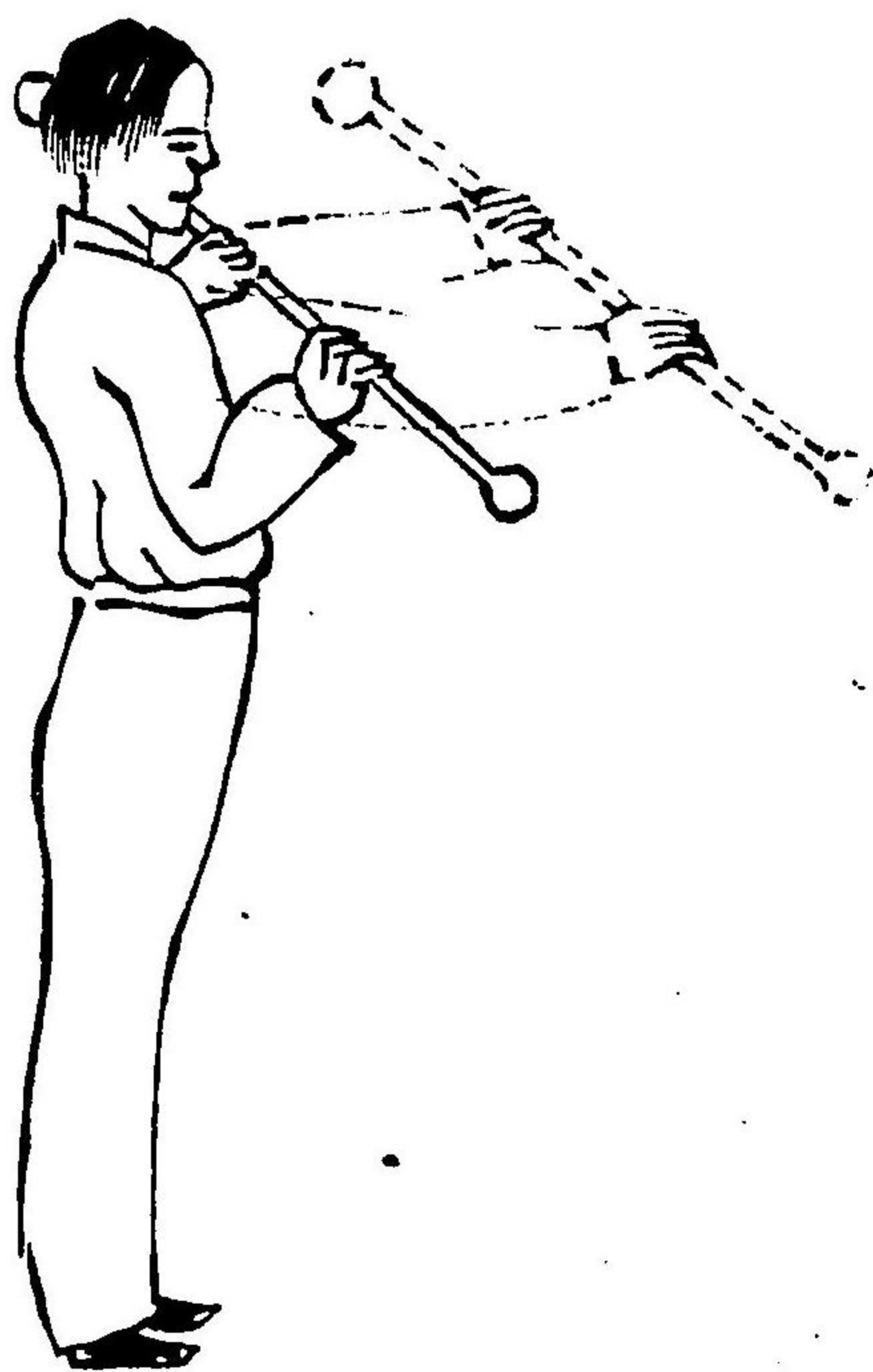
球竿体操  
第一回



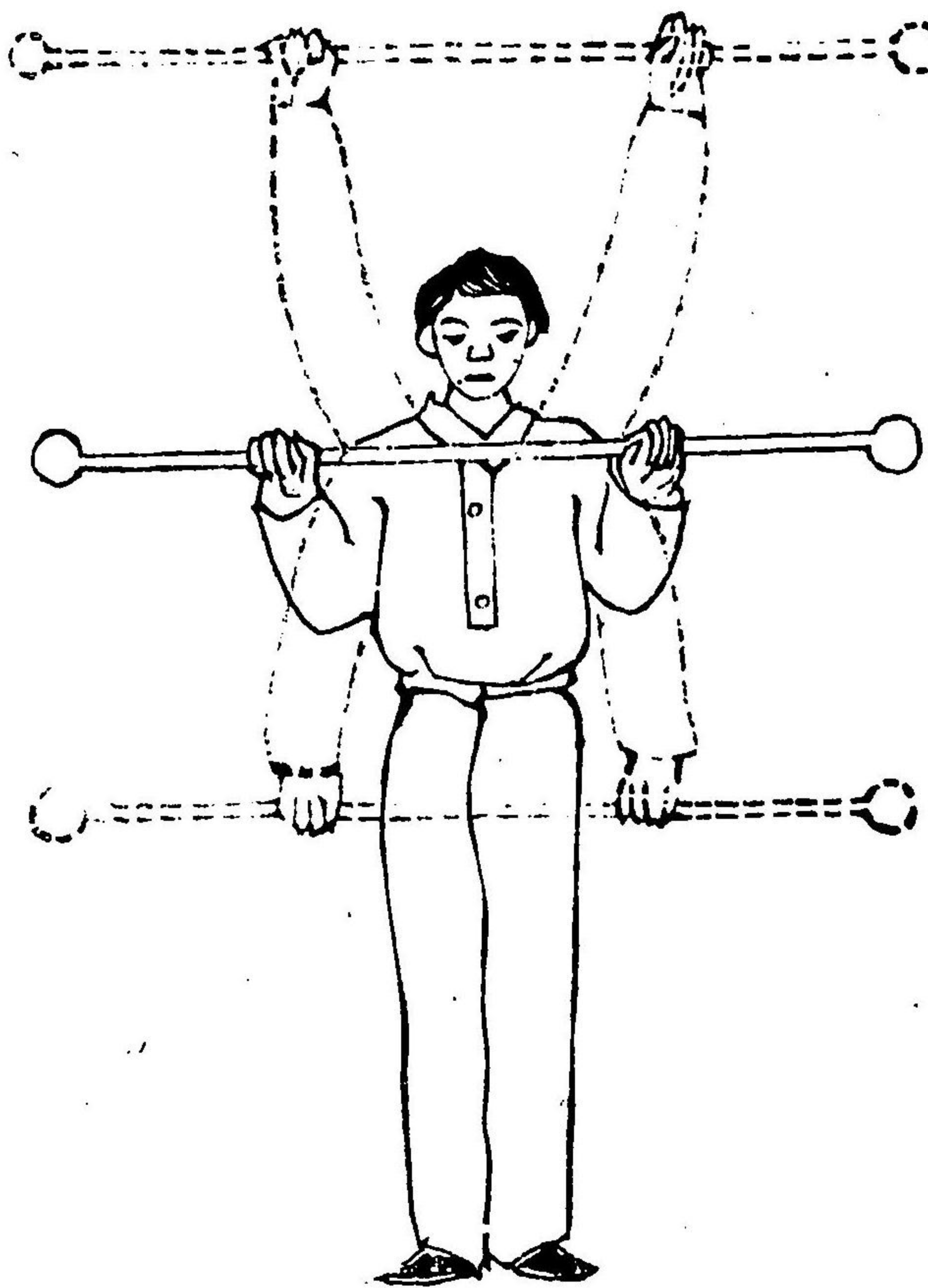
同二回



同三圖

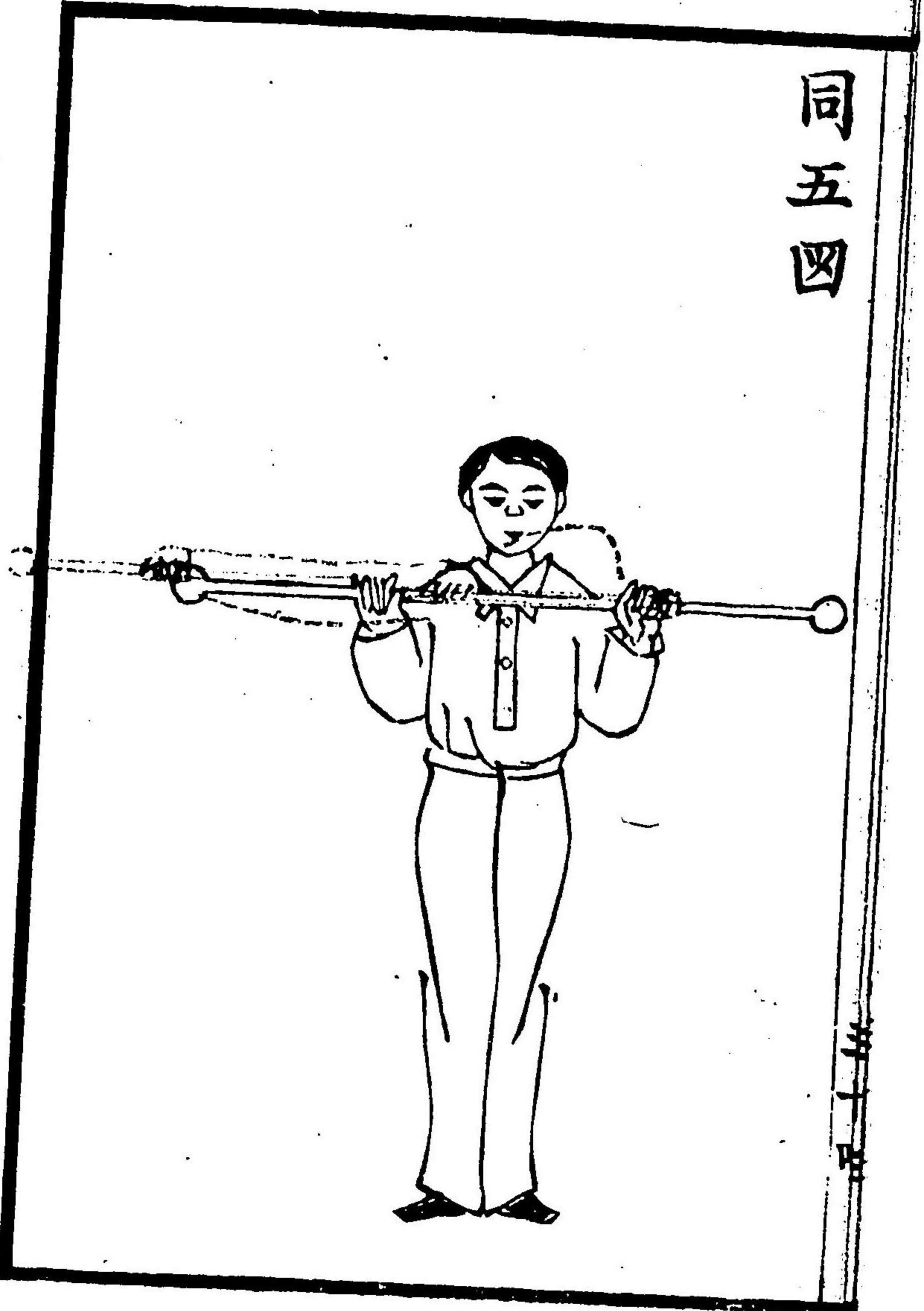


同四圖

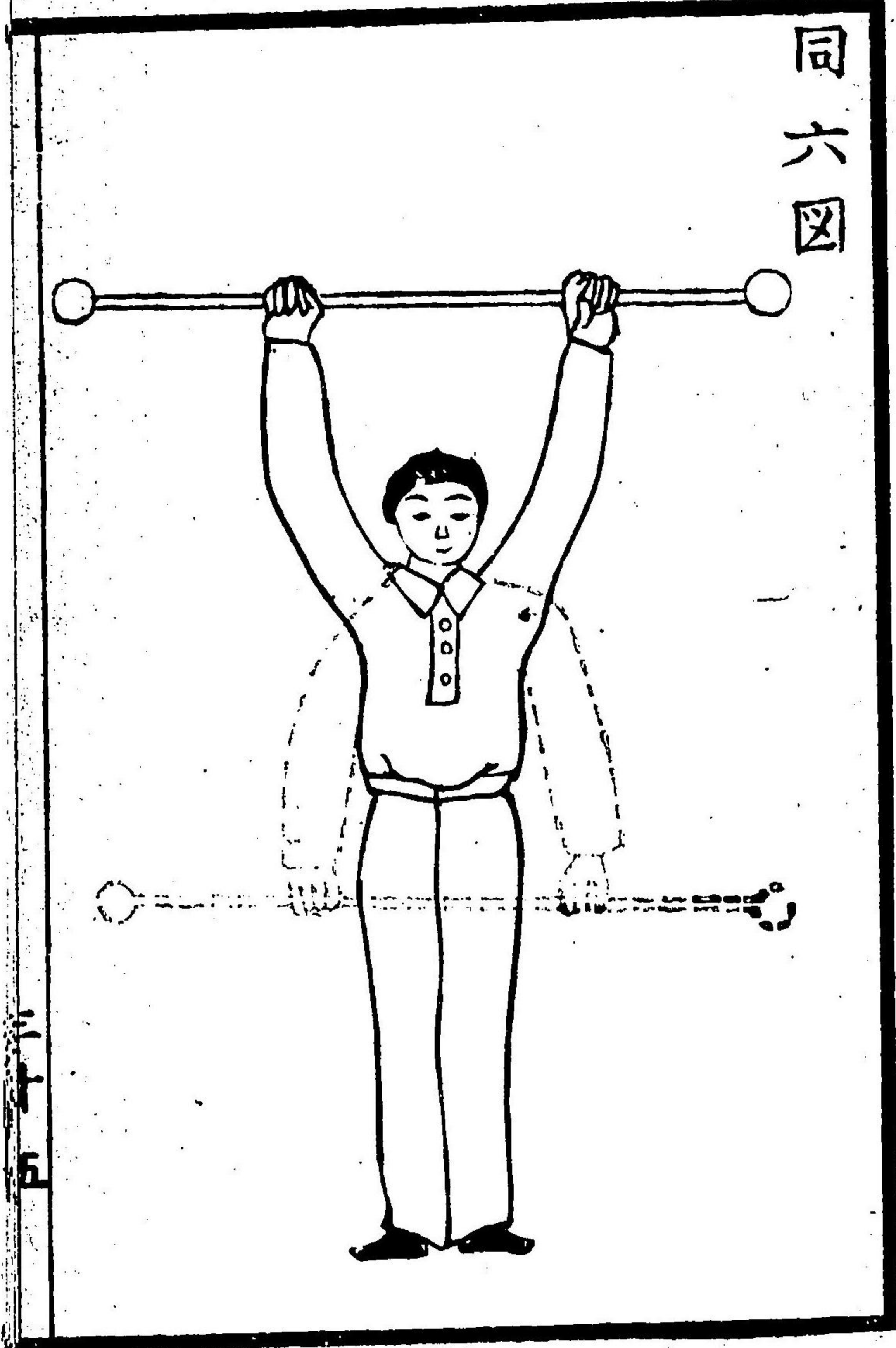




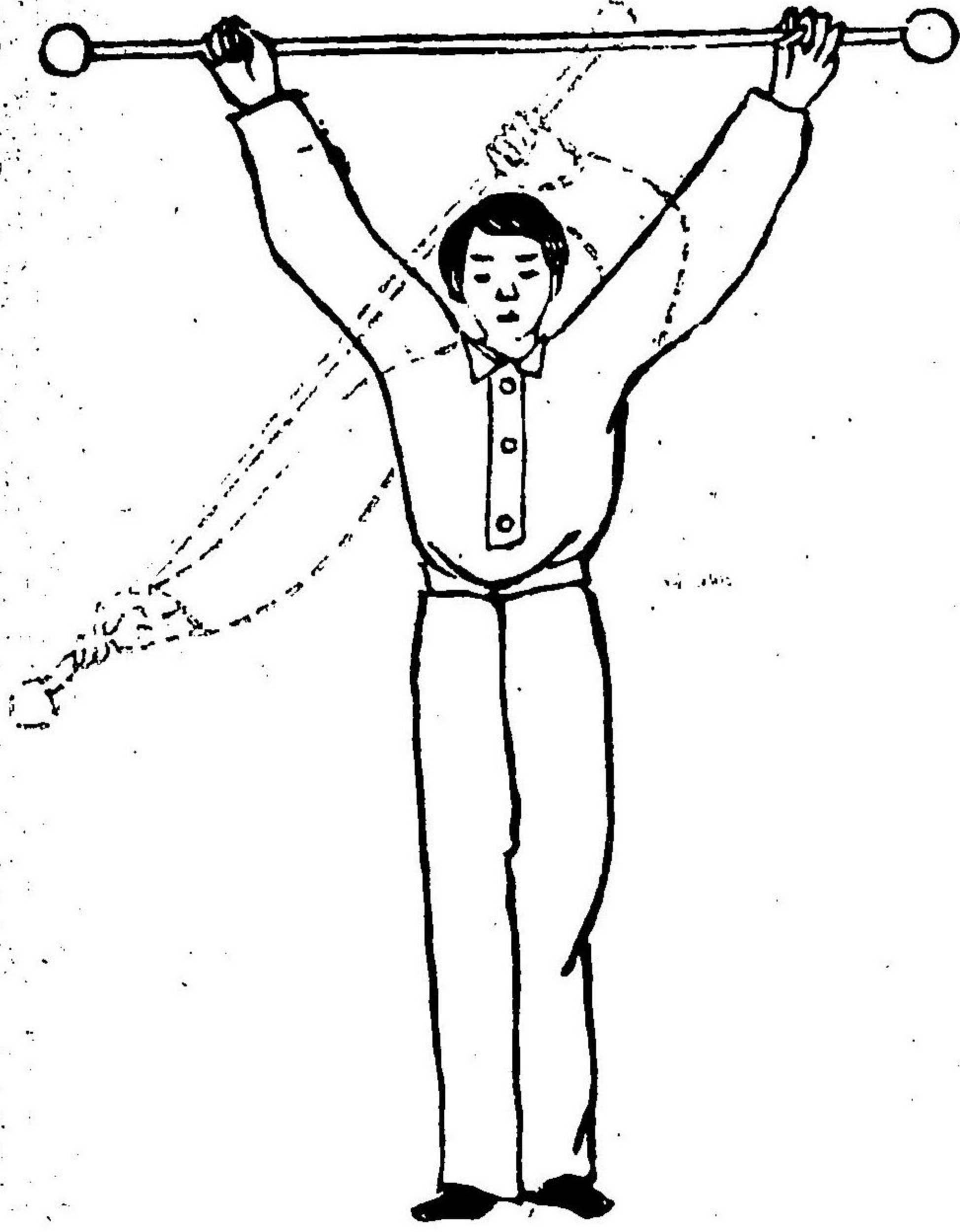
同五四



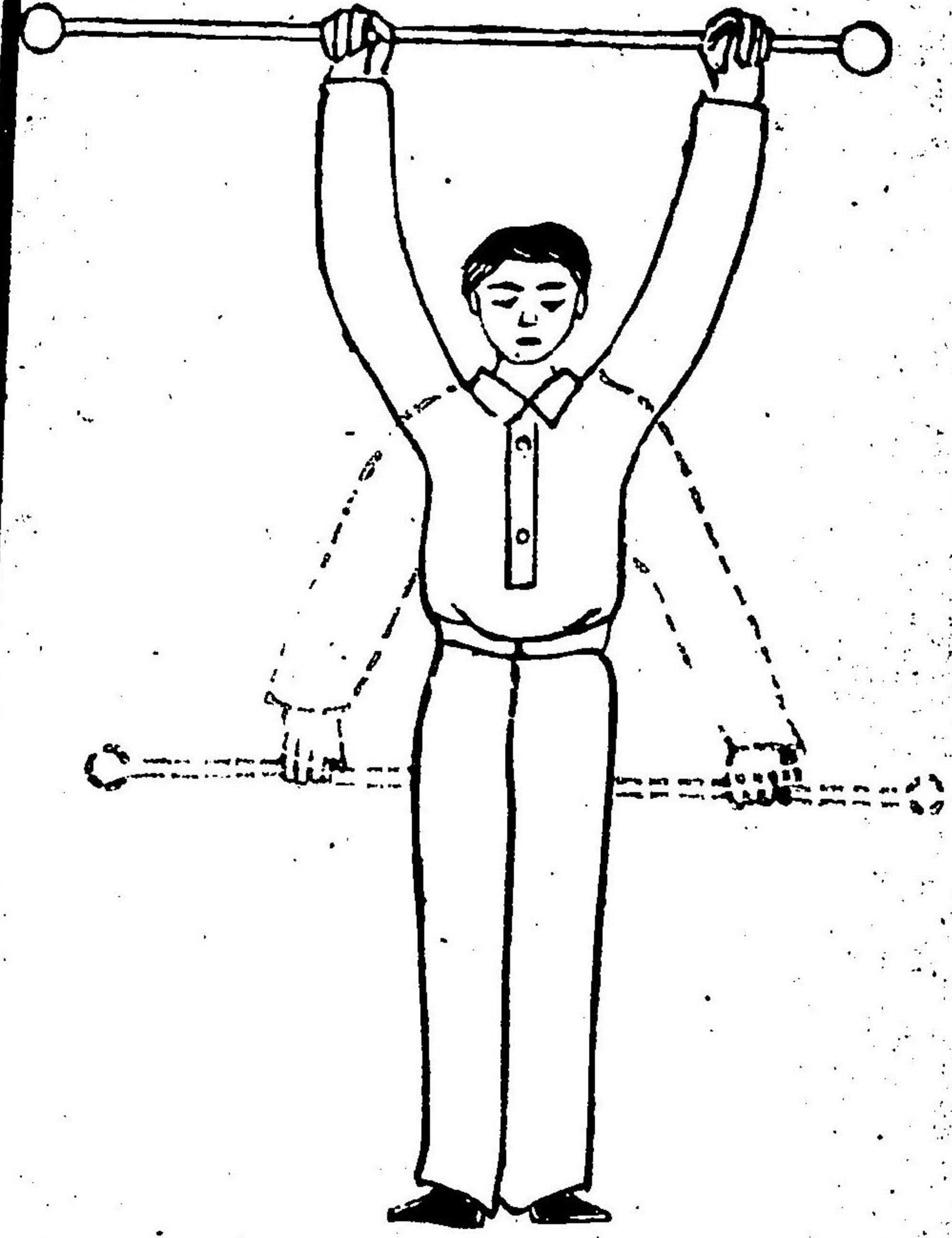
同六四



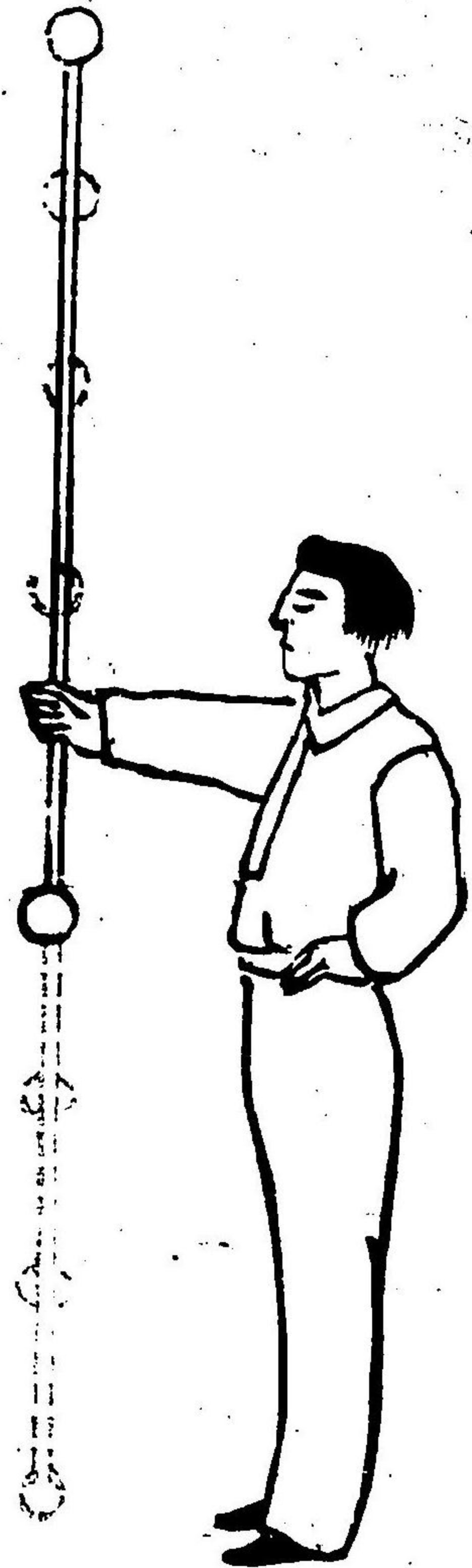
同八圖



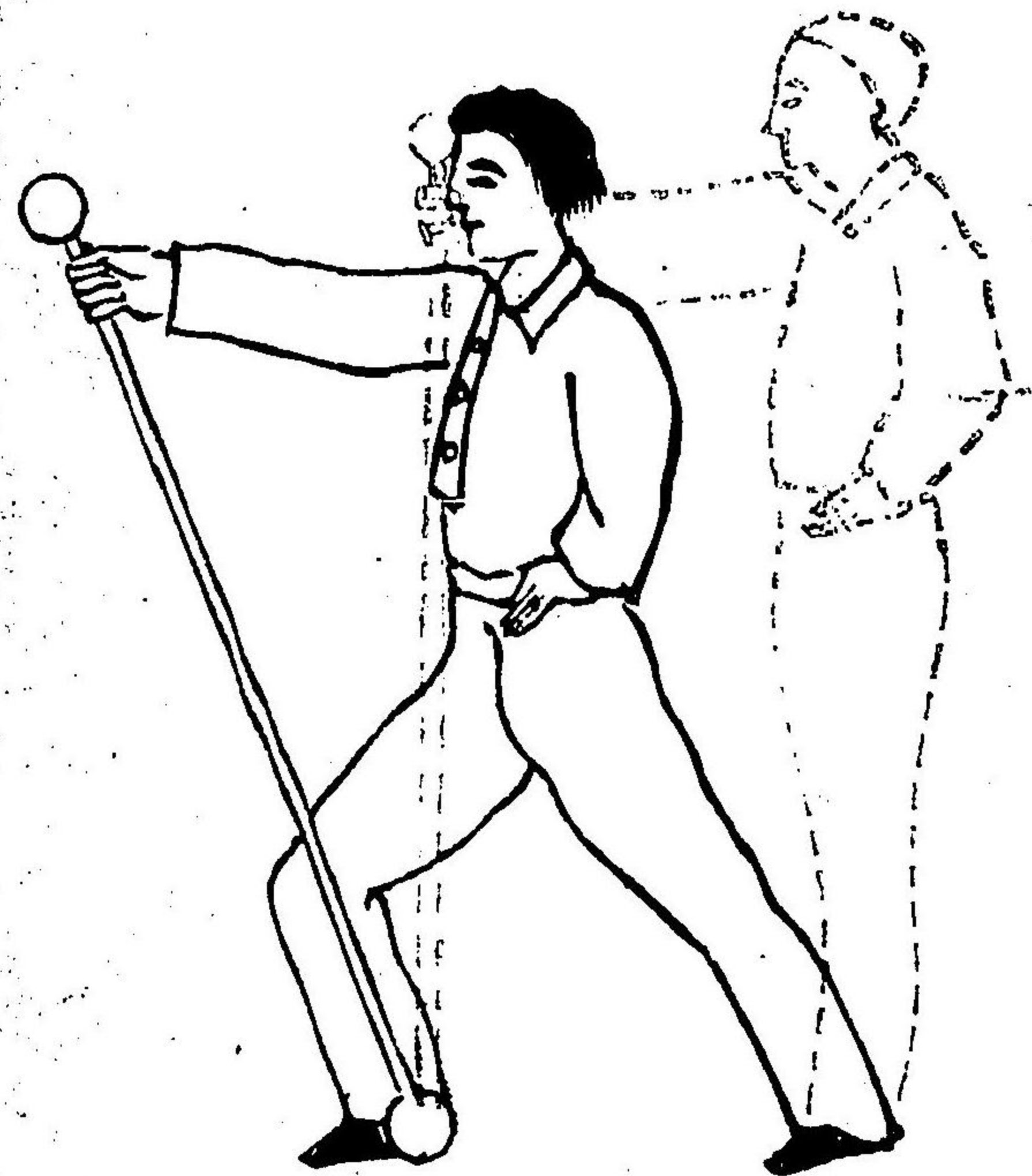
同七圖



同九四



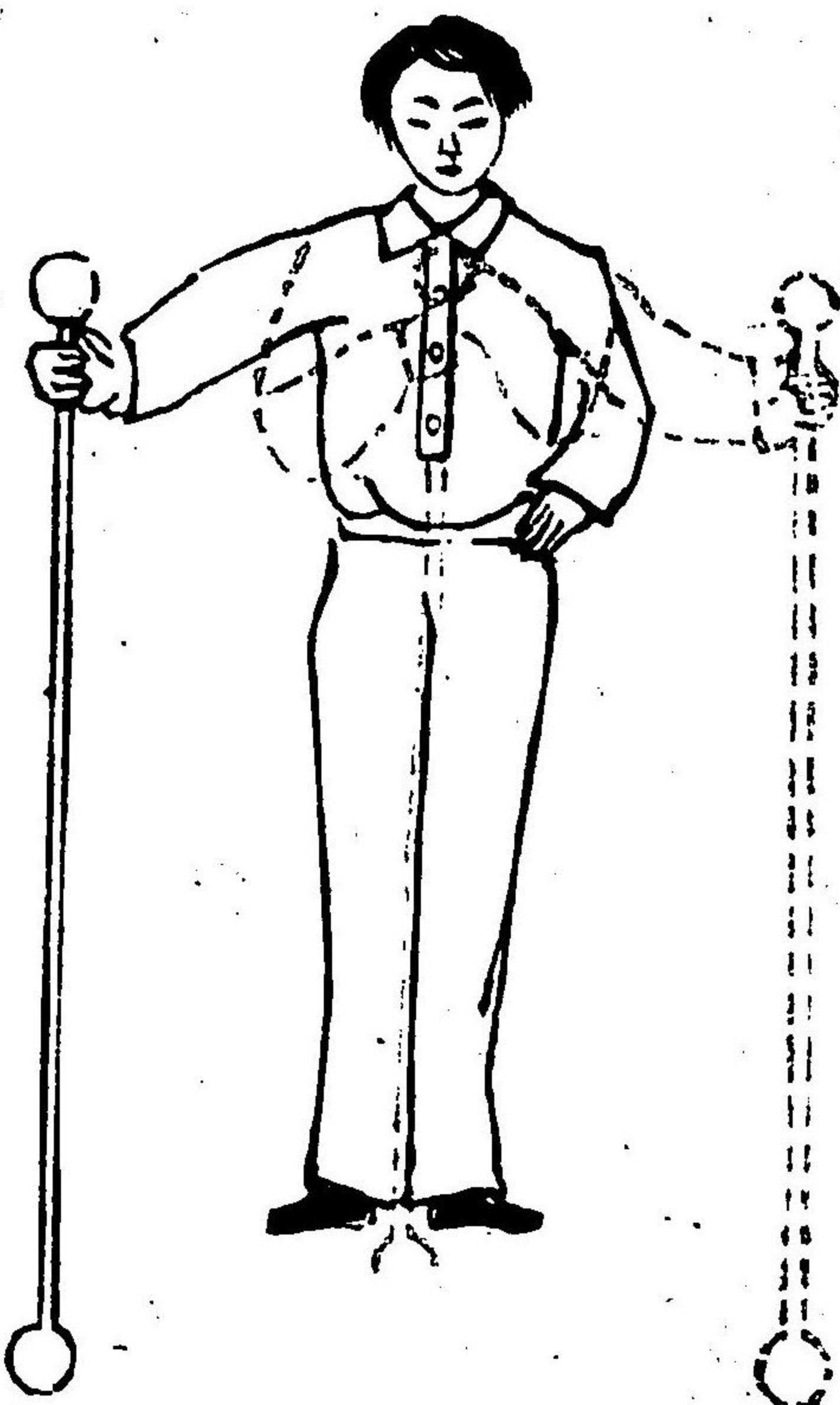
同十四



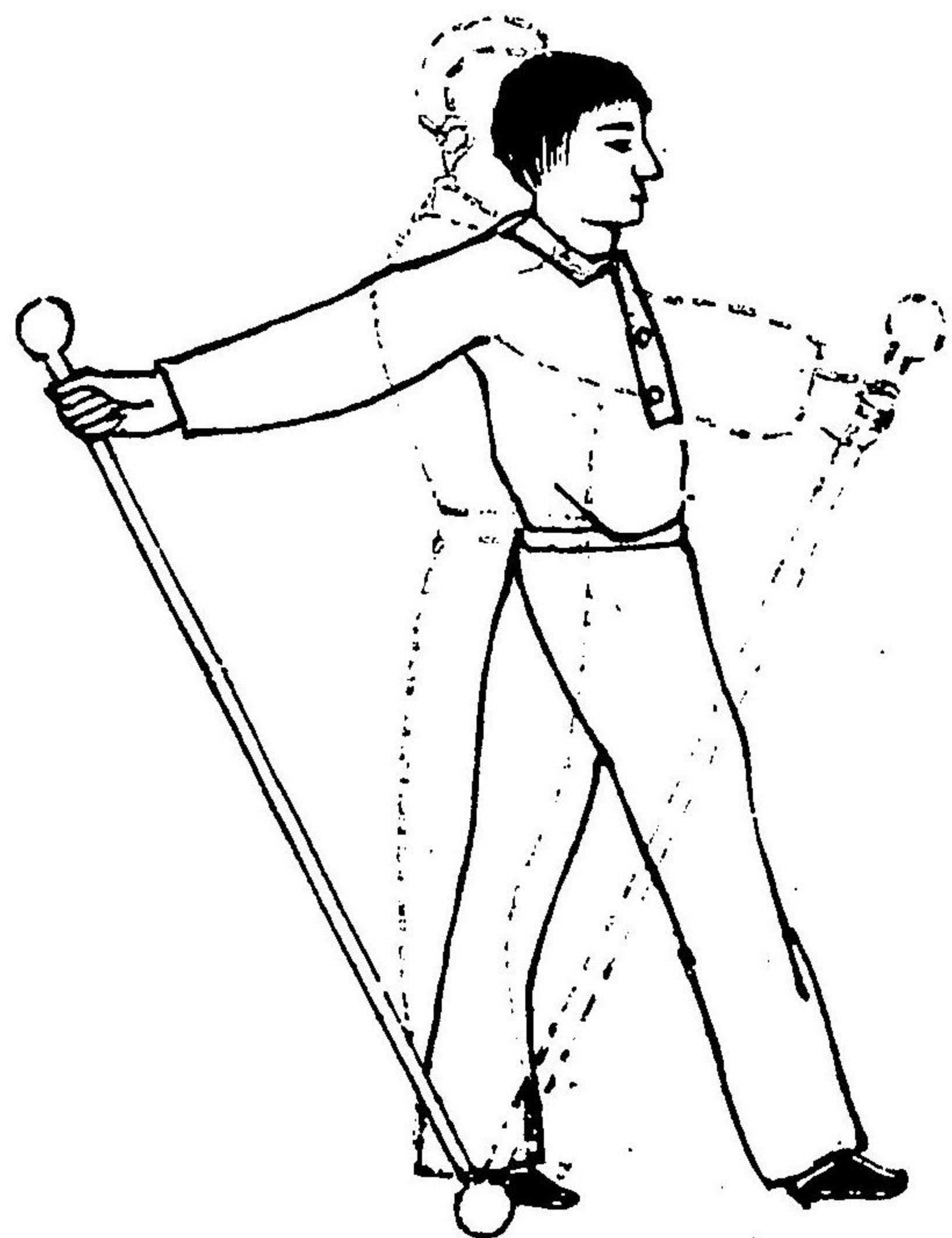
三十三

三十三

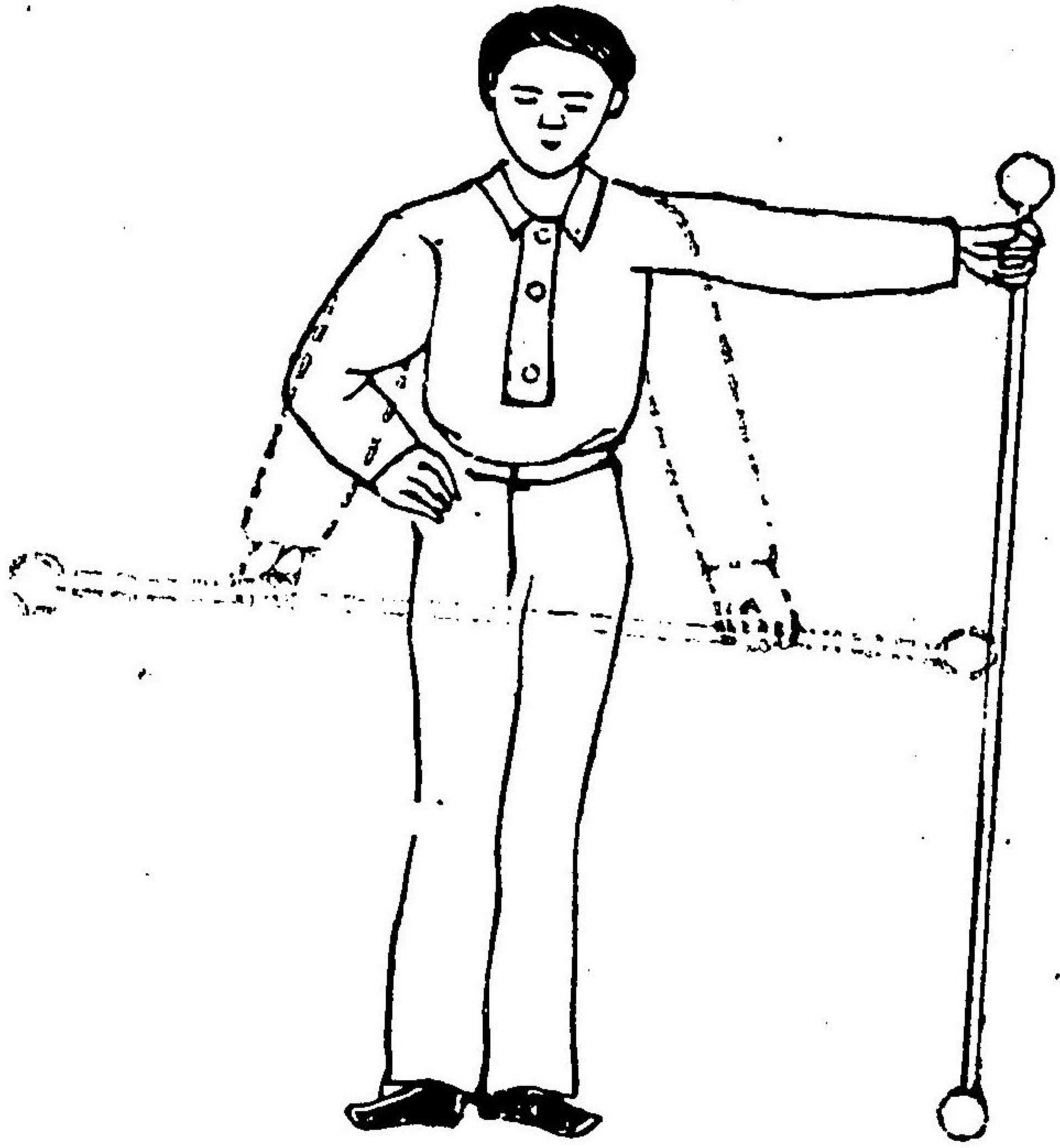
同十一回



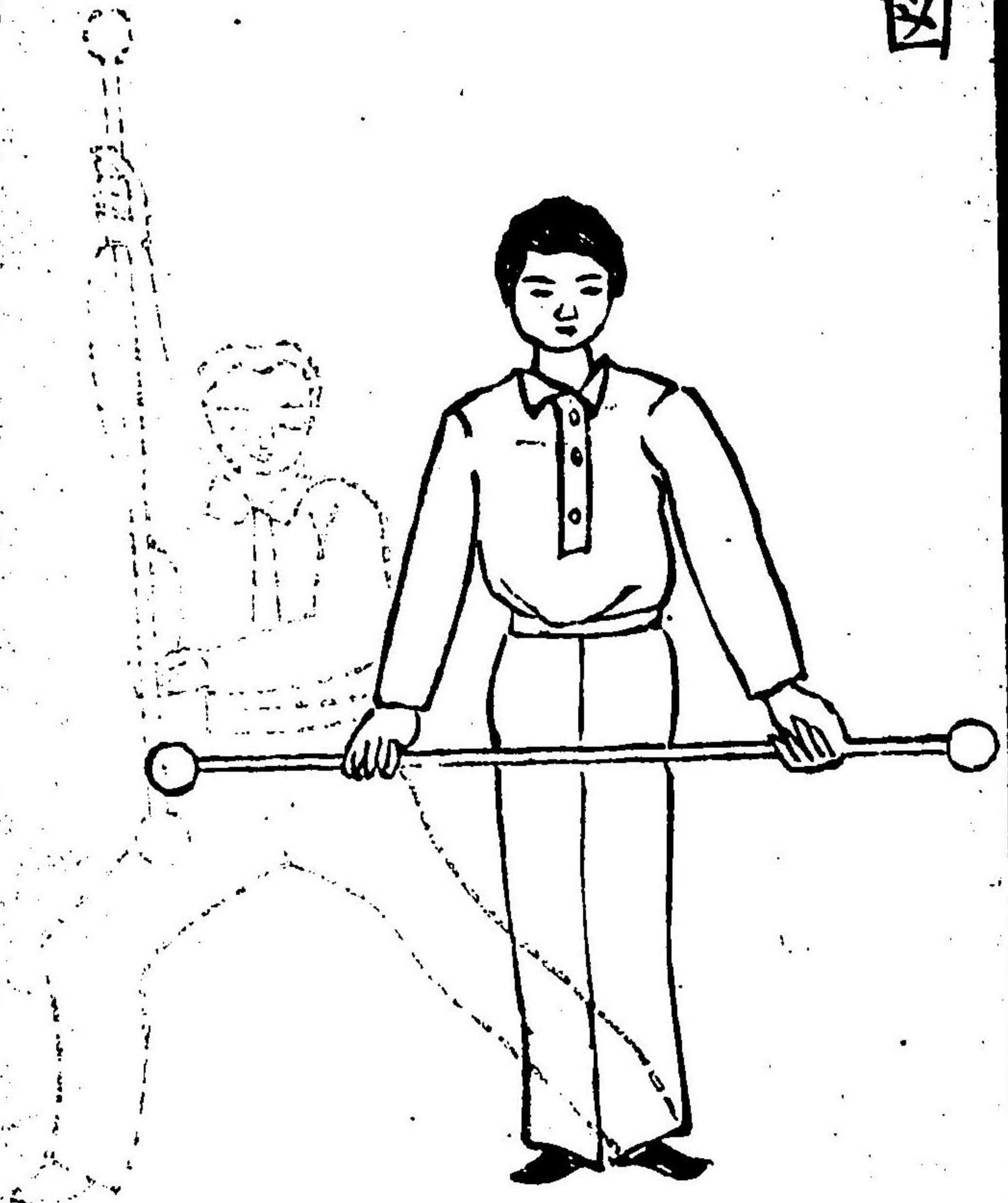
同十二回



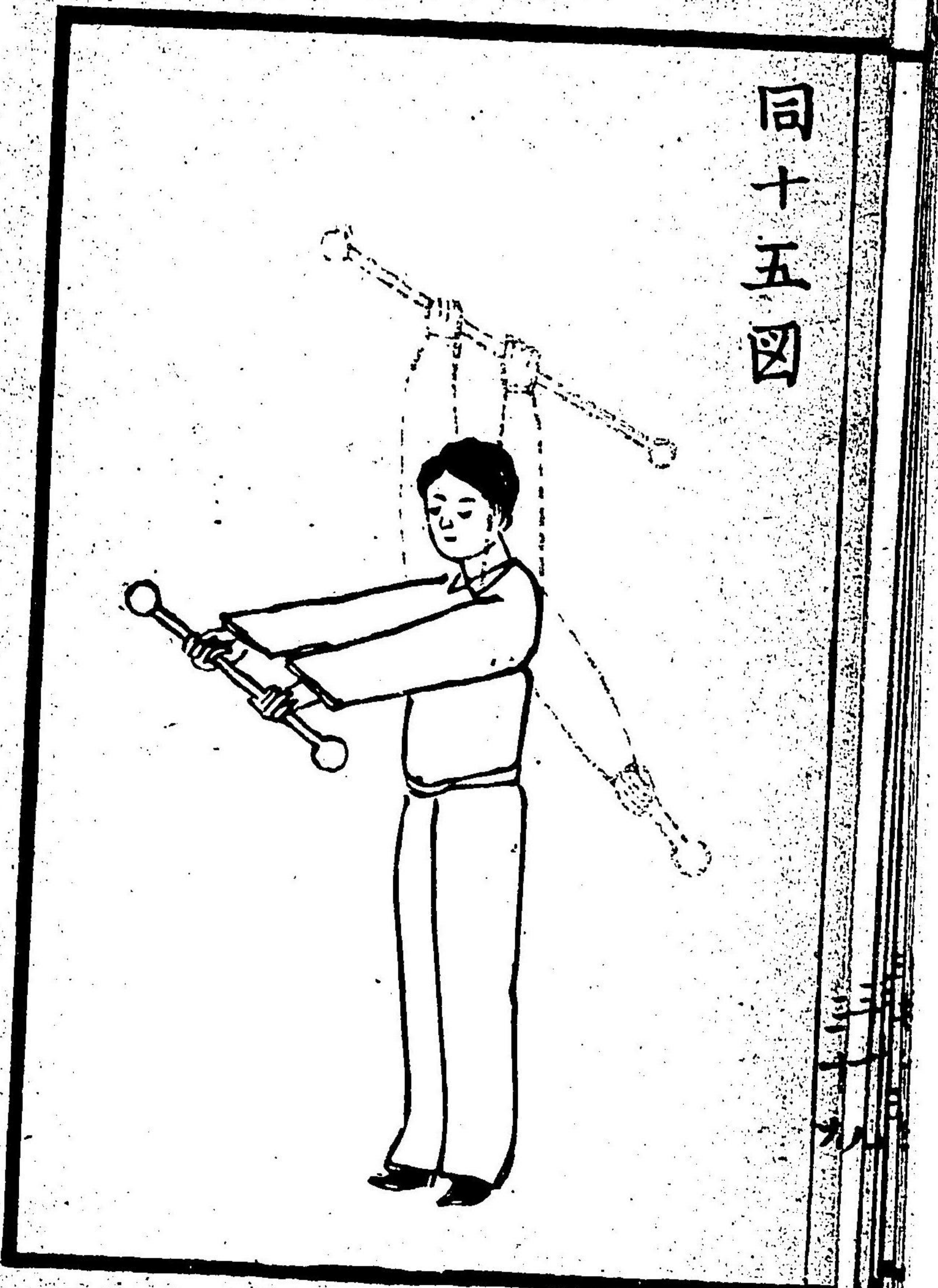
同十三圖



同十四圖



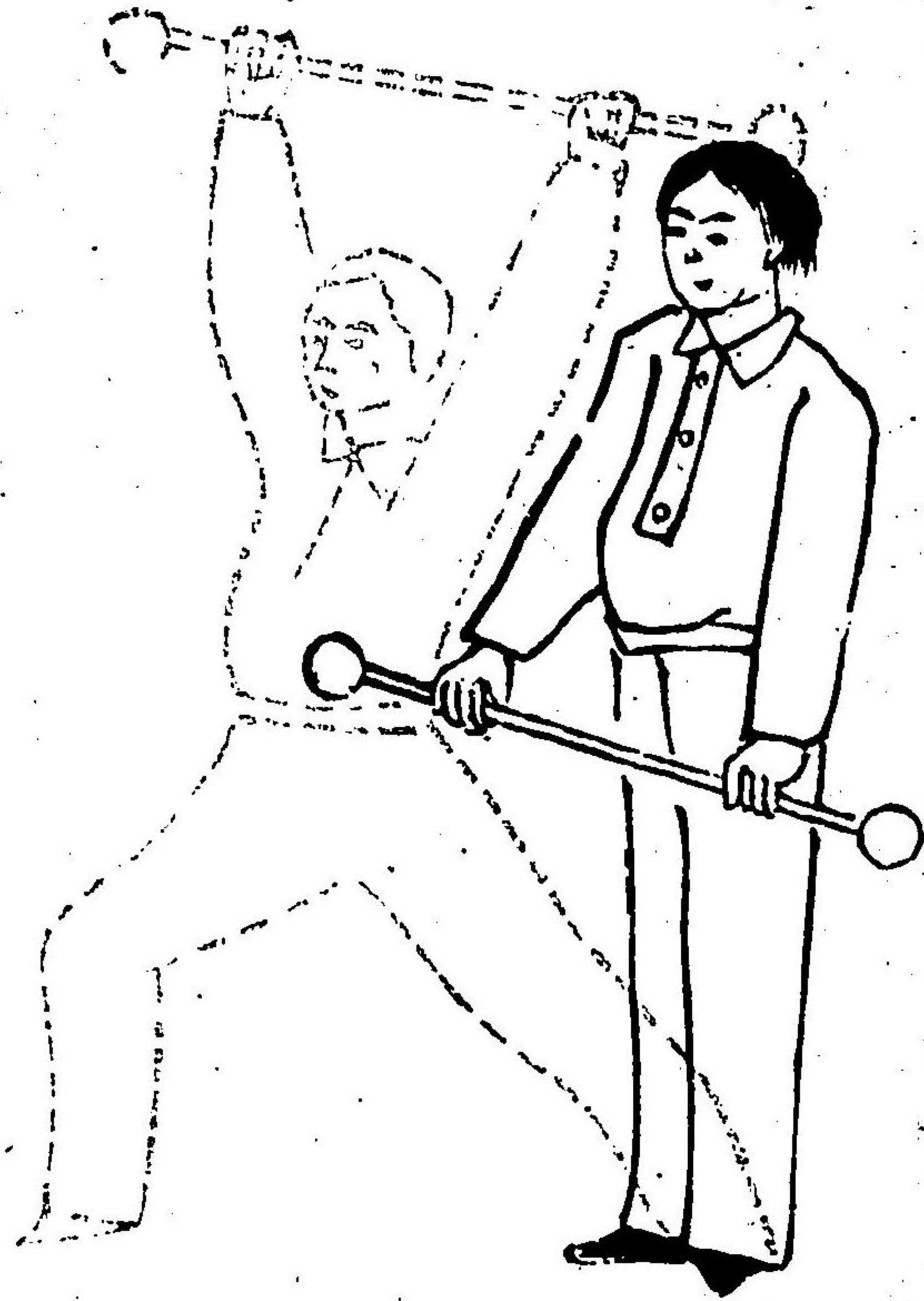
同十五圖



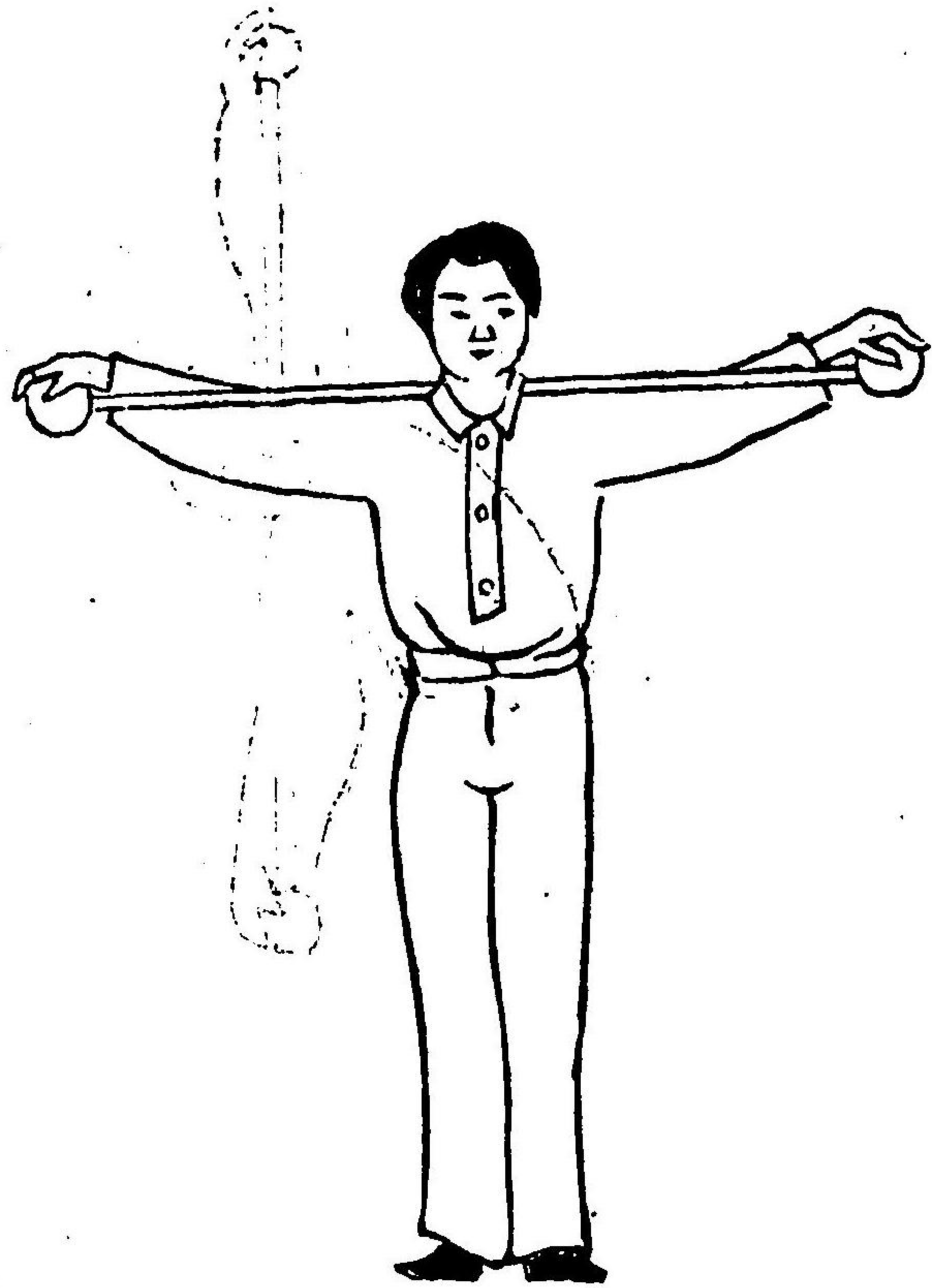
同十六圖



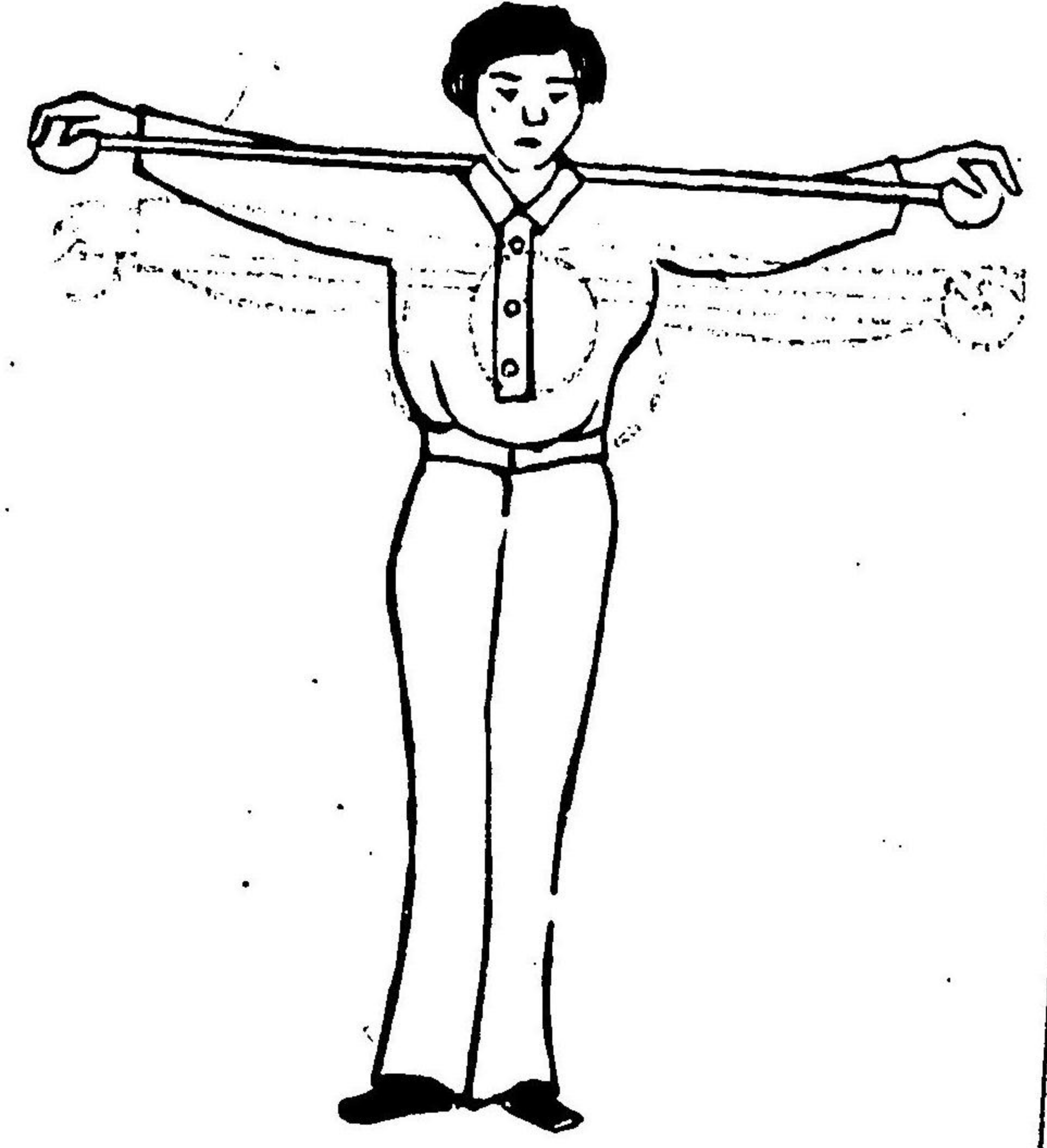
同十七圖



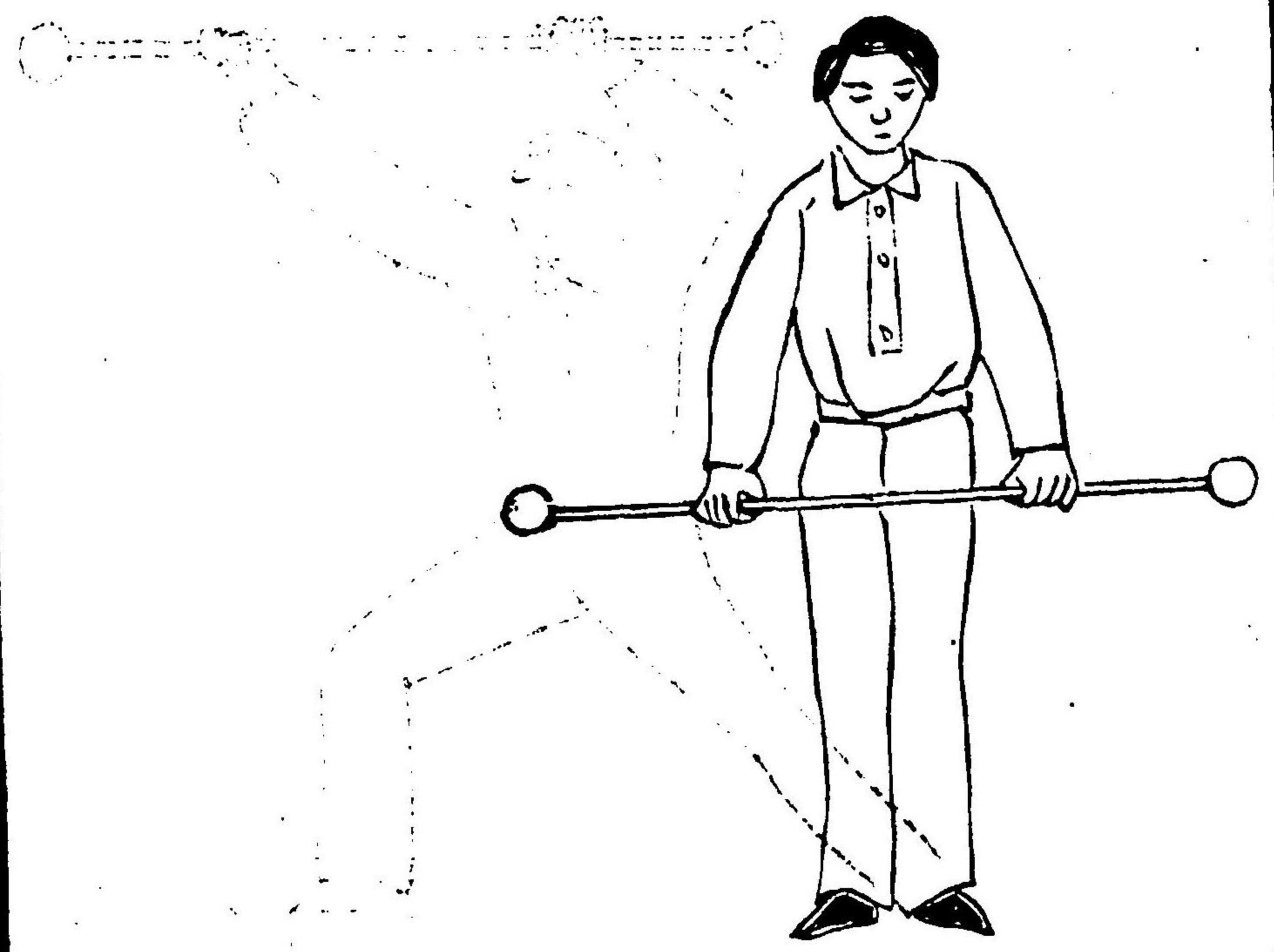
同十八圖



同十九回



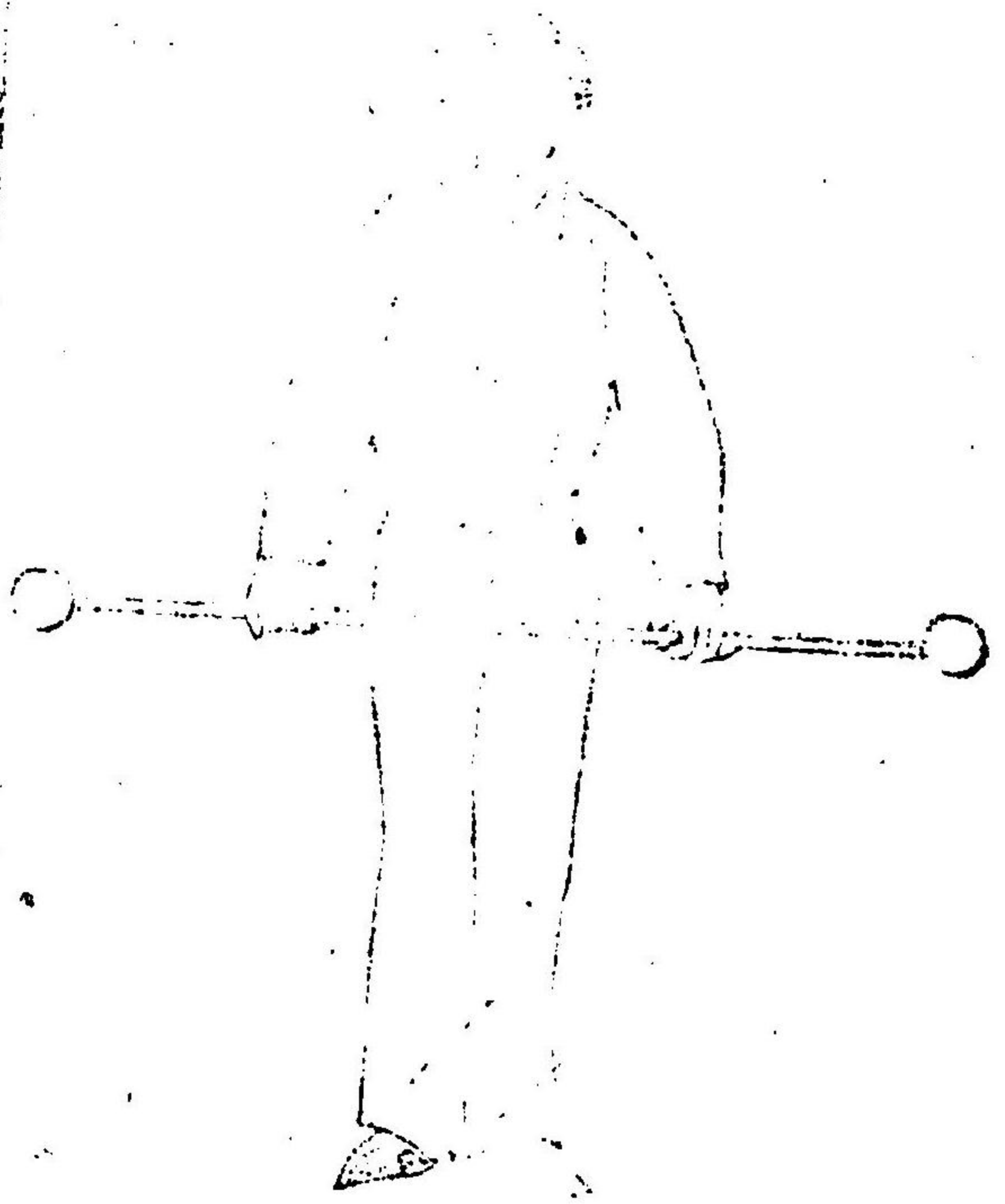
同二十四



同二十四

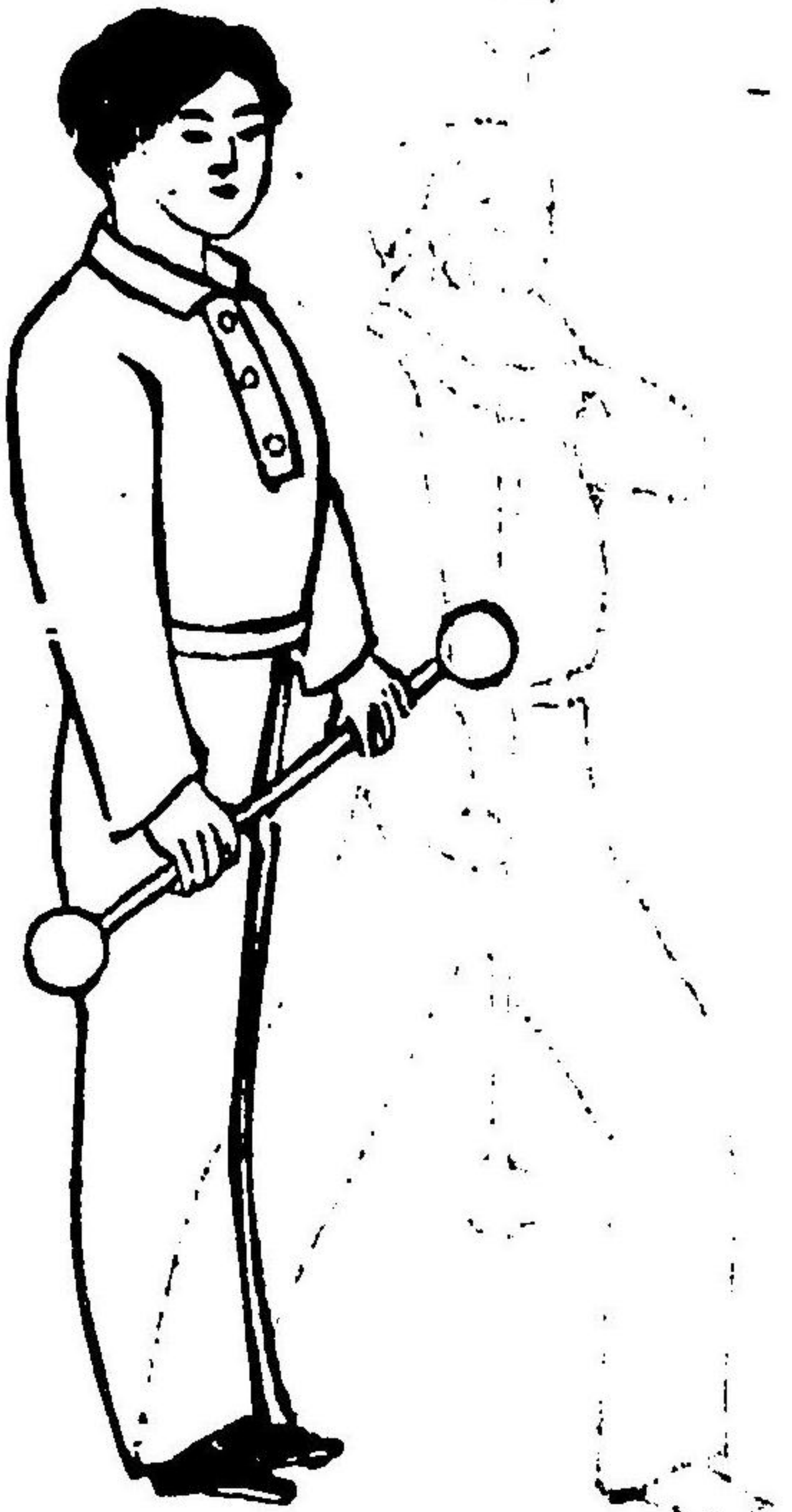


四十一圖



四十一

同二十一圖



四十一

明治十九年五月二十一日出版御届

定價金二十錢

東京府平民

編輯兼出版人

清水市次郎

芝罘岩下町四丁目三番地

其外各書林

鈴木喜右工門

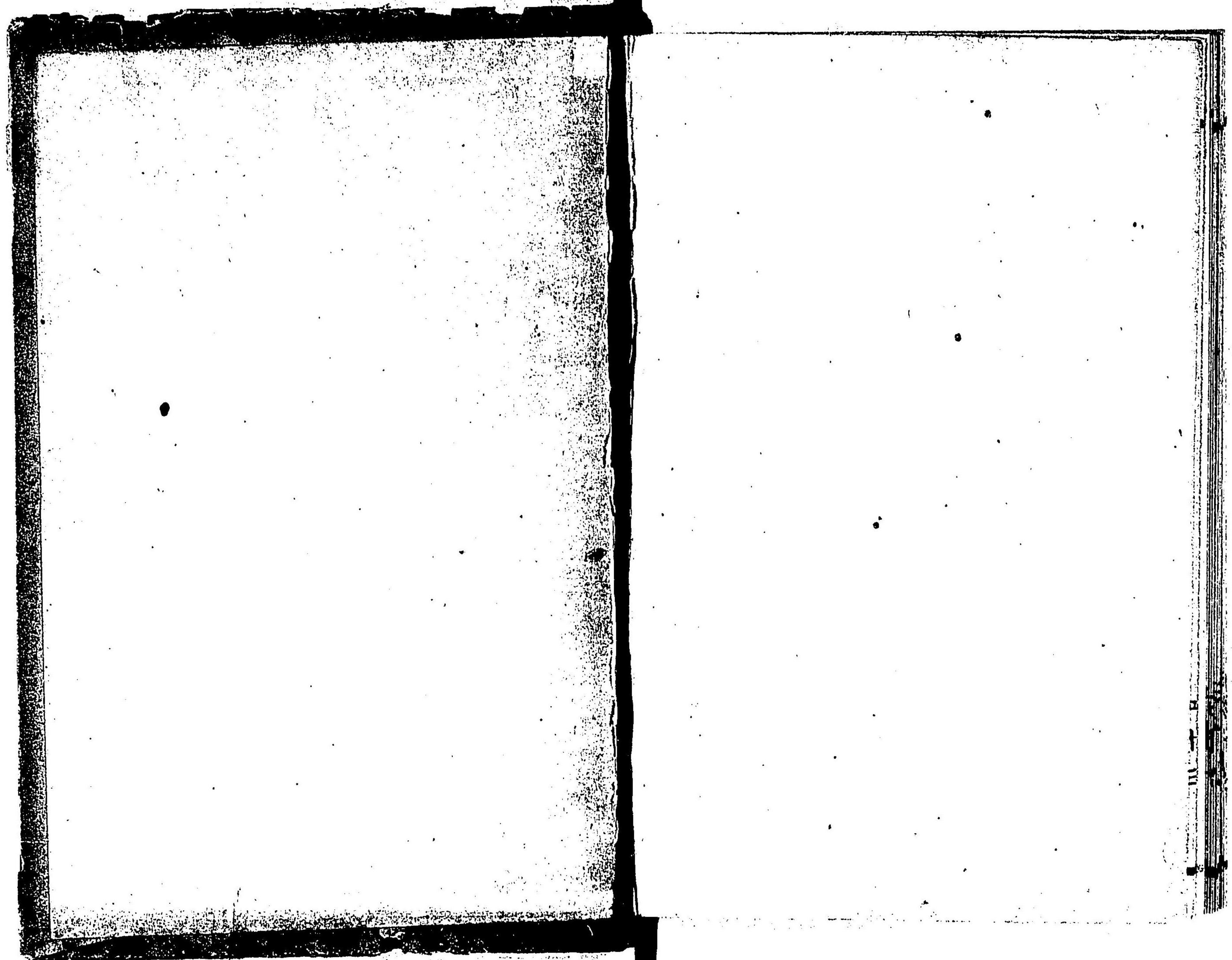
繪草紙店ニテ

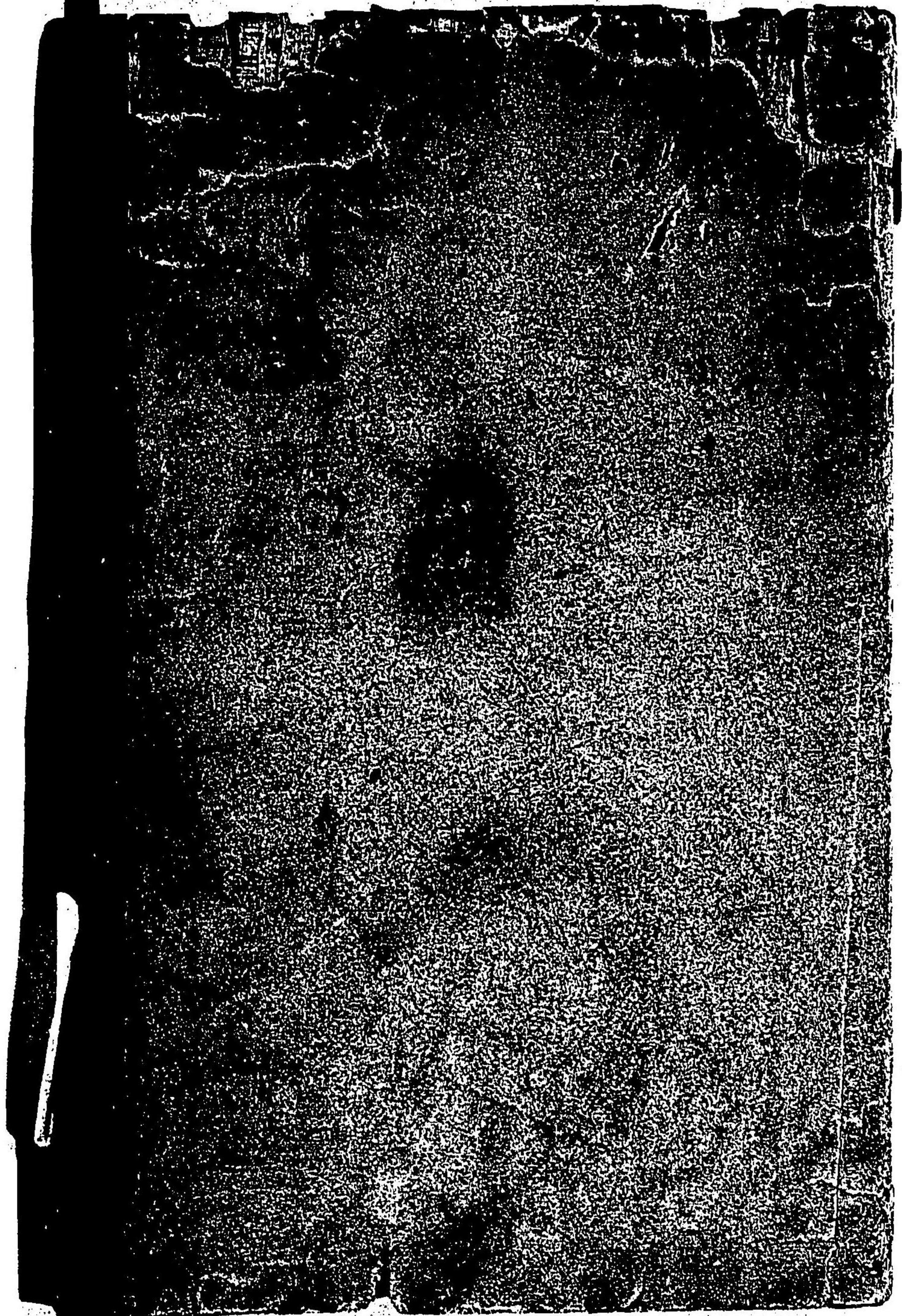
春鶴社堂

賣捌申候

上鬼屋

田屋誠





075592-000-6

特64-113

体操早学

清水 市次郎 / 刊

M19

CEM-0542

